資料3

保健医療に関する県民意識調査
報告書

平成 29 年 3 月

目次

調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

１　調査目的
２　調査の概要
３　報告書利用上の注意
４　調査結果

アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・７

あなたのことについて
１　「お住まいの地域における医療提供」について
２　「がん」に関することについて
３　「脳卒中」に関することについて
４　「心筋梗塞等の心血管疾患」に関することについて
５　「救急医療」に関することについて
６　「小児医療・小児救急医療」に関することについて
７　「かかりつけ医」のことについて
８　「かかりつけ薬局（かかりつけ薬剤師）」のことについて
９　「長期の療養場所」について
10　「医療と介護サービスの効率的な利用」について
11　「人生の最終段階の医療」について
12　「認知症に関する医療」について
13　「精神保健福祉及び精神医療」に関することについて
14　「臓器提供」について

調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９

調査の概要

１ 調査目的

熊本県保健医療計画の見直しにあたり、県民ニーズを踏まえたものとするため、保健医療に関する県民意識の調査を行うもの。

２ 調査の概要

○保健医療に関する県民意識調査アンケート概要

調査地域	熊本県
調査対象	熊本県在住
調査対象者数	3,000 人
回収数	1,509 人（回収率 50.3%）
調査方法	郵送発送・郵送回収
調査時期	平成 29 年 3 月

○アンケート回答者概要

圏域別	回答者（人）	構成比（%）
熊本圏域	130	8.6
宇城圏域	132	8.7
有明圏域	123	8.2
鹿本圏域	136	9.0
菊池圏域	128	8.5
阿蘇圏域	147	9.7
上益城圏域	131	8.7
八代圏域	127	8.4
芦北圏域	147	9.7
球磨圏域	140	9.3
天草圏域	150	9.9
無回答	18	1.2

性別	回答者（人）	構成比（%）
男性	653	43.3
女性	851	56.4
無回答	5	0.3
年代別	回答者	構成比
20 歳未満	22	1.5
20 歳代	80	5.3
30 歳代	139	9.2
40 歳代	151	10.0
50 歳代	222	14.7
60 歳代	388	25.7
70 歳以上	504	33.4
無回答	3	0.2

３ 報告書利用上の注意

○　端数処理の関係上、構成比（%）の計が 100%とならないことがあります。
○　図表の構成比（%）は小数第２位以下を四捨五入したものです。
○　複数回答の設問は、すべての構成比（%）を合計すると 100%を超える場合があります。
○　ｎは回答者数（母数）で、回答率（%）の分母を表したものです。
○　前回調査は平成 23 年 12 月に行い、3,015 人中 1,604 人から回答を得ています。

４ 調査結果

問１　（住まい）

全体では全圏域９％前後の回答を得ている。

問２　（性別）

女性が 56.4%、男性が 43.3%で女性の方が多かった。

問３　（年齢）

70 歳以上が 33.4%で最も多く、次に 60 歳代が 25.7%であった。

問４　（インターネットの利用）

「パソコン」、「携帯電話」共にインターネットを「利用していない」が 31.8%で最も多かった。

問 5-1　（医療機関での診療）

53.1%が「ある程度できる」、26.0%が「十分できる」と回答した。

問 5-2　（十分でない診療）

「皮ふ泌尿器科系」（51.4%）、「耳鼻咽喉科系」（50.6%）は５割を超えていた。

問 5-3　（十分な診療を受けることができない時）

「常時」（64.1%）が最も多く、次いで「休日・夜間」（22.8%）となっている。

問 6-1　（リハビリや在宅医療をするための医療機関）

「それらの医療機関が十分にあるため、探すことができると思う。」（36.4%）が最も多かった。

問 6-2　(在宅医療や在宅介護のサービス)
「地域の在宅医療や在宅介護の情報がよくわからない。」(29.0%) が最も多かった。

問 7　(がん対策についての取り組み)
「がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など)」(57.6%) が最も多く力を入れてほしいと思われている。

問 8　(脳卒中対策についての取り組み)
「予防・早期発見対策の推進」(75.1%) が最も多く力を入れてほしいと思われている。

問 9　(心筋梗塞等の心血管疾患対策についての取り組み)
「予防・早期発見対策の推進」(77.9%) が最も多く力を入れてほしいと思われている。

問 10-1 (救急医療の体制)
「ある程度整っている」(52.1%) が最も多く、次いで「十分でない」(32.3%)「十分整っている」(11.9%) となっている。

問 10-2 (救急医療の体制が十分でないと考える理由)
「重篤な救急患者を受け入れる病院が少ない」(63.0%)、「夜間に対応している医療機関が少ない」(62.8%) の回答が 6 割を超えている。

問 11　(小児医療について感じる不安)
「小児医療機関の選択肢が少ない」(36.9%) が、最も多くなっている。

問 12-1 (小児救急電話相談窓口)
「知らなかった」が 6 割を超えている。

問 12-2 (小児救急電話相談窓口の利用)
「利用する（したい)」が 6 割を超えている。

問 12-3 (小児救急電話相談窓口の利用)
「相談対象となる中学生までの子どもがいないから」(50.2%) が、最も多くなっている。

問 13　(かかりつけ医)
全体では 75.6%が「いる」と回答している。

問 13-2（医療機関）
「診療所（医院、クリニック）」（61.1％）、「病院」（36.2％）となっている。

問 13-3（かかりつけ医を決めている理由）
「必要なときは専門医や専門病院を紹介してくれるから」（48.0％）が最も多く、次いで「家から近いから」（43.5％）、「以前から家族が診察してもらっているから」（41.0％）となっている。

問 13-4（かかりつけ医を決めていない理由）
「あまり病気をしないので、特にその必要性を感じないから」（55.7％）が最も多く、5 割を超えている。

問 14　（かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師）
「決めている」（48.4％）、「決めていない」（47.4％）となっている。

問 15-1（お薬手帳）
「持っていて、普段から利用している」（64.7％）が最も多く、6 割を超えている。

問 15-2（お薬手帳を利用しない又は持っていない理由）
「めったに薬を服用しないから」（55.3％）が最も多く、5 割を超えている。

問 16-1（長期療養したい場所）
「自宅」（25.0％）が最も多かった。

問 16-2（家族を長期療養させたい場所）
「介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）」（30.1％）が最も多かった。

問 16-3（自宅療養のサービス）
「訪問看護、訪問リハビリテーション」（53.0％）、「ホームヘルパーによる入浴、食事、清掃等の訪問介護」（51.9％）が 5 割を超えている。

問 17　（多様なサービスの活用の必要性）
「そう思う」が 71.7％で最も多かった。

問 18　（地域包括支援センター）
「知っているが、利用したことはない」（30.4%）が最も多く、次いで「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」（30.2%）、「まったく知らない」（23.0%）となっている。

問 19-1（終末期の療養生活）
「自宅（状態が悪化した場合の短期的な病院・緩和ケア病棟への入院も含む）」（46.3%）が最も多かった。

問 19-2（家族の終末期の療養生活）
「自宅（状態が悪化した場合の短期的な病院・緩和ケア病棟への入院も含む）」（44.3%）が最も多かった。

問 20-1（自宅での最期）
過半数以上が「わからない」としている。また「できない」（30.9%）が、「できる」（6.2%）を大きく上回っている。

問 20-2（家族の自宅での最期）
半数近くが「わからない」としている。また「できない」（23.0%）が、「できる」（7.8%）を上回っている。

問 20-3（できない・わからない理由）
「家族に負担がかかる」（58.7%）が最も多かった。

問 21-1（延命治療）
「希望しない」（66.9%）が最も多く、6 割を超えている。

問 21-2（家族の延命治療）
「希望しない」（44.7%）が最も多かった。

問 22-1　（人生の最終段階の医療に関する意思表示の手段の準備）
「必要だと思うが、まだ準備していない」（59.7%）が最も多く、約 6 割になっている。

問 22-2（人生の最終段階の医に関する意思表示の手段）
「生前指示書（家族への手紙など）」（46.0%）が最も多かった。

問 23　（認知症の医療機関）
「認知症の専門医がいる医療機関」（53.9%）が最も多く、専門性が望まれている。

問 24　(認知症医療についての取組み)

「認知症の専門医や専門医療機関の充実」(57.0%) が最も多く、前の問と同じく専門性が望まれていることが分かる。

問 25　(精神保健福祉及び精神医療に関する施策)

「うつ病等の精神疾患の早期発見・早期治療」(56.1%)、「心の悩みや精神疾患に関する相談体制の充実」(55.3%)、「精神疾患や精神障がい者に関する正しい知識の普及啓発」(51.2%) が 5 割を超えており充実が望まれている。

問 26　(臓器提供意思表示カード)

「カード等のことは知っているが、持っていない」(47.6%) が最も多く、約半数が臓器提供意思表示カード等を持っていない。

アンケート調査結果

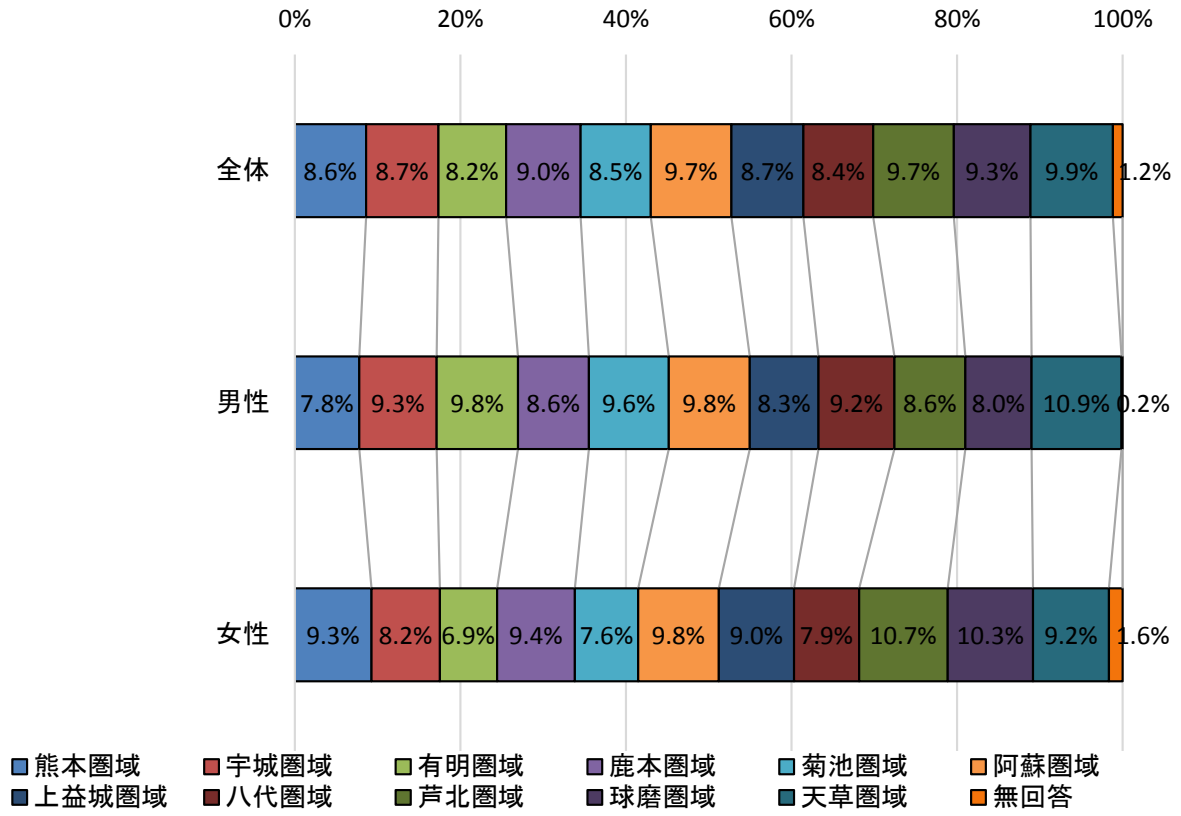
あなたのことについておたずねします。

【問 1】 あなたのお住まいの市町村名をご記入ください。

◆調査結果

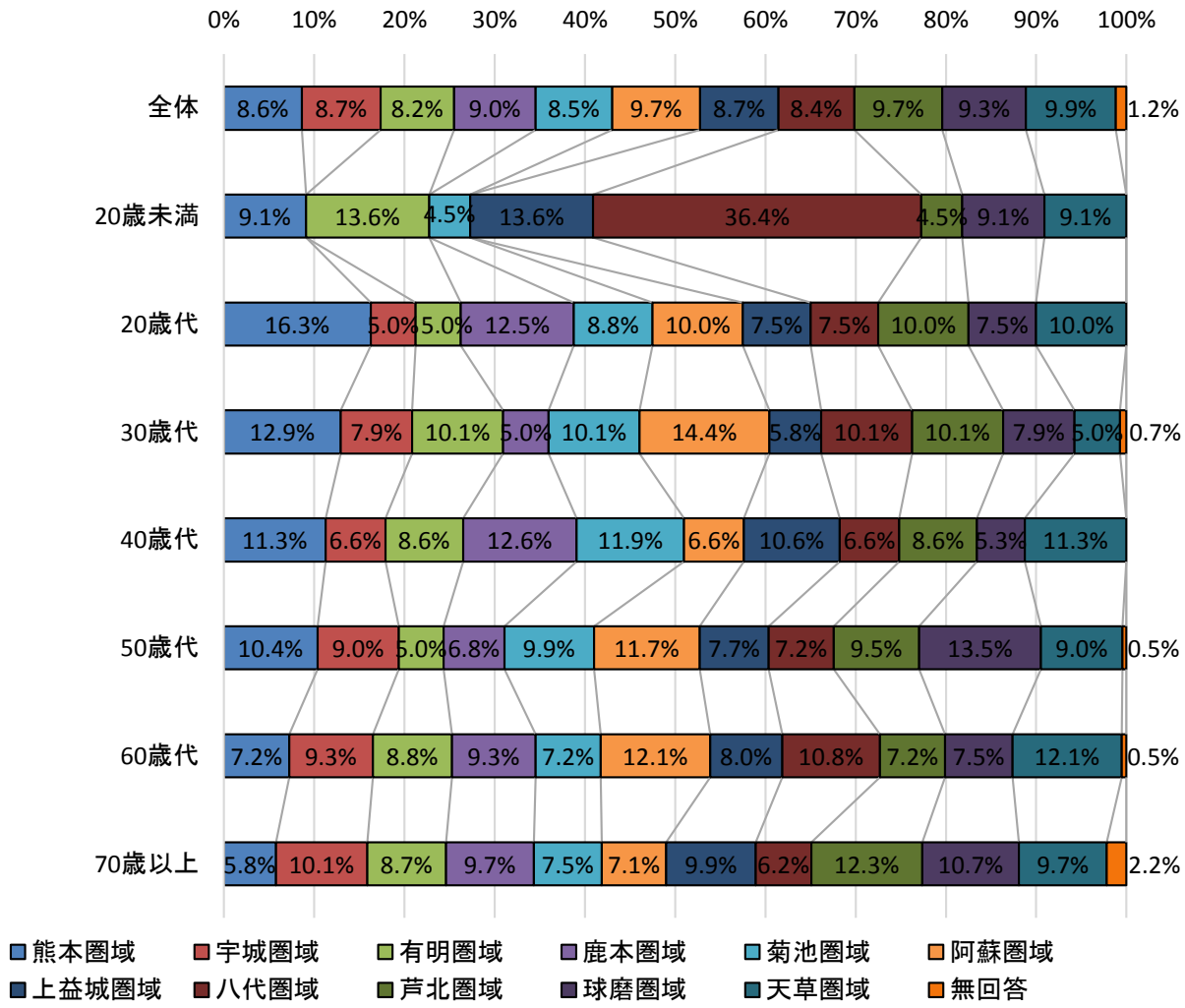
全体では全圏域９％前後の回答を得ている。全 11 圏域で 10%は超えない割合となった。

男女別に見ると、男性では「天草圏域」（10.9%）が 10%を超える割合となった。また、女性では、「芦北圏域」（10.7%）、「球磨圏域」（10.3%）が 10%を超えていた。また、男女別の圏域において「芦北圏域」の男性が 6.8%と他の割合に比べてやや低かった。

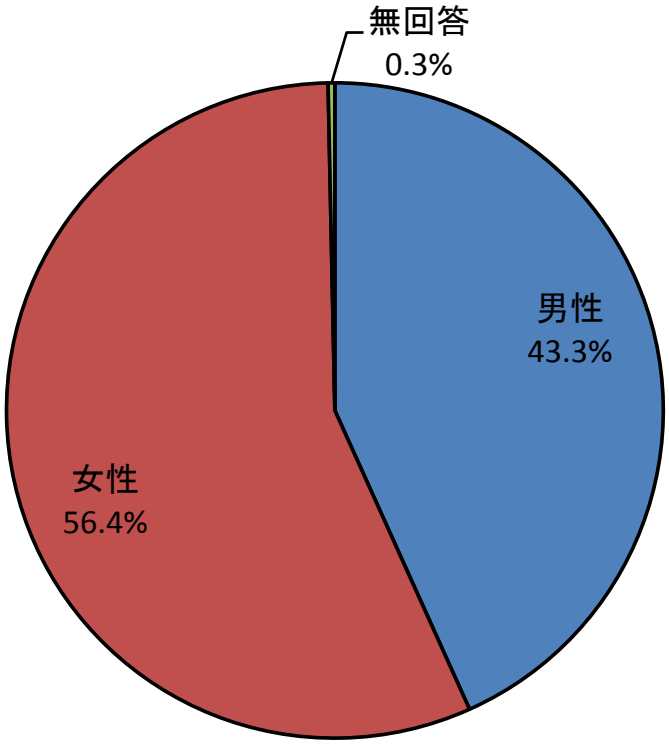


年齢別に見ると、「20 歳未満」は「八代圏域」（36.4%）、「20 歳代」は「熊本圏域」（16.3%）、「30 歳代」は「阿蘇圏域」（14.4%）、「40 歳代」は「鹿本圏域」（12.6%）、「50 歳代」は「球磨圏域」（13.5%）、「60 歳代」は「阿蘇圏域」、「天草圏域」（12.1%）、「70 歳以上」は「芦北圏域」（12.3%）が最も多い割合であった。

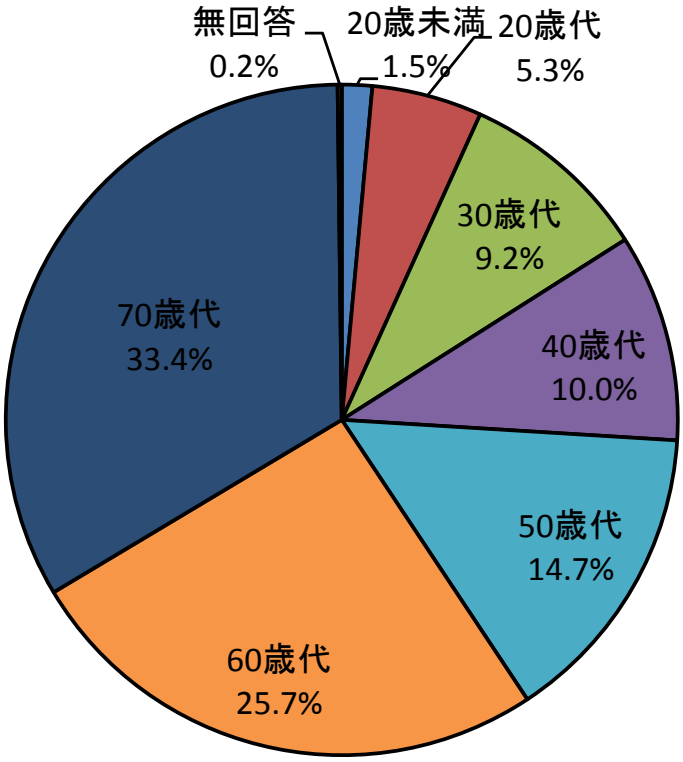
また、「20 歳未満」の「鹿本圏域」の回答はなかった。



【問 2】 あなたの性別を教えてください。



【問 3】 あなたの年齢（年代）を教えてください。

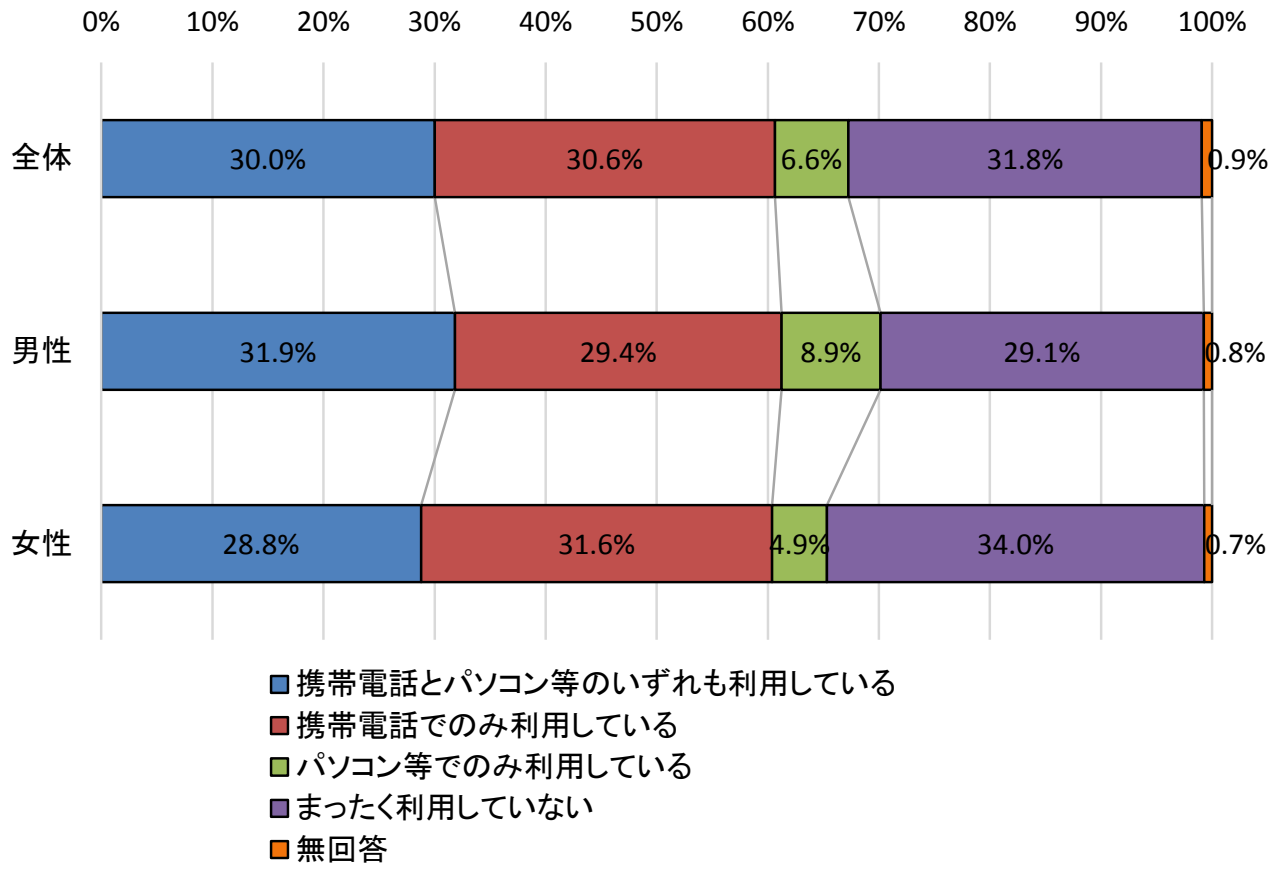


【問 4】 あなたは、携帯電話もしくはパソコンでインターネットを利用していますか。

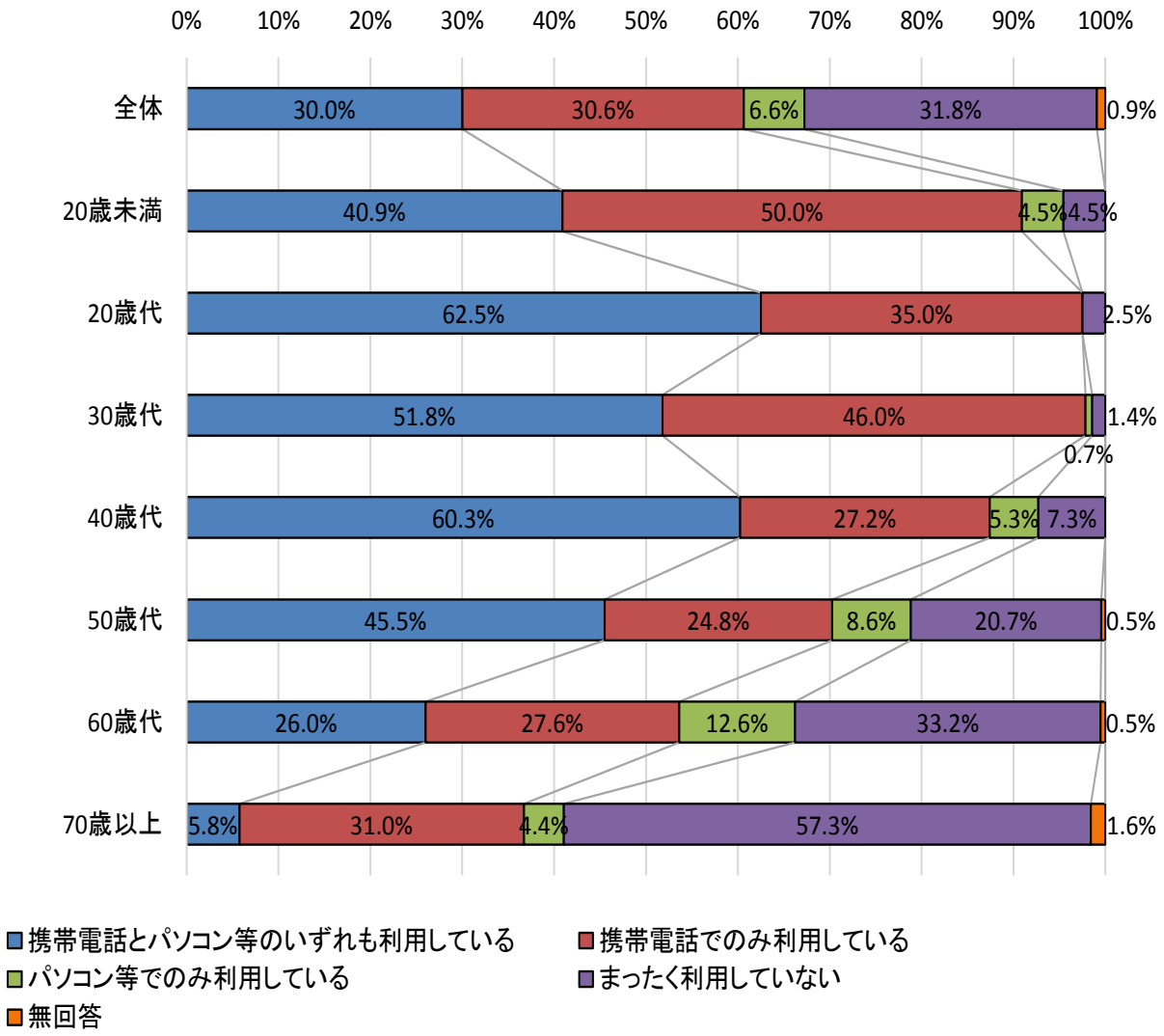
◆調査結果

全体では、「まったく利用していない」割合が最も高く 31.8%、次いで「携帯電話のみ利用している」が 30.6%、「携帯電話とパソコン等いずれも利用している」30.0%となった。

男女別に見ると、男性女性に差は見られなかった。



年齢別に見ると、年齢が 60 歳を超えると「携帯電話とパソコン等いずれも利用している」の割合が減り、70 歳以上では 5.8%しかなかった。「まったく利用していない」割合は 20 歳代から 40 歳代においては 1 割以下であったのに対し、50 歳代から増え、70 歳以上では 5 割（57.3%）を超える結果となった。



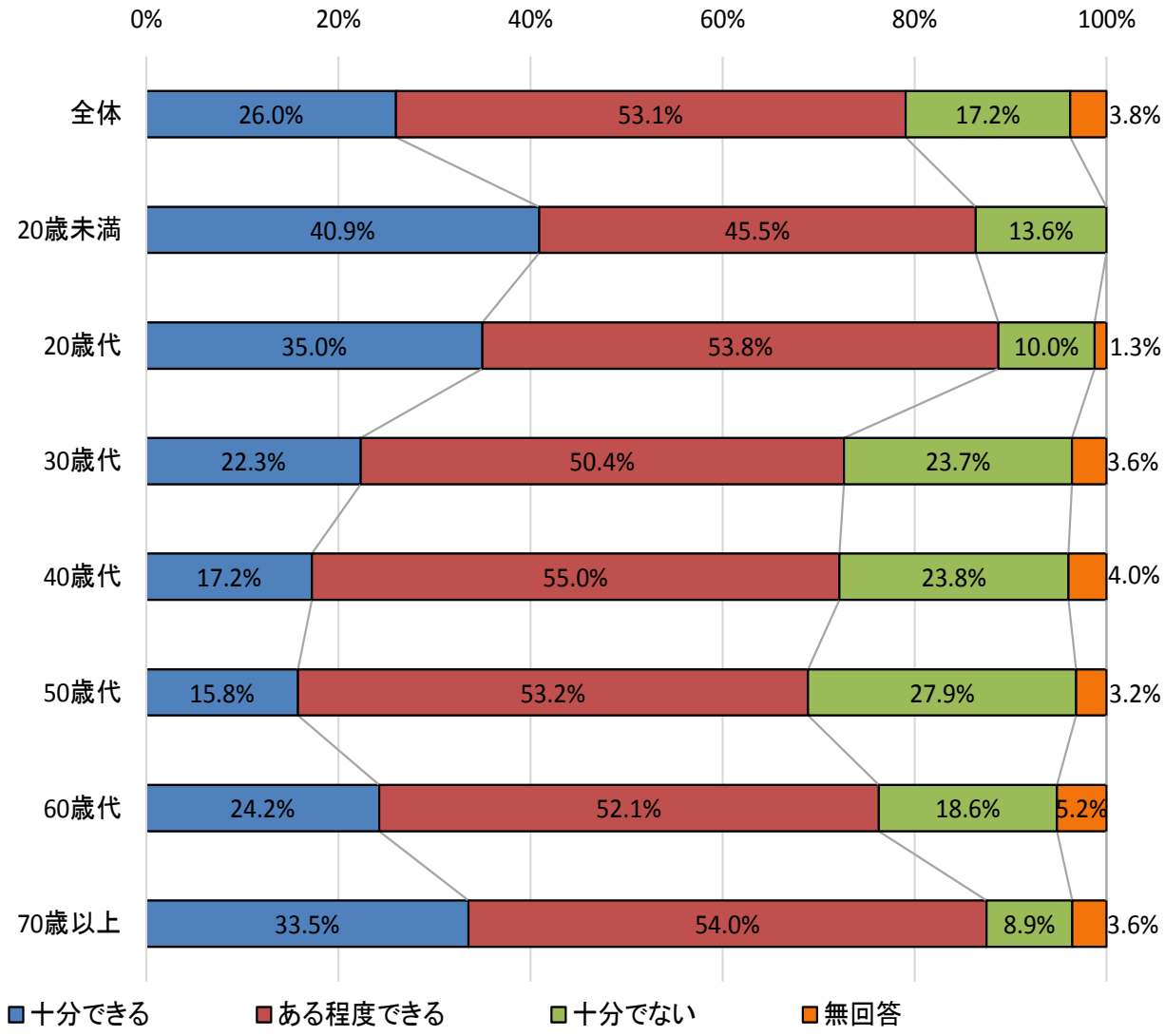
１．「お住まいの地域における医療提供」についておたずねします。

【問５－１】 お住まいの地域の医療機関で、必要な診療を十分に受けることできますか。

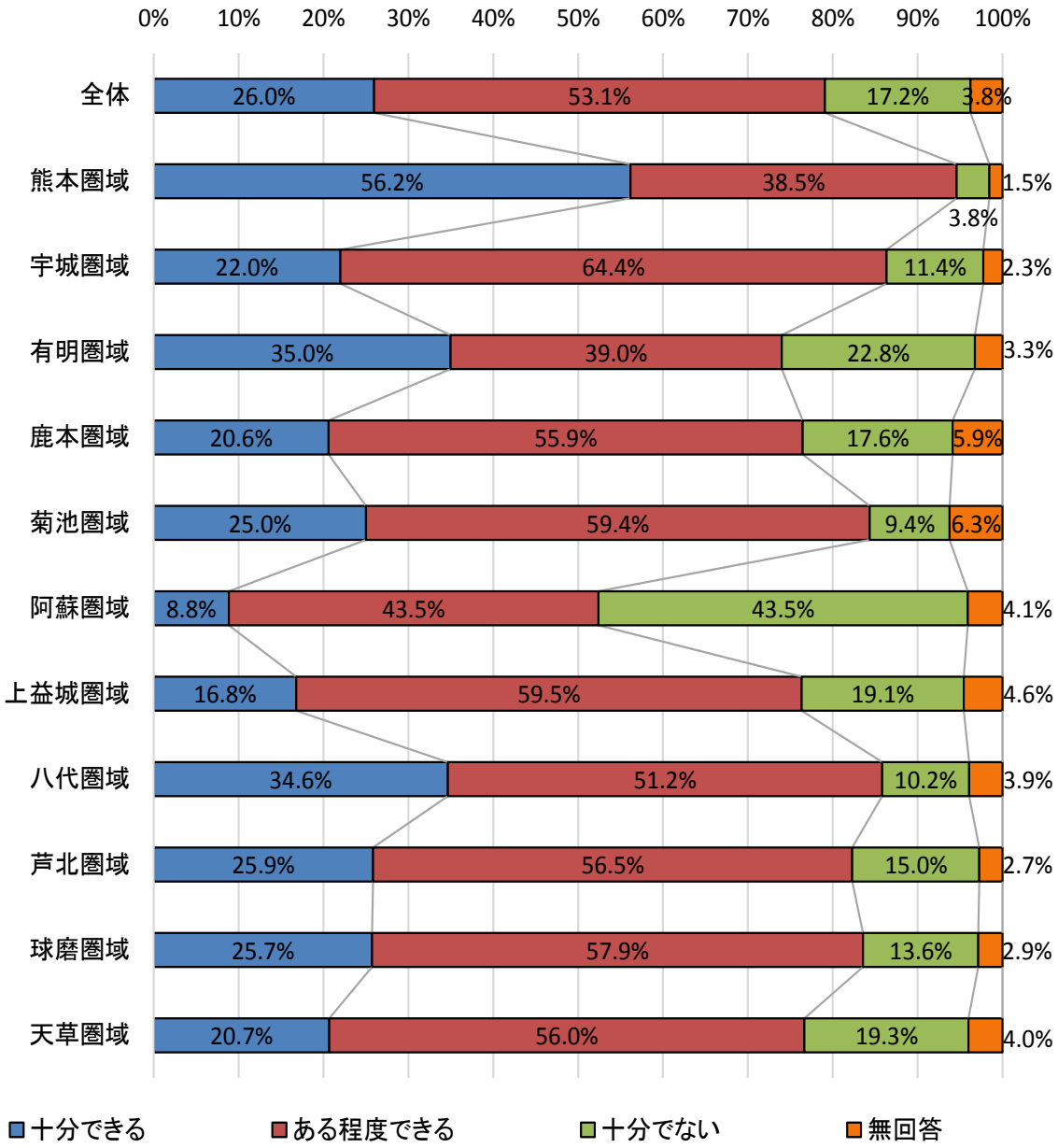
◆調査結果

全体では「十分にできる」と答えたのは 26.0%、「ある程度できる」は 53.1%、「十分ではない」は 17.2%であった。

年齢別に見ると、「40 歳代」、「50 歳代」において「十分にできる」割合が他の年代に比べてやや低くなっており 2 割を下回った。「十分でない」と回答した割合は「30 歳代」、「40 歳代」、「50 歳代」で 2 割を上回っていた。



また、圏域別に見ると、「熊本圏域」においては「十分にできる」割合は、56.2%で5割を上回っていたのに対し、「阿蘇圏域」では8.8%と1割を下回っていた。「十分でない」割合では「阿蘇圏域」が43.5%と最も高く、「熊本圏域」では3.8%と最も低かった。

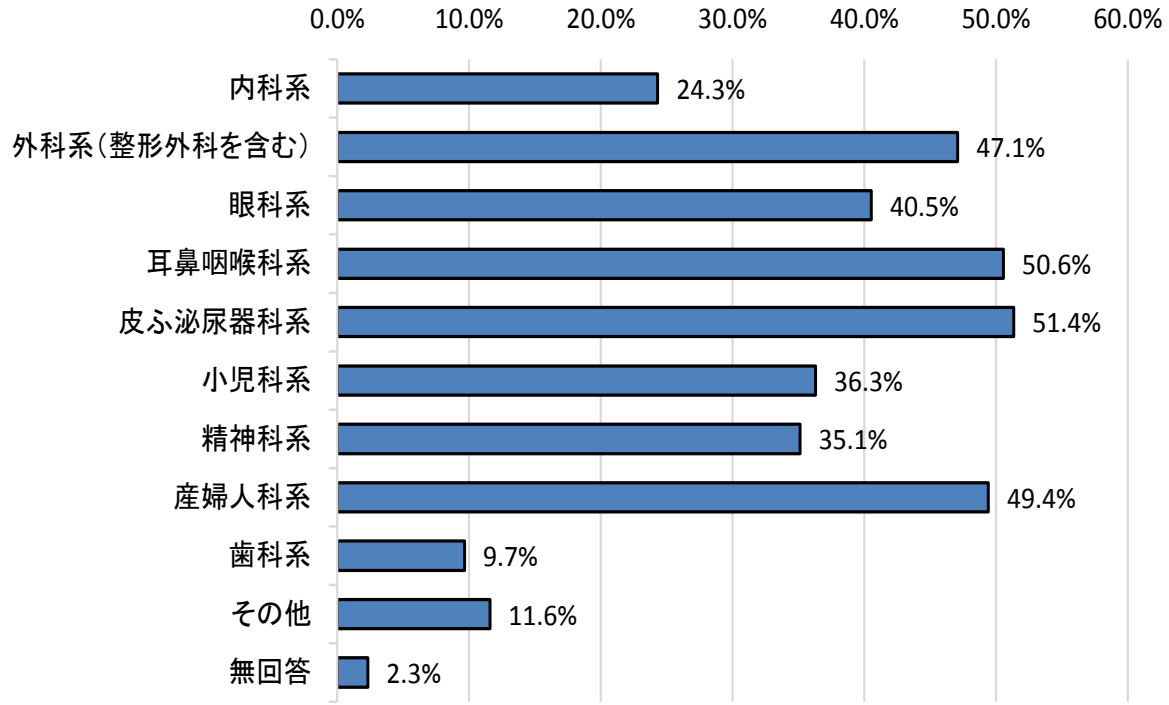


【問５－２】「問5－1」で「3. 十分でない」と答えた方におたずねします。どの診療科が十分でないと考えますか。当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

問 5-1 で「十分でない」と答えた 259 人に対し、どの診療科が十分でないかと尋ねたところ、「皮ふ泌尿器科系」最も高く 51.4%、次いで「耳鼻咽喉科」50.6%、「産婦人科」が 49.4%の順であった。

圏域別に見ると、「内科系」は「球磨圏域」で 47.4%、「外科系（整形外科を含む）」は「芦北圏域」で 59.1%、「眼科系」は「阿蘇圏域」で 57.8%、「耳鼻咽喉科系」は「阿蘇圏域」で 71.9%、「皮ふ泌尿器科系」は「阿蘇圏域」で 65.6%、「小児科系」は「鹿本圏域」で 50.0%、「精神科系」は「天草圏域」で 65.5%、「歯科系」は「菊池圏域」で 25.0%が最も高い割合であった。



（上段：人　下段：%）

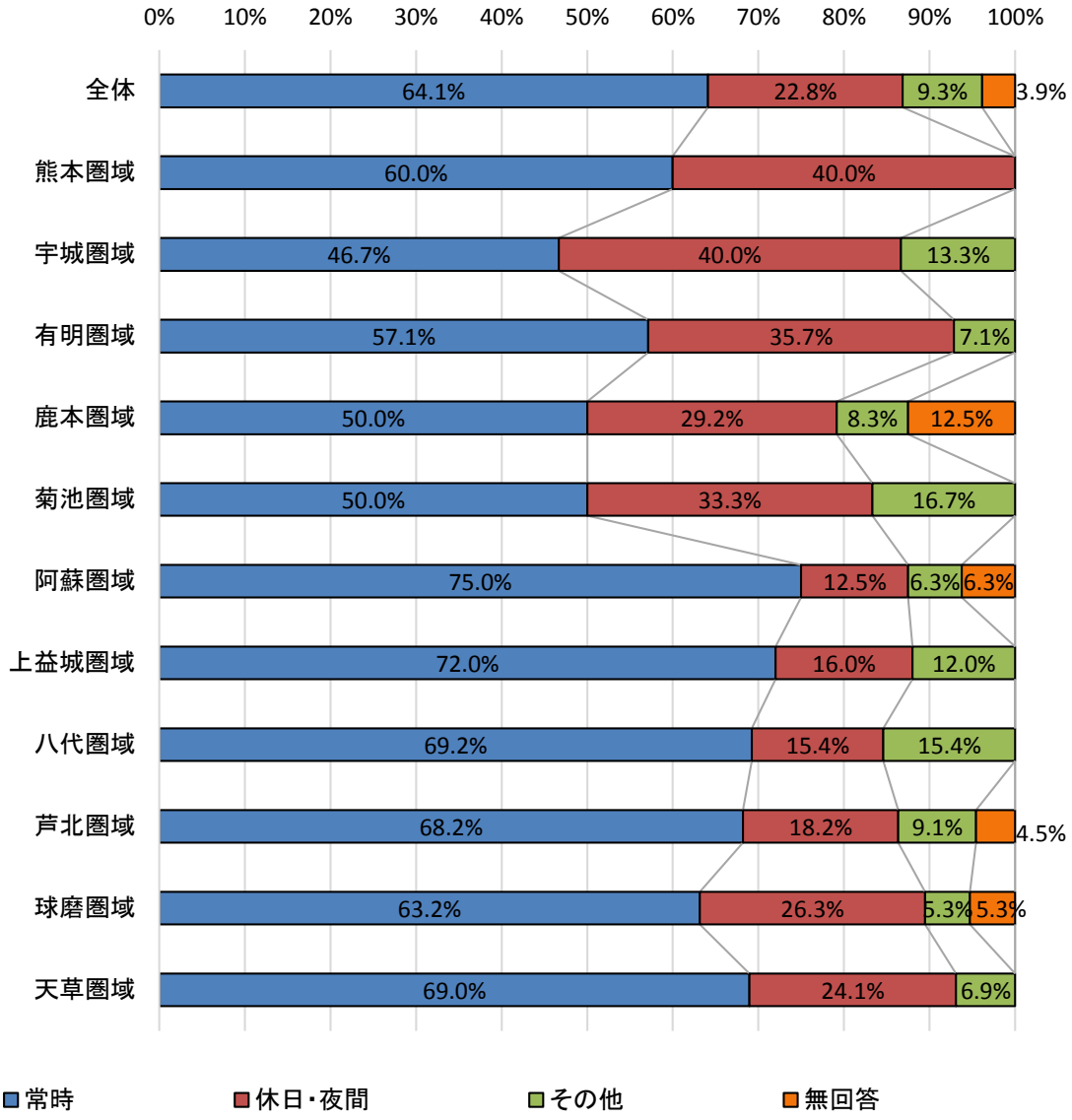
		標本数（人）	内科系	外科系（整形外科を含む）	眼科系	耳鼻咽喉科系	皮ふ泌尿器科系	小児科系	精神科系	産婦人科系	歯科系	その他	無回答
全体（単純集計）		259	63	122	105	131	133	94	91	128	25	30	6
			24.3%	47.1%	40.5%	50.6%	51.4%	36.3%	35.1%	49.4%	9.7%	11.6%	2.3%
居住地域	熊本圏域	5	2	2	2	3	2	1	0	1	1	2	0
			40.0%	40.0%	40.0%	60.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%
	宇城圏域	15	2	6	7	6	5	2	3	3	2	2	1
			13.3%	40.0%	46.7%	40.0%	33.3%	13.3%	20.0%	20.0%	13.3%	13.3%	6.7%
	有明圏域	28	6	14	11	14	17	13	12	14	1	3	0
			21.4%	50.0%	39.3%	50.0%	60.7%	46.4%	42.9%	50.0%	3.6%	10.7%	0.0%
	鹿本圏域	24	4	6	8	6	7	12	6	11	1	3	1
			16.7%	25.0%	33.3%	25.0%	29.2%	50.0%	25.0%	45.8%	4.2%	12.5%	4.2%
	菊池圏域	12	4	6	4	5	5	2	3	5	3	3	0
			33.3%	50.0%	33.3%	41.7%	41.7%	16.7%	25.0%	41.7%	25.0%	25.0%	0.0%
	阿蘇圏域	64	18	35	37	46	42	28	27	37	6	5	0
			28.1%	54.7%	57.8%	71.9%	65.6%	43.8%	42.2%	57.8%	9.4%	7.8%	0.0%
	上益城圏域	25	5	8	7	10	11	11	9	16	1	0	0
			20.0%	32.0%	28.0%	40.0%	44.0%	44.0%	36.0%	64.0%	4.0%	0.0%	0.0%
	八代圏域	13	2	5	4	4	5	1	4	4	1	3	1
			15.4%	38.5%	30.8%	30.8%	38.5%	7.7%	30.8%	30.8%	7.7%	23.1%	7.7%
	芦北圏域	22	2	13	5	15	14	5	8	12	4	2	1
			9.1%	59.1%	22.7%	68.2%	63.6%	22.7%	36.4%	54.5%	18.2%	9.1%	4.5%
	球磨圏域	19	9	11	6	5	10	6	5	6	2	3	2
			47.4%	57.9%	31.6%	26.3%	52.6%	31.6%	26.3%	31.6%	10.5%	15.8%	10.5%
	天草圏域	29	9	16	13	16	15	13	14	19	3	3	0
			31.0%	55.2%	44.8%	55.2%	51.7%	44.8%	48.3%	65.5%	10.3%	10.3%	0.0%

【問５－３】「問５－１」で「３．十分でない」と答えた方におたずねします。どのような時に、十分な診療を受けることができないと感じますか。

◆調査結果

問 5-1 で「十分でない」と答えた 259 人に対し、どのような時に十分でないと尋ねたところ、「常時」が最も高く 64.1%、次いで「休日・夜間」22.8%、「その他」が 9.3%の順であった。

圏域別に見ると、「常時」十分でないと感じている人の割合が「阿蘇圏域」で最も多く 75.0%、次いで「上益城圏域」で 72.0%、「八代圏域」で 69.2%、「天草圏域」で 69.0%の順であった。

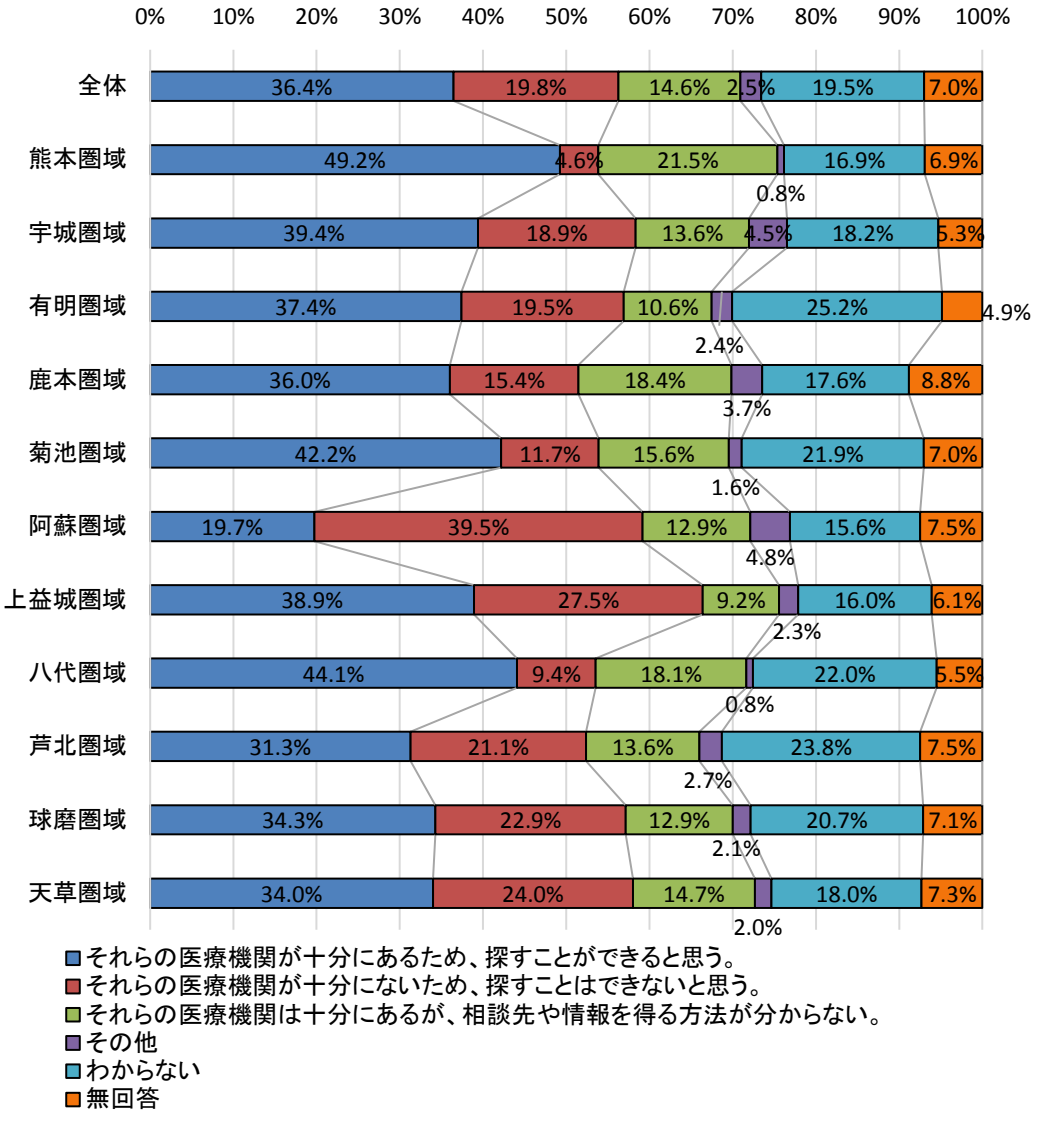


【問６－１】 退院した後に、お住まいの地域でリハビリや在宅療養をするための医療機関を探すことができると思いますか。

◆調査結果

全体では「それらの医療機関が十分にあるため、探すことができると思う」と答えたのは 36.4%、「それらの医療機関が十分にないため、探すことはできないと思う」は 19.8%、「それらの医療機関は十分にあるが、相談先や情報を得る方法が分からない」は 14.6%であった。

圏域別別に見ると、「それらの医療機関が十分にあるため、探すことができると思う」において「熊本圏域」（49.2%）、「菊池圏域」（42.2%）、「八代圏域」（44.1%）の３つの圏域において４割を超える結果となった。「それらの医療機関が十分にないため、探すことはできないと思う」については「阿蘇圏域」が他の圏域に比べ最も高く 39.5%であった。最も割合が低かったのは「熊本圏域」で 4.6%であった。

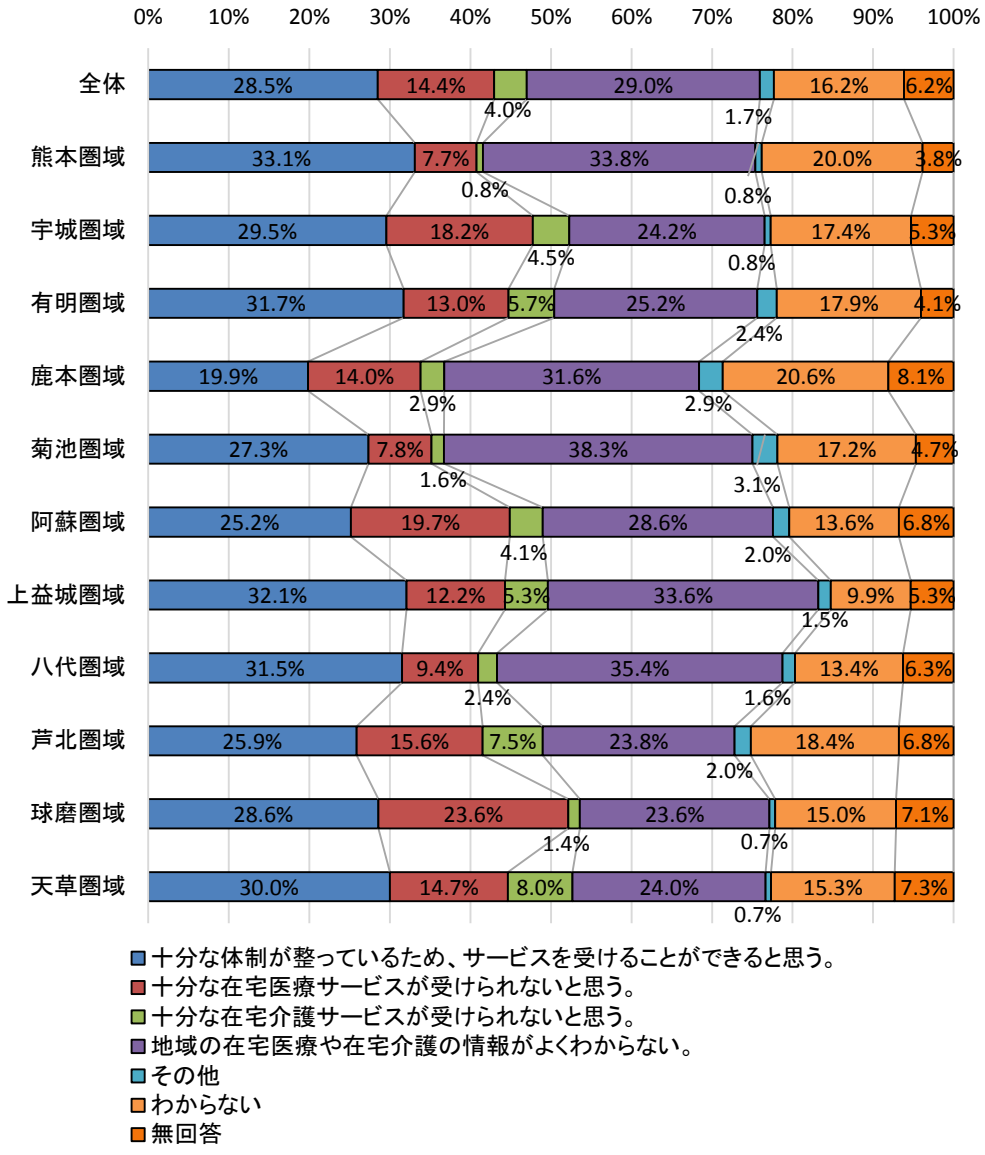


【問６－２】 お住まいの地域で、在宅医療や在宅介護のサービスを受けることができると思いますか。

◆調査結果

全体では「地域の在宅医療や在宅介護の情報がよくわからない。」と答えた割合が最も高く 29.0%、次いで、「十分な体制が整っているため、サービスを受けることができると思う」は 28.5%、「わからない」は 16.2%、「十分な在宅医療サービスが受けられないと思う」が 14.4%の順であった。

圏域別に見ると、「十分な体制が整っているため、サービスを受けることができると思う」において「熊本圏域」(33.1%)、「有明圏域」(31.7%)、「上益城圏域」(32.1%)、「八代圏域」(31.5%)、「天草圏域」(30.0%)の 5 つの圏域において 3 割を超える結果となった。「地域の在宅医療や在宅介護の情報がよくわからない」については「熊本圏域」(33.8%)、「菊池圏域」(38.3%)、「上益城圏域」(33.6%)、「八代圏域」(35.4%) の 4 つの圏域において 3 割を超える結果となった。



2．「がん」に関することについておたずねします。

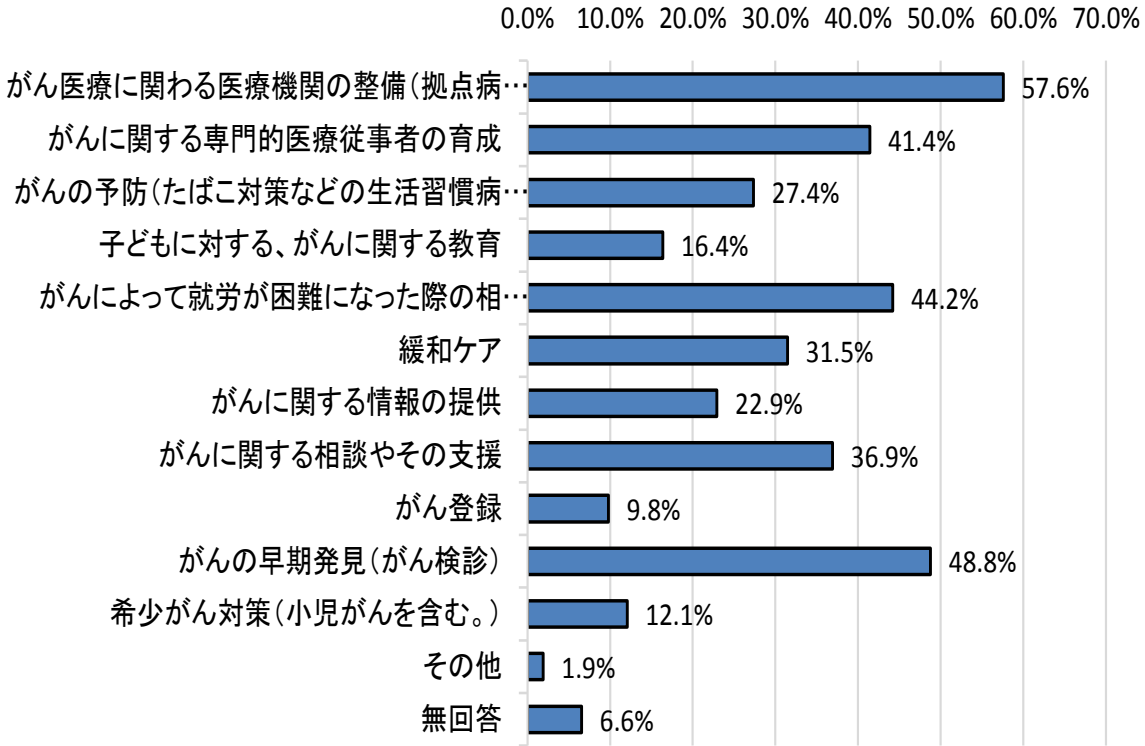
【問7】 あなたは、がん対策についてどのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

力を入れて欲しいがん対策の取り組みの全体では「がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）」と答えた割合が最も高く 57.6%、次いで、「がんの早期発見（がん検診）」は 48.8%、「がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備」は 44.2%、「がんに関する専門的医療従事者の育成」が 41.4%の順であった。

年齢別に見ると、「70 歳以上」においてがん対策の全ての項目で他の年代と比べて割合が最も低くなった。

また、「がんの早期発見（がん検診）」において「20 歳代」（67.5%）、「30 歳代」（64.7%）で他の年代と比べて高い傾向にあった。



（上段：人　下段：％）

		標本数（人）	がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）	がんに関する専門的医療従事者の育成	がんの予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む）	子どもに対する、がんに関する教育	がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備	緩和ケア	がんに関する情報の提供	がんに関する相談やその支援	がん登録	がんの早期発見（がん検診）	希少がん対策（小児がんを含む。）	その他	無回答
全体（単純集計）		1,509	869	625	413	247	667	475	346	557	148	736	182	29	99
			57.6%	41.4%	27.4%	16.4%	44.2%	31.5%	22.9%	36.9%	9.8%	48.8%	12.1%	1.9%	6.6%
年代別	20歳未満	22	12	8	8	5	13	6	7	7	3	10	4	2	1
			54.5%	36.4%	36.4%	22.7%	59.1%	27.3%	31.8%	31.8%	13.6%	45.5%	18.2%	9.1%	4.5%
	20歳代	80	47	35	30	19	38	20	29	28	11	54	18	1	4
			58.8%	43.8%	37.5%	23.8%	47.5%	25.0%	36.3%	35.0%	13.8%	67.5%	22.5%	1.3%	5.0%
	30歳代	139	97	66	51	36	91	39	41	58	17	90	31	1	7
			69.8%	47.5%	36.7%	25.9%	65.5%	28.1%	29.5%	41.7%	12.2%	64.7%	22.3%	0.7%	5.0%
	40歳代	151	95	72	38	29	97	68	32	67	18	82	27	5	4
			62.9%	47.7%	25.2%	19.2%	64.2%	45.0%	21.2%	44.4%	11.9%	54.3%	17.9%	3.3%	2.6%
	50歳代	222	136	100	70	39	133	90	56	93	32	105	34	6	5
			61.3%	45.0%	31.5%	17.6%	59.9%	40.5%	25.2%	41.9%	14.4%	47.3%	15.3%	2.7%	2.3%
	60歳代	388	235	171	111	64	157	121	92	147	35	175	36	6	22
			60.6%	44.1%	28.6%	16.5%	40.5%	31.2%	23.7%	37.9%	9.0%	45.1%	9.3%	1.5%	5.7%
	70歳以上	504	247	173	105	54	136	130	89	157	32	220	31	8	56
			49.0%	34.3%	20.8%	10.7%	27.0%	25.8%	17.7%	31.2%	6.3%	43.7%	6.2%	1.6%	11.1%

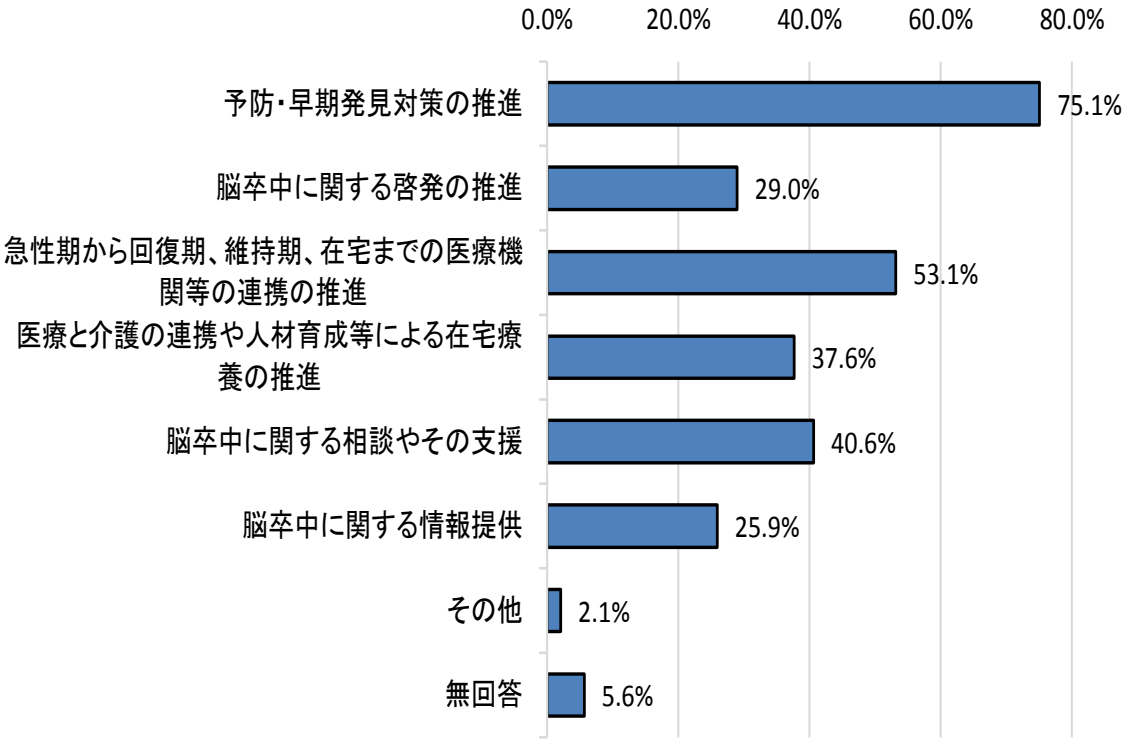
3．「脳卒中」に関することについておたずねします。

【問8】 あなたは、脳卒中対策についてどのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

力を入れて欲しい脳卒中対策の取り組みの全体では「予防・早期発見対策の推進」と答えた割合が最も高く 75.1%、次いで、「急性期から回復期、維持期、在宅までの医療機関等の連携の推進」は 53.1%、「脳卒中に関する相談やその支援」は 40.6%、「医療と介護の連携や人材育成等による在宅療養の推進」が 37.6%の順であった。

年齢別に見ると、全ての年代において「予防・早期発見対策の推進」が高く 7 割を超え、「急性期から回復期、維持期、在宅までの医療機関等の連携の推進」において「20 歳代」から「60 歳代」において 5 割を超える結果となった。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	予防・早期発見対策の推進	脳卒中に関する啓発の推進	急性期から回復期、維持期、在宅までの医療機関等の連携の推進	医療と介護の連携や人材育成等による在宅療養の推進	脳卒中に関する相談やその支援	脳卒中に関する情報提供	その他	無回答
全体（単純集計）		1,509	1,133	437	802	568	613	391	31	85
			75.1%	29.0%	53.1%	37.6%	40.6%	25.9%	2.1%	5.6%
年代別	20歳未満	22	17	4	10	5	5	8	1	0
			77.3%	18.2%	45.5%	22.7%	22.7%	36.4%	4.5%	0.0%
	20歳代	80	67	28	41	25	32	26	2	4
			83.8%	35.0%	51.3%	31.3%	40.0%	32.5%	2.5%	5.0%
	30歳代	139	109	49	84	64	57	39	2	7
			78.4%	35.3%	60.4%	46.0%	41.0%	28.1%	1.4%	5.0%
	40歳代	151	113	42	94	61	71	42	2	4
			74.8%	27.8%	62.3%	40.4%	47.0%	27.8%	1.3%	2.6%
	50歳代	222	169	63	147	98	97	54	9	5
			76.1%	28.4%	66.2%	44.1%	43.7%	24.3%	4.1%	2.3%
	60歳代	388	298	123	207	138	165	112	6	19
			76.8%	31.7%	53.4%	35.6%	42.5%	28.9%	1.5%	4.9%
	70歳以上	504	359	128	219	176	185	109	9	46
			71.2%	25.4%	43.5%	34.9%	36.7%	21.6%	1.8%	9.1%

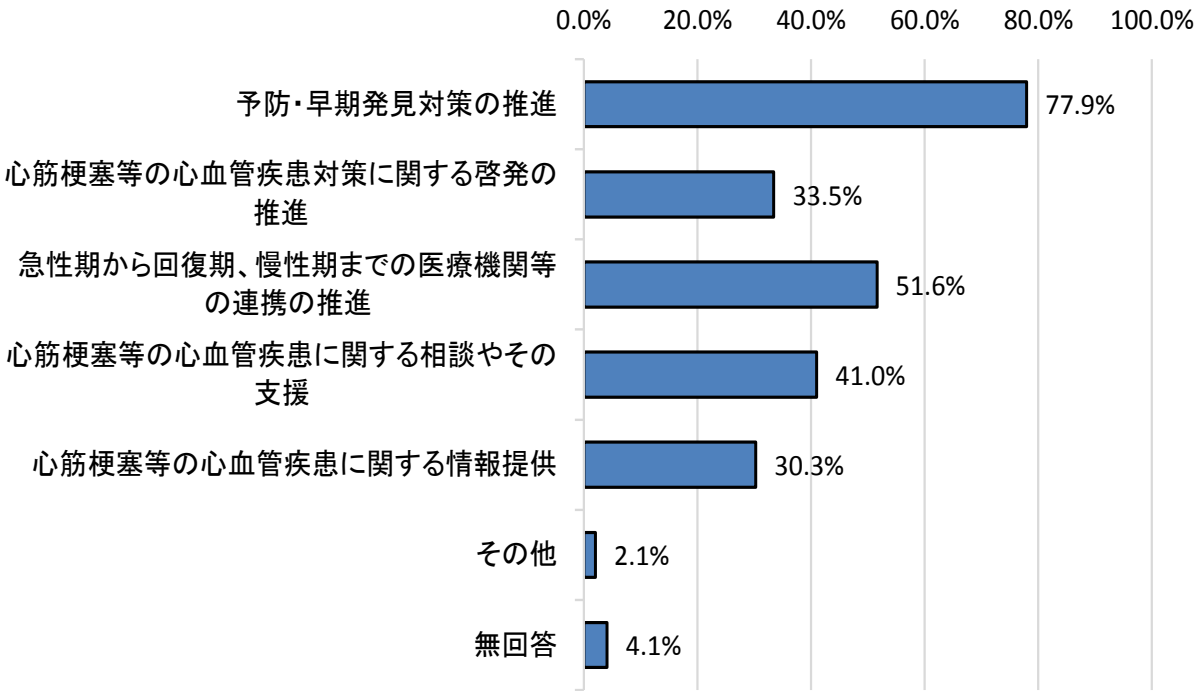
４．「心筋梗塞等の心血管疾患」に関することについておたずねします。

【問9】 あなたは、心筋梗塞等の心血管疾患対策についてどのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

力を入れて欲しい心血管疾患対策の取り組みの全体では「予防・早期発見対策の推進」と答えた割合が最も高く 77.9%、次いで、「急性期から回復期、慢性期までの医療機関等の連携の推進」は 51.6%、「心筋梗塞等の心血管疾患に関する相談やその支援」は 41.0%、「心筋梗塞等の心血管疾患対策に関する啓発の推進」が 33.5%の順であった。

年齢別に見ると、全ての年代において「予防・早期発見対策の推進」が高く 7 割を超えていた。「心筋梗塞等の心血管疾患対策に関する啓発の推進」において「20 歳未満」と「20 歳代」において他の年代よりやや低い割合であった。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	予防・早期発見対策の推進	心筋梗塞等の心血管疾患対策に関する啓発の推進	急性期から回復期、慢性期までの医療機関等の連携の推進	心筋梗塞等の心血管疾患に関する相談やその支援	心筋梗塞等の心血管疾患に関する情報提供	その他	無回答
全体（単純集計）		1,509	1,176	505	779	619	457	31	62
			77.9%	33.5%	51.6%	41.0%	30.3%	2.1%	4.1%
年代別	20歳未満	22	18	4	9	7	9	1	1
			81.8%	18.2%	40.9%	31.8%	40.9%	4.5%	4.5%
	20歳代	80	70	23	42	35	29	2	3
			87.5%	28.8%	52.5%	43.8%	36.3%	2.5%	3.8%
	30歳代	139	115	51	85	67	48	0	3
			82.7%	36.7%	61.2%	48.2%	34.5%	0.0%	2.2%
	40歳代	151	117	51	92	70	50	3	2
			77.5%	33.8%	60.9%	46.4%	33.1%	2.0%	1.3%
	50歳代	222	166	72	143	100	68	8	3
			74.8%	32.4%	64.4%	45.0%	30.6%	3.6%	1.4%
	60歳代	388	316	147	210	161	117	8	8
			81.4%	37.9%	54.1%	41.5%	30.2%	2.1%	2.1%
	70歳以上	504	373	157	197	179	135	9	41
			74.0%	31.2%	39.1%	35.5%	26.8%	1.8%	8.1%

5．「救急医療」に関することについておたずねします。

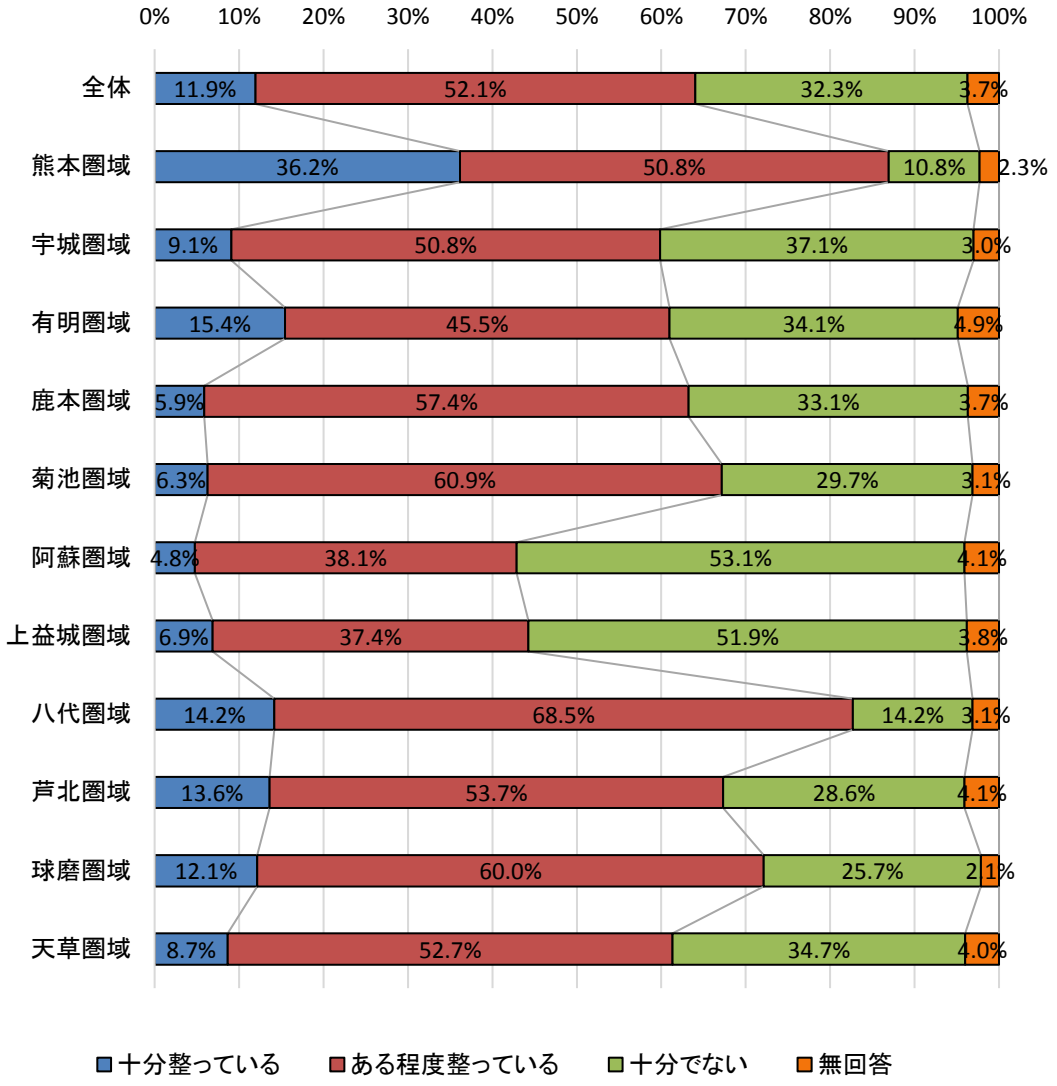
【問10－1】 あなたがお住まいの地域では、急病のときに適切な医療を受けられる救急医療の体制が整っていると思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。

◆調査結果

地域での救急医療体制の全体では「十分整っている」と答えたのは11.9%、「ある程度整っている」は52.1%、「十分ではない」は32.3%であった。

圏域別に見ると、「十分整っている」と回答した割合が「熊本圏域」では36.2%あるのに対し、「宇城圏域」(9.1%)、「鹿本圏域」(5.9%)、「菊池圏域」(6.3%)、「阿蘇圏域」(4.8%)、「上益城圏域」(6.9%)、「天草圏域」(8.7%) の6つの圏域において1割を下回っていた。

また、「阿蘇圏域」と「上益城圏域」において「十分でない」割合が5割を超す結果となった。

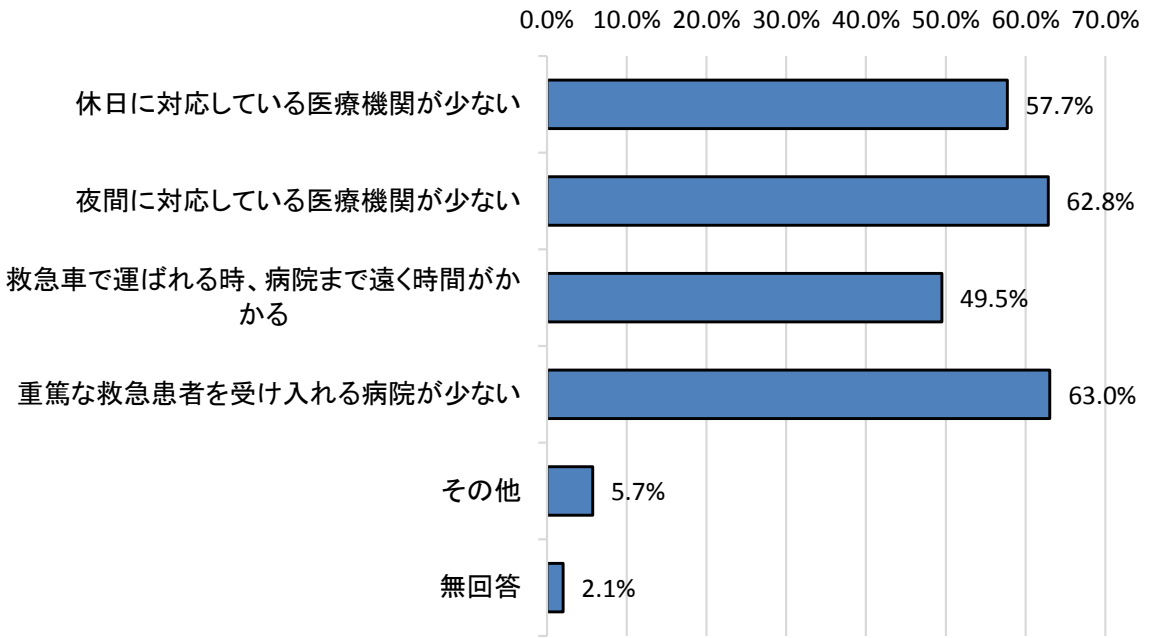


【問10－2】「問10－1」で「3．十分でない」と答えた方におたずねします。そのように考える理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

問 10-1 で「十分でない」と答えた 487 人に対し、理由を尋ねたところ、「重篤な救急患者を受け入れる病院が少ない」が最も高く 63.0%、次いで「夜間に対応している医療機関が少ない」62.8%、「休日に対応している医療機関が少ない」が 57.7%、「救急車で運ばれる時、病院まで遠く時間がかかる」が 49.5%の順であった。

圏域別に見ると、「休日に対応している医療機関が少ない」の割合が「熊本圏域」で最も多く 85.7%高い割合であった。「救急車で運ばれる時、病院まで遠く時間がかかる」割合については「熊本圏域」が最も低く 21.4%であったのに対し、「宇城圏域」(53.1%)、「阿蘇圏域」(71.8%)、「上益城圏域」(51.5%)、「芦北圏域」(50.0%)、「天草圏域」(59.6%) 5 つの圏域で 5 割を超えていた。中でも「阿蘇圏域」では 7 割を超える結果となった。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	休日に対応している医療機関が少ない	夜間に対応している医療機関が少ない	救急車で運ばれる時、病院まで遠く時間がかかる	重篤な救急患者を受け入れる病院が少ない	その他	無回答
居住地域	熊本圏域	14	12	11	3	7	1	0
			85.7%	78.6%	21.4%	50.0%	7.1%	0.0%
	宇城圏域	49	21	31	26	26	1	1
			42.9%	63.3%	53.1%	53.1%	2.0%	2.0%
	有明圏域	42	23	29	17	27	1	2
			54.8%	69.0%	40.5%	64.3%	2.4%	4.8%
	鹿本圏域	45	27	24	17	30	3	0
			60.0%	53.3%	37.8%	66.7%	6.7%	0.0%
	菊池圏域	38	26	24	14	26	3	1
			68.4%	63.2%	36.8%	68.4%	7.9%	2.6%
	阿蘇圏域	78	45	44	56	51	6	2
			57.7%	56.4%	71.8%	65.4%	7.7%	2.6%
	上益城圏域	68	37	44	35	41	2	1
			54.4%	64.7%	51.5%	60.3%	2.9%	1.5%
	八代圏域	18	11	12	8	7	1	1
			61.1%	66.7%	44.4%	38.9%	5.6%	5.6%
	芦北圏域	42	25	28	21	31	2	1
			59.5%	66.7%	50.0%	73.8%	4.8%	2.4%
	球磨圏域	36	23	28	11	28	3	0
			63.9%	77.8%	30.6%	77.8%	8.3%	0.0%
	天草圏域	52	29	31	31	32	5	0
			55.8%	59.6%	59.6%	61.5%	9.6%	0.0%

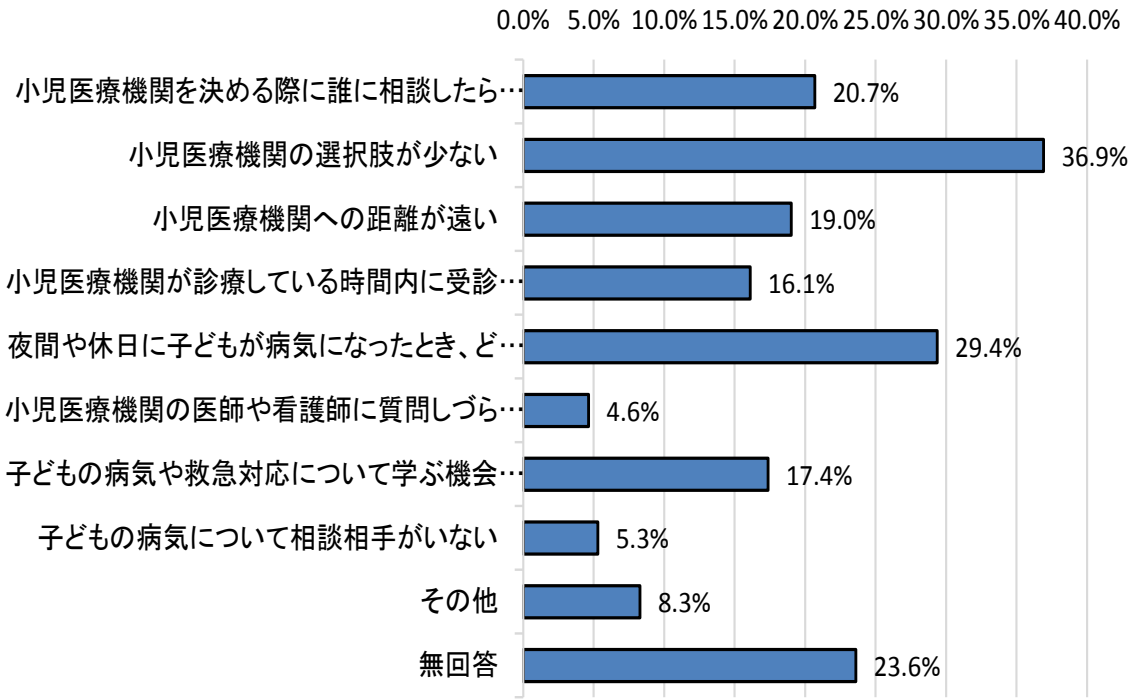
６．「小児医療・小児救急医療」に関することについておたずねします。

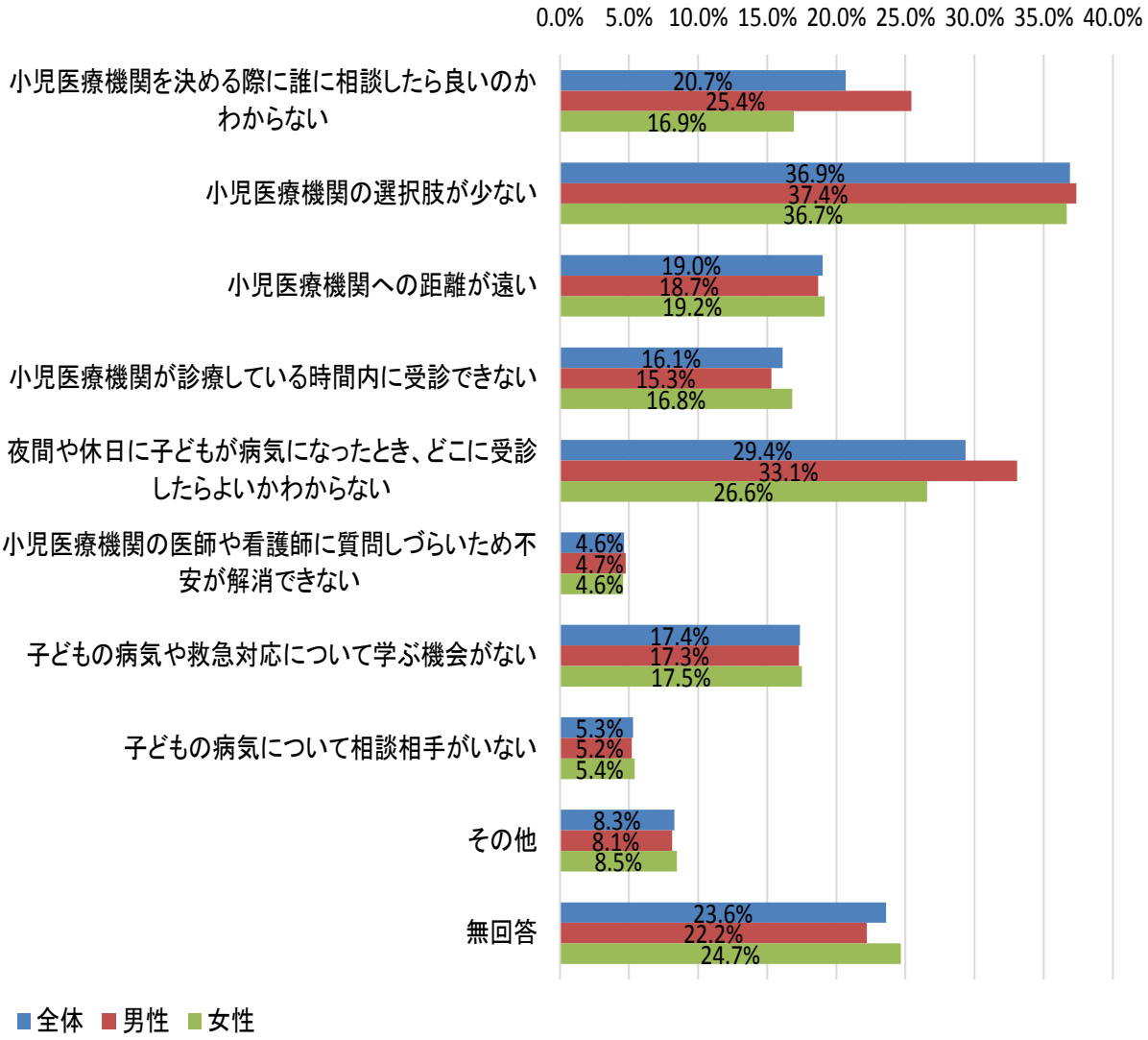
【問11】 あなたが、小児医療について不安を感じる（感じた）ことについて、当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

小児医療の不安についての全体では「小児医療機関の選択肢が少ない」と答えた割合が最も高く 36.9%、次いで、「急夜間や休日に子どもが病気になったとき、どこに受診したらよいかわからない」は 29.4%、「小児医療機関を決める際に誰に相談したら良いのかわからない」は 20.7%、「小児医療機関への距離が遠い」が 19.0%の順であった。

男女別に見ると、「小児医療機関を決める際に誰に相談したら良いのかわからない」において女性の回答は 16.9%に対し、男性は 25.4%と女性よりやや高い割合であった。「夜間や休日に子どもが病気になったとき、どこに受診したらよいかわからない」においても女性の回答は 26.6%に対し、男性は 33.1%と女性よりやや高い割合であった。



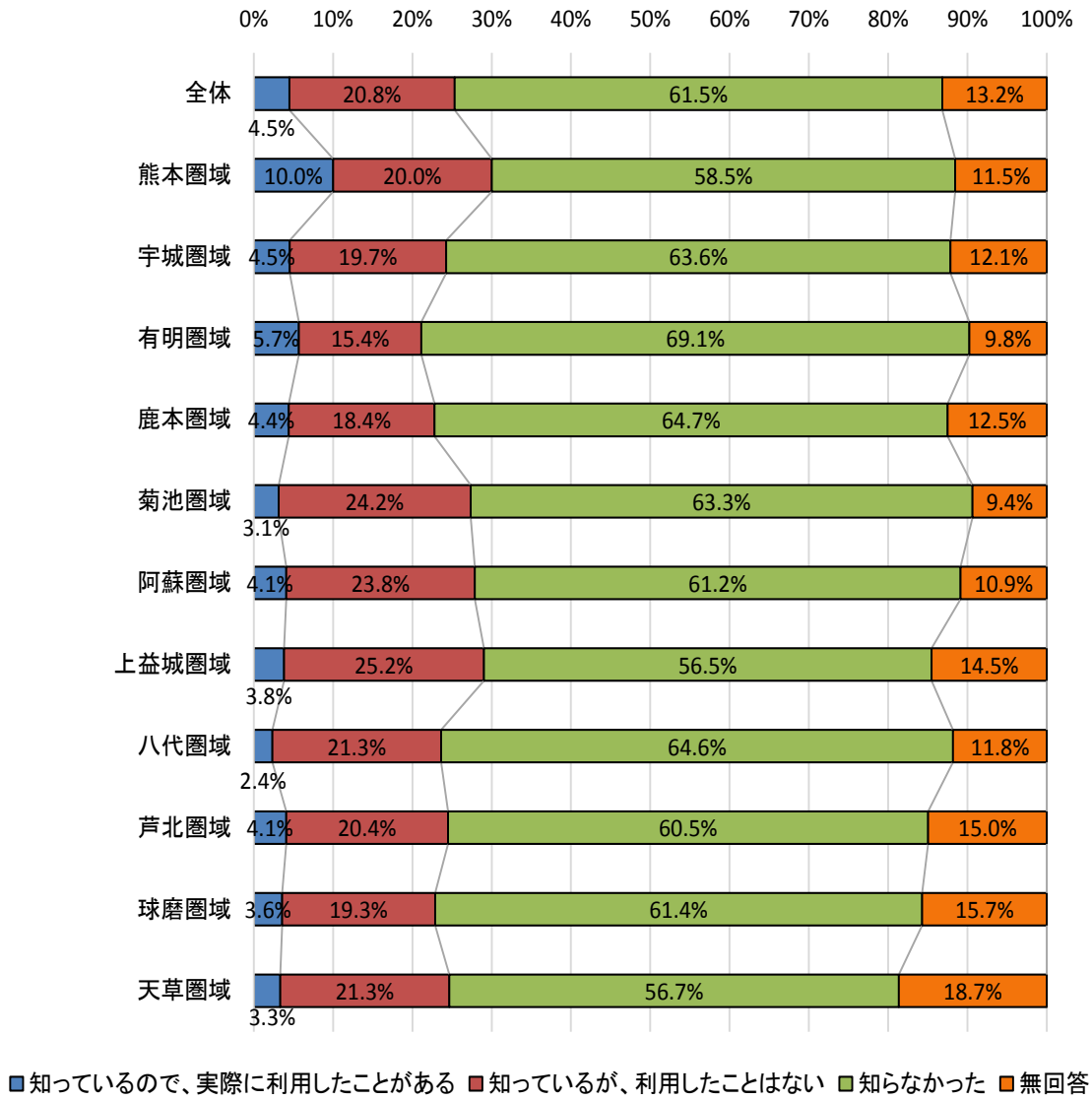

0.0% 5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0% 30.0% 35.0% 40.0%
小児医療機関を決める際に誰に相談したら良いのかわからない
20.7%
25.4%
16.9%
小児医療機関の選択肢が少ない
36.9%
37.4%
36.7%
小児医療機関への距離が遠い
19.0%
18.7%
19.2%
小児医療機関が診療している時間内に受診できない
16.1%
15.3%
16.8%
夜間や休日に子どもが病気になったとき、どこに受診したらよいかわからない
29.4%
33.1%
26.6%
小児医療機関の医師や看護師に質問しづらいため不安が解消できない
4.6%
4.7%
4.6%
子どもの病気や救急対応について学ぶ機会がない
17.4%
17.3%
17.5%
子どもの病気について相談相手がいない
5.3%
5.2%
5.4%
その他
8.3%
8.1%
8.5%
無回答
23.6%
22.2%
24.7%
全体
男性
女性

【問12－1】 小児救急電話相談窓口（#8000)を知っていますか。

◆調査結果

小児救急電話相談窓口の周知の全体では「知っているので、実際に利用したことがある」と答えたのは 4.5%、「知っているが、利用したことはない」は 20.8%、「知らなかった」は 61.5%であった。

圏域別に見ると、「知っているので、実際に利用したことがある」と回答した割合で「熊本圏域」が最も高かったがそれでも 10.0%であった。「知らなかった」割合は全圏域で 5 割を超え、「有明圏域」が最も高く 69.1%であった。



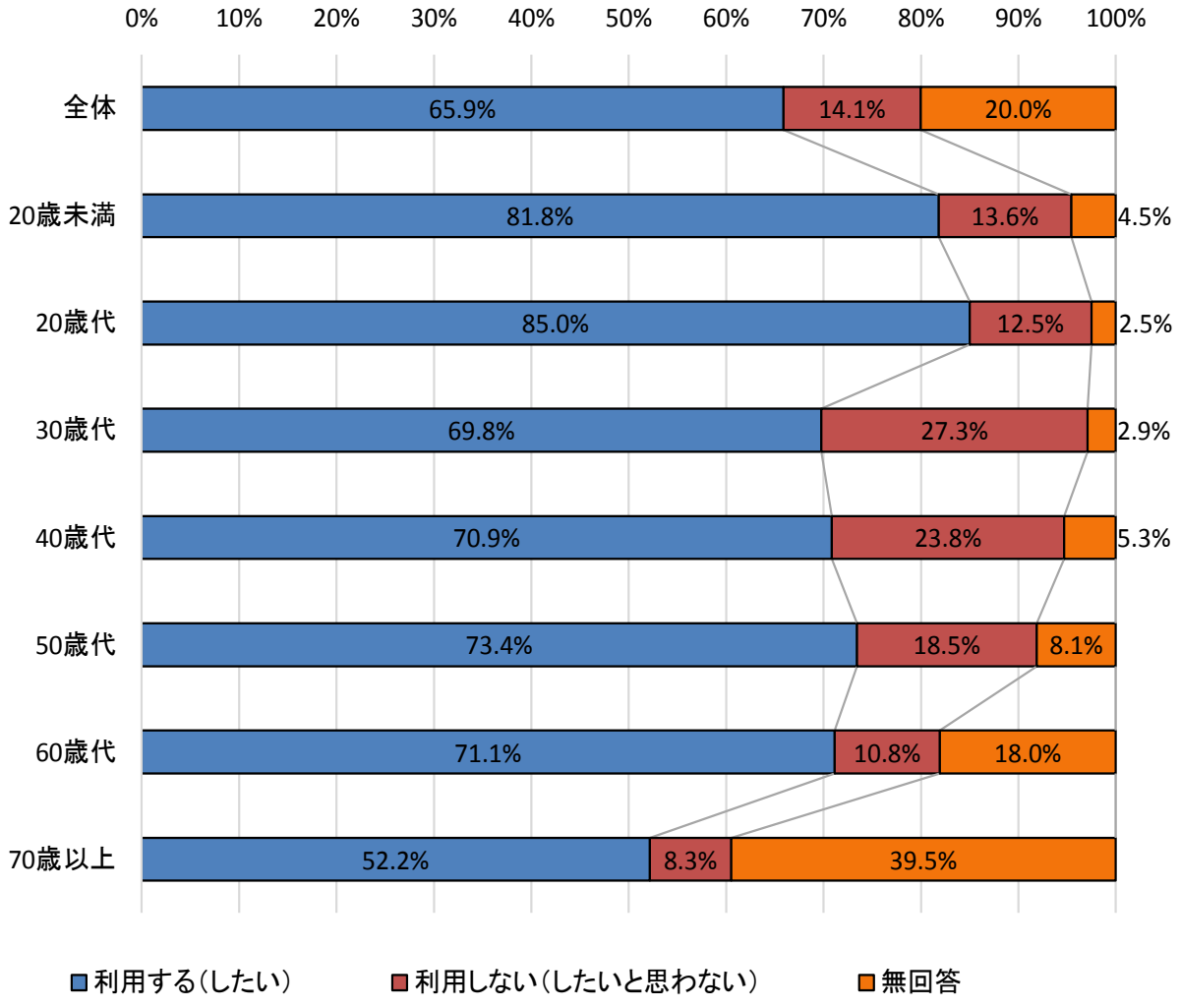
【問12－2】 休日、夜間に子どもが急な病気になった場合、小児救急電話相談窓口（＃8000）を利用しますか（したいと思いますか）。

◆調査結果

小児救急電話相談窓口の利用の全体では「利用する（したい）」と答えたのは 65.9%、「利用しない（したいと思わない）」は 14.1%であった。

年代別に見ると、「利用する（したい）」割合は「20 歳未満」と「20 歳代」で 8 割を超えていたが「70 歳以上」では 5 割程度であった。

「利用しない（したいと思わない）」割合では「30 歳代」「40 歳代」で 2 割を超えていた。

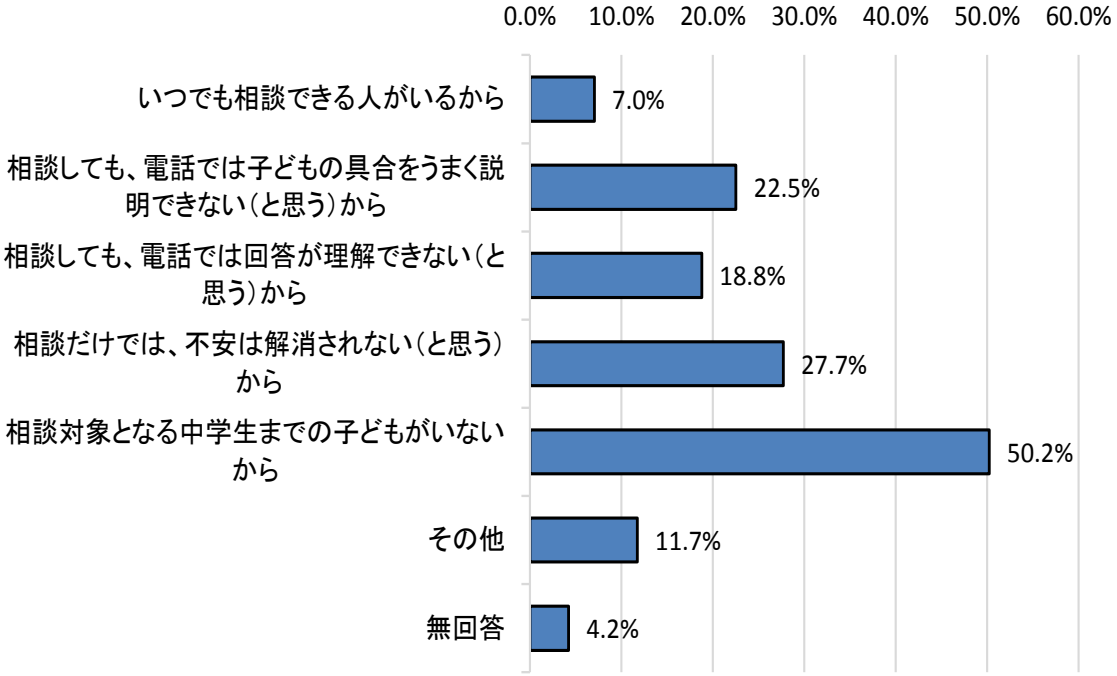


【問12－3】「問12－2」で「2. 利用しない（したいと思わない）」と答えた方におたずねします。そう考える理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

問 12-2 で「利用しない（したいと思わない）」と答えた 213 人に対し、理由を尋ねたところ、「相談対象となる中学生までの子どもがいないから」が最も高く 50.2%、次いで「相談だけでは、不安は解消されない（と思う）から」27.7%、「相談しても、電話では子どもの具合をうまく説明できない（と思う）から」が 22.5%、「相談しても、電話では回答が理解できない（と思う）から」が 18.8%の順であった。

問 12-3 で割合が高かった「30 歳代」と「40 歳代」で見ると、「30 歳代」と「40 歳代」ともに「相談だけでは、不安は解消されない（と思う）から」の割合が最も高かった。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	いつでも相談できる人がいるから	相談しても、電話では子どもの具合をうまく説明できない（と思う）から	相談しても、電話では回答が理解できない（と思う）から	相談だけでは、不安は解消されない（と思う）から	相談対象となる中学生までの子どもがいないから	その他	無回答
全体（単純集計）		213	15	48	40	59	107	25	9
			7.0%	22.5%	18.8%	27.7%	50.2%	11.7%	4.2%
年代別	20歳未満	3	0	1	1	0	1	1	0
			0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	20歳代	10	0	5	3	3	6	2	0
			0.0%	50.0%	30.0%	30.0%	60.0%	20.0%	0.0%
	30歳代	38	3	16	15	20	7	6	1
			7.9%	42.1%	39.5%	52.6%	18.4%	15.8%	2.6%
	40歳代	36	6	7	6	15	12	1	0
			16.7%	19.4%	16.7%	41.7%	33.3%	2.8%	0.0%
	50歳代	41	2	6	7	8	24	7	1
			4.9%	14.6%	17.1%	19.5%	58.5%	17.1%	2.4%
	60歳代	42	1	5	3	6	34	3	1
			2.4%	11.9%	7.1%	14.3%	81.0%	7.1%	2.4%
	70歳以上	42	3	8	5	7	23	5	5
			7.1%	19.0%	11.9%	16.7%	54.8%	11.9%	11.9%

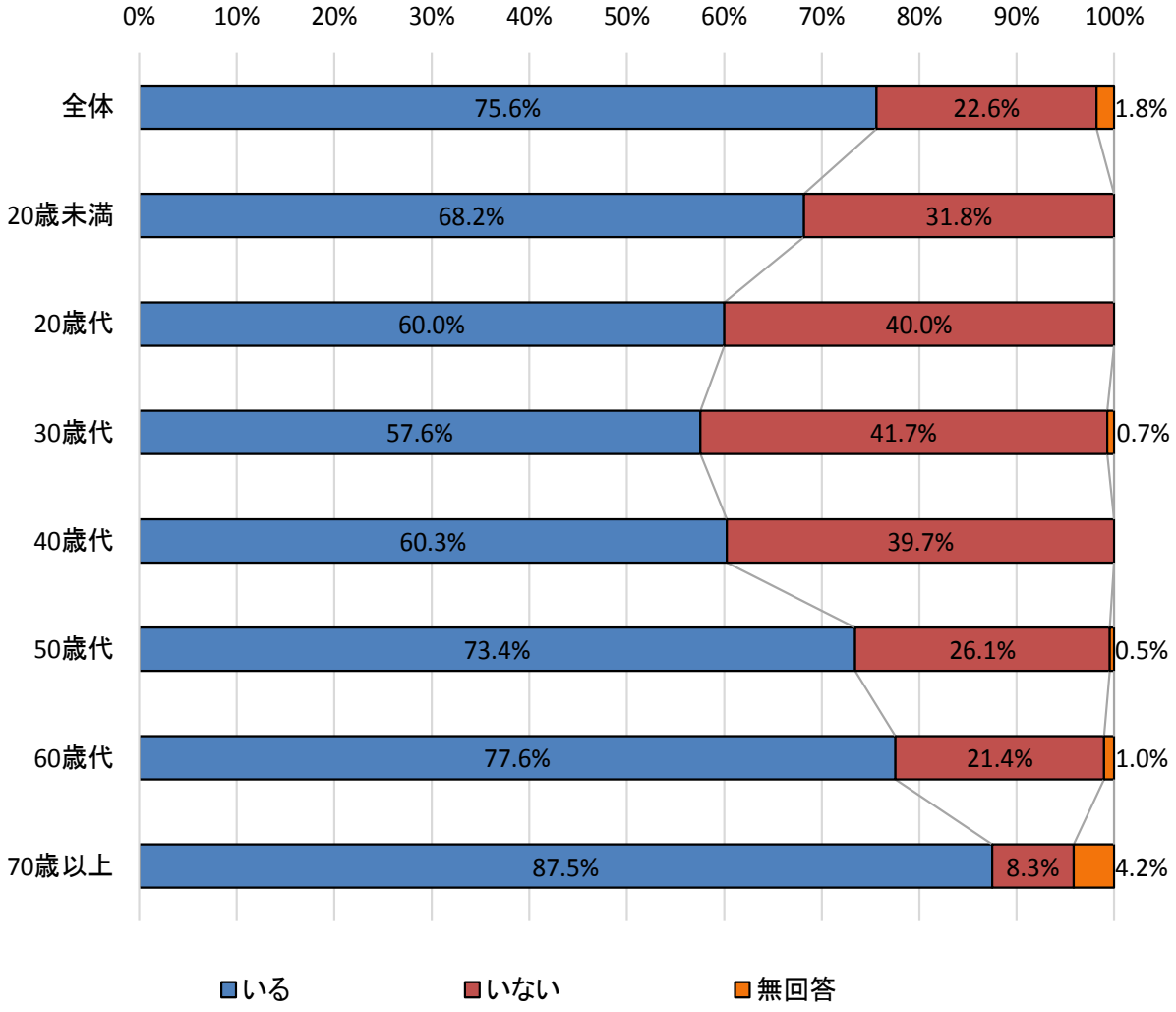
7．「かかりつけ医」のことについておたずねします。

【問13－1】 あなたは病気になったとき、決まって診察してもらう医師（かかりつけ医）がいますか。

◆調査結果

かかりつけ医の有無の全体では「いる」と答えたのは 75.6%、「いない」は 22.6%であった。

年代別に見ると、「いる」割合は「20 歳未満」から「40 歳代」までは 6 割前後であったが「50 歳代以上では 7 割を超えていた。特に「70 歳以上」では 87.5%と約 9 割であった。

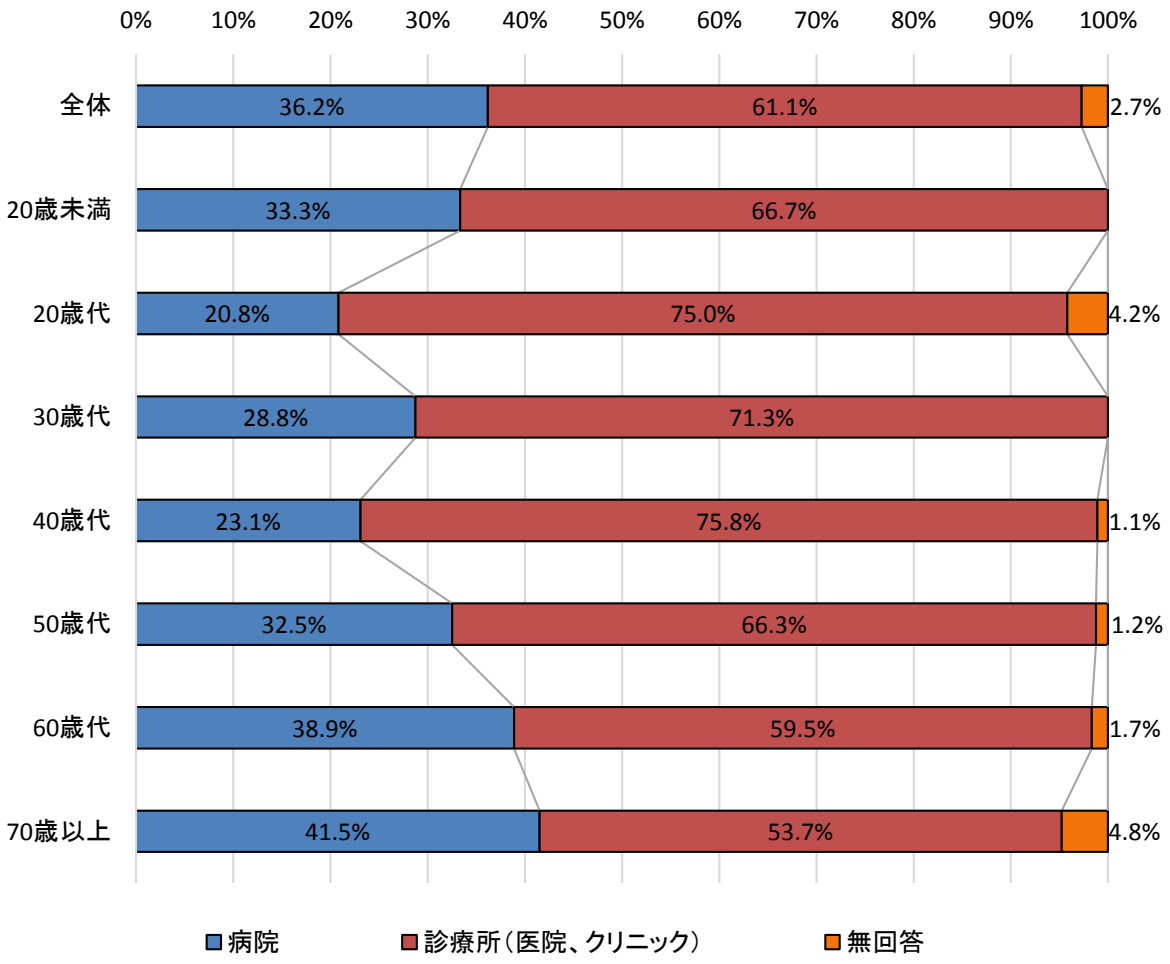


【問13－2】「問13－1」で「1．いる」と答えた方におたずねします。その医療機関は、病院ですか、診療所（医院・クリニック）ですか。

◆調査結果

問 13-1 で「いる」と答えた 1,141 人に対し、医療機関を尋ねたところ、「病院」36.2%、「診療所（医院、クリニック）」61.1%であった。

年代別に見ると、「診療所（医院、クリニック）」の割合が「20 歳未満」から「50 歳代」までで 6 割を超えていた。「60 歳以上」の世代では他の世代よりやや「病院」の割合が高かった。

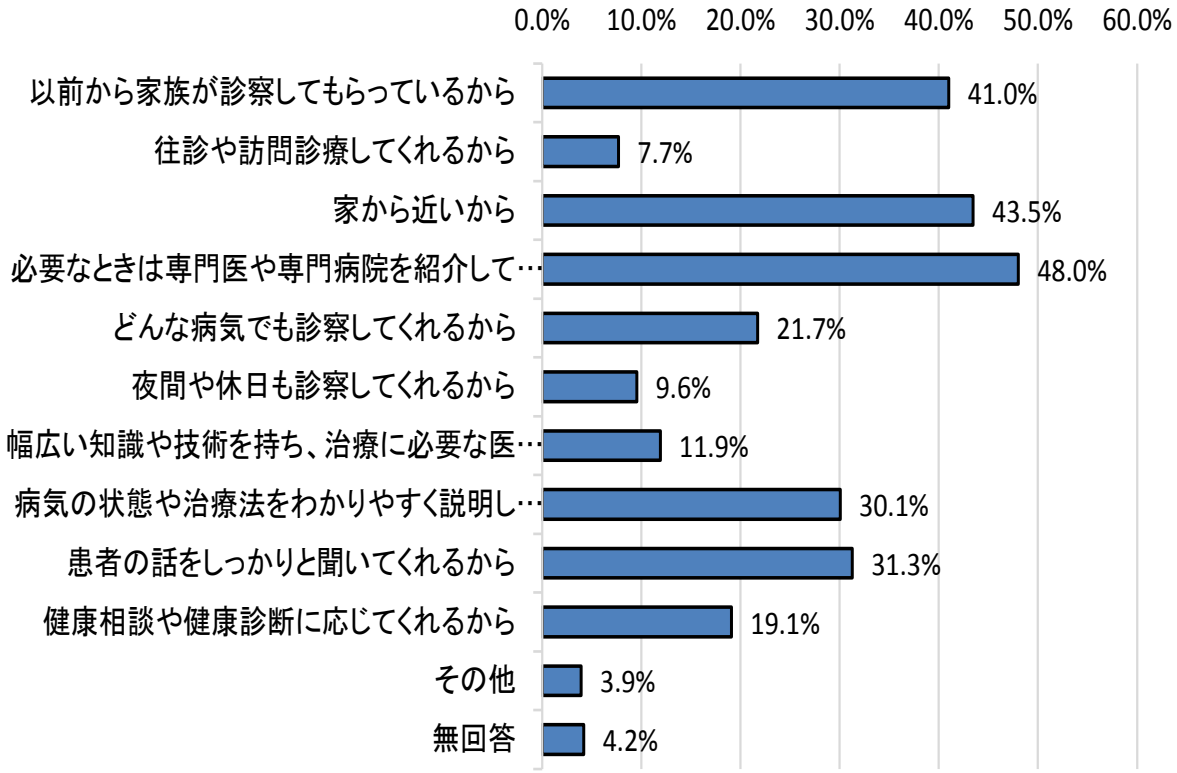


【問13－3】「問13－1」で「1．いる」と答えた方におたずねします。かかりつけ医を決めている理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

問 13-1 で「いる」と答えた 1,141 人に対し、理由を尋ねたところ、「必要なときは専門医や専門病院を紹介してくれるから」が最も高く 48.0%、次いで「家から近いから」43.5%、「以前から家族が診察してもらっているから」が 41.0%、「患者の話をしっかりと聞いてくれるから」が 31.3%の順であった。

年代別に見ると、「以前から家族が診察してもらっているから」の割合が「20 歳未満」と「20 歳代」においてほかの世代よりも高かった。「必要なときは専門医や専門病院を紹介してくれるから」の割合については年齢が高くなっていくにつれて割合も高くなっていく傾向にあった。



（上段：人　下段：%）

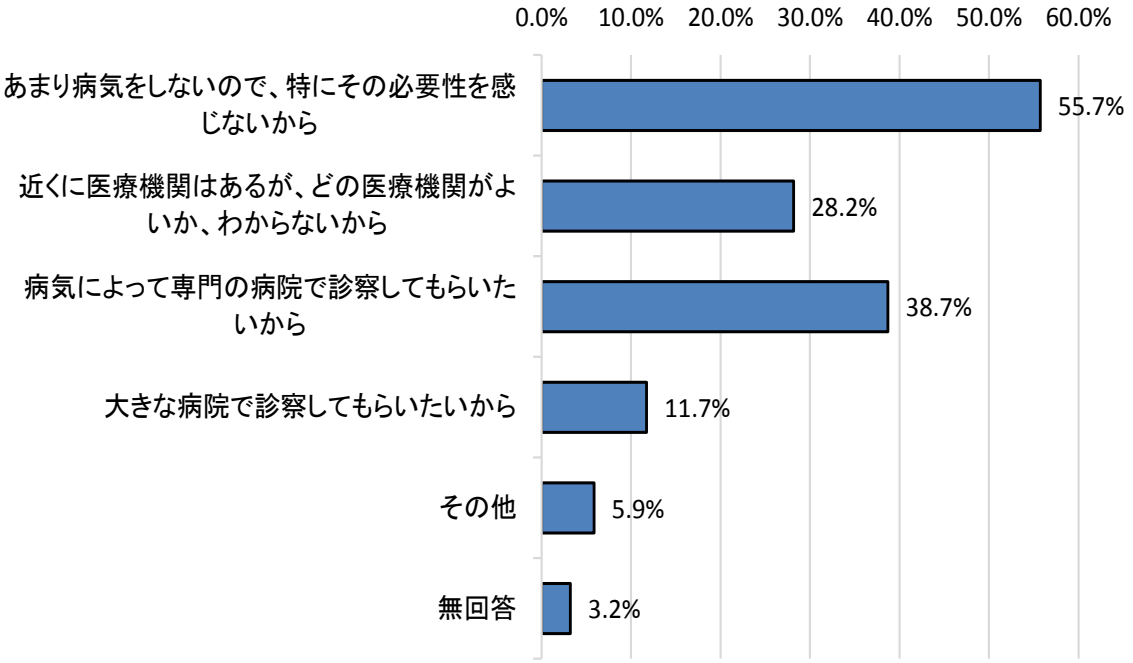
		標本数（人）	以前から家族が診察してもらっているから	往診や訪問診療してくれるから	家から近いから	必要なときは専門医や専門病院を紹介してくれるから	どんな病気でも診察してくれるから	夜間や休日も診察してくれるから	幅広い知識や技術を持ち、治療に必要な医療機器を備えているから	病気の状態や治療法をわかりやすく説明してくれるから	患者の話をしっかりと聞いてくれるから	健康相談や健康診断に応じてくれるから	その他	無回答
全体（単純集計）		1,141	468	88	496	548	248	109	136	343	357	218	45	48
			41.0%	7.7%	43.5%	48.0%	21.7%	9.6%	11.9%	30.1%	31.3%	19.1%	3.9%	4.2%
年代別	20歳未満	15	10	0	3	3	2	0	0	3	3	2	1	0
			66.7%	0.0%	20.0%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	13.3%	6.7%	0.0%
	20歳代	48	33	2	22	11	8	3	6	13	14	4	1	1
			68.8%	4.2%	45.8%	22.9%	16.7%	6.3%	12.5%	27.1%	29.2%	8.3%	2.1%	2.1%
	30歳代	80	33	4	46	21	19	10	9	19	18	4	9	0
			41.3%	5.0%	57.5%	26.3%	23.8%	12.5%	11.3%	23.8%	22.5%	5.0%	11.3%	0.0%
	40歳代	91	33	2	44	27	10	2	4	21	21	9	7	5
			36.3%	2.2%	48.4%	29.7%	11.0%	2.2%	4.4%	23.1%	23.1%	9.9%	7.7%	5.5%
	50歳代	163	73	11	80	69	21	11	19	42	44	22	8	4
			44.8%	6.7%	49.1%	42.3%	12.9%	6.7%	11.7%	25.8%	27.0%	13.5%	4.9%	2.5%
	60歳代	301	105	19	140	167	63	29	42	96	94	62	14	7
			34.9%	6.3%	46.5%	55.5%	20.9%	9.6%	14.0%	31.9%	31.2%	20.6%	4.7%	2.3%
	70歳以上	441	180	50	160	250	125	54	56	148	163	115	5	31
			40.8%	11.3%	36.3%	56.7%	28.3%	12.2%	12.7%	33.6%	37.0%	26.1%	1.1%	7.0%

【問13－4】「問13－1」で「2. いない」と答えた方におたずねします。かかりつけ医※11 を決めていない理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

問 13-1 で「いない」と答えた 341 人に対し、理由を尋ねたところ、「あまり病気をしないので、特にその必要性を感じないから」が最も高く 55.7%、次いで「病気によって専門の病院で診察してもらいたいから」38.7%、「近くに医療機関はあるが、どの医療機関がよいか、わからないから」が 28.2%、「大きな病院で診察してもらいたいから」が 11.7%の順であった。

年代別に見ると、「あまり病気をしないので、特にその必要性を感じないから」の割合が「20 歳未満」と「20 歳代」「30 歳代」において高かった。また、「20 歳未満」と「20 歳代」において「近くに医療機関はあるが、どの医療機関がよいか、わからないから」と「病気によって専門の病院で診察してもらいたいから」の割合が他の世代よりも低い傾向にあった。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	あまり病気をしないので、特にその必要性を感じないから	近くに医療機関はあるが、どの医療機関がよいか、わからないから	病気によって専門の病院で診察してもらいたいから	大きな病院で診察してもらいたいから	その他	無回答
全体（単純集計）		341	190	96	132	40	20	11
			55.7%	28.2%	38.7%	11.7%	5.9%	3.2%
年代別	20歳未満	7	6	1	0	0	0	1
			85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
	20歳代	32	22	6	7	1	4	0
			68.8%	18.8%	21.9%	3.1%	12.5%	0.0%
	30歳代	58	37	18	20	3	2	2
			63.8%	31.0%	34.5%	5.2%	3.4%	3.4%
	40歳代	60	29	25	25	5	3	1
			48.3%	41.7%	41.7%	8.3%	5.0%	1.7%
	50歳代	58	27	16	27	9	5	0
			46.6%	27.6%	46.6%	15.5%	8.6%	0.0%
	60歳代	83	50	20	31	16	4	2
			60.2%	24.1%	37.3%	19.3%	4.8%	2.4%
	70歳以上	42	18	10	22	6	2	5
			42.9%	23.8%	52.4%	14.3%	4.8%	11.9%

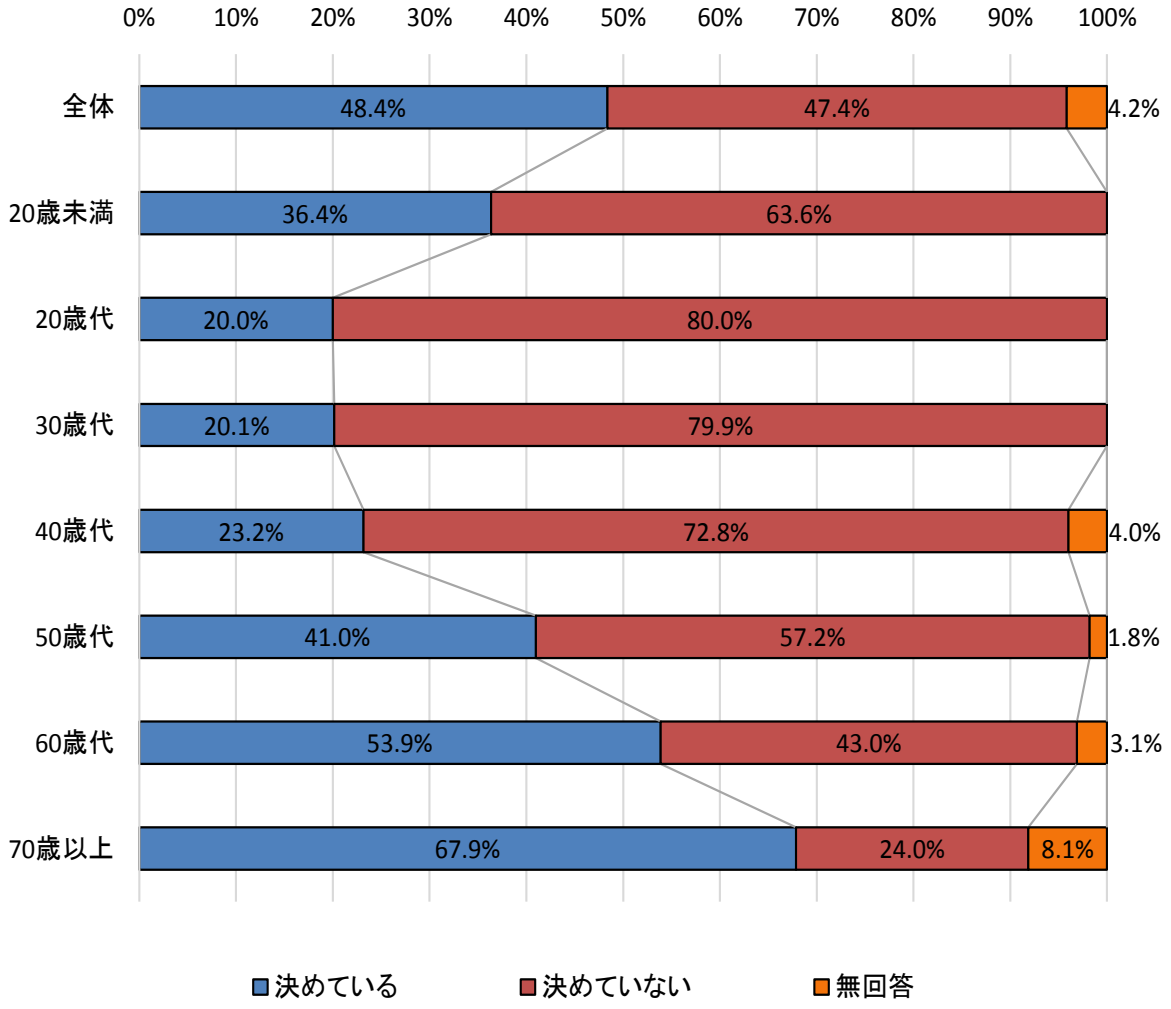
8．「かかりつけ薬局（かかりつけ薬剤師）」についておたずねします。

【問14】 病院や診療所（医院・クリニック）でもらった処方せんを持って行く、かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師を決めていますか。

◆調査結果

かかりつけ薬局（かかりつけ薬剤師）の有無の全体では「決めている」と答えたのは 48.4%、「決めていない」は 47.4%であった。

年代別に見ると、「決めている」割合は「50 歳代」から「70 歳以上」が高く、「70 歳以上」では約 7 割の人がかかりつけ薬局（かかりつけ薬剤師）を決めていた。

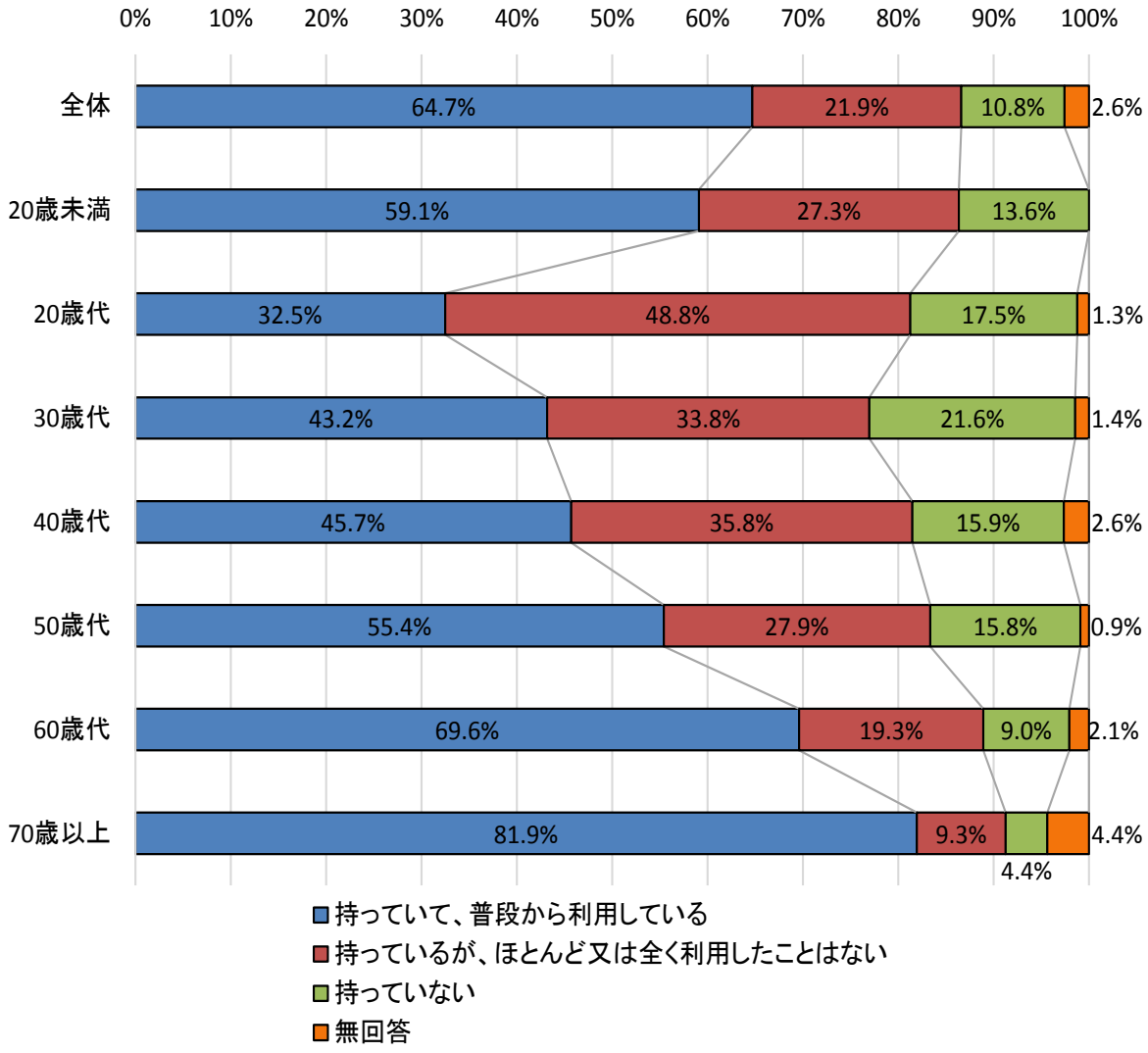


【問15－1】 あなたは「お薬手帳」を持っていますか。

◆調査結果

お薬手帳の有無の全体では「持っていて、普段から利用している」と答えたのは 64.7%、「持っているが、ほとんど又は全く利用したことはない」は 21.9%、「持っていない」は 10.8%であった。

年代別に見ると、「持っていて、普段から利用している」割合は「20 歳未満」と「50 歳代」から「70 歳以上」5 割を超えており、「70 歳以上」では 8 割以上の人がっていて、普段から利用していた。

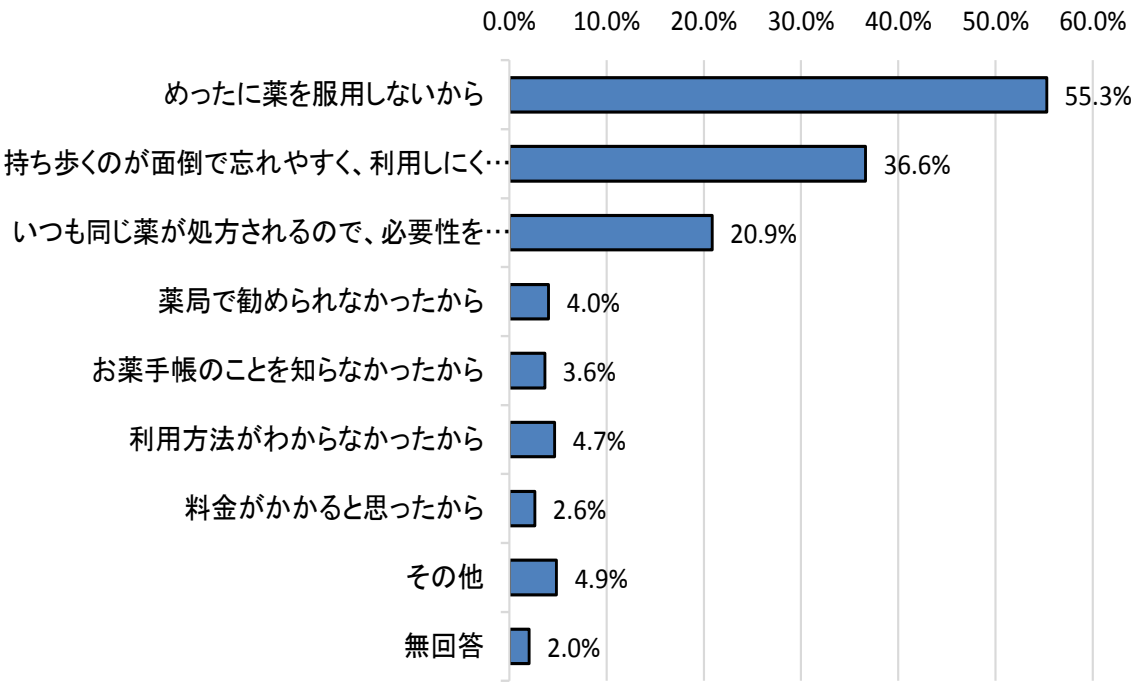


【問15－2】「問15－1」で「2．持っているが、ほとんど又は全く利用したことはない」又は「3．持っていない」と答えた方におたずねします。お薬手帳を利用しない又は持っていない理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

問 15-1 で「持っているが、ほとんど又は全く利用したことはない」もしくは「持っていない」と答えた 494 人に対し、理由を尋ねたところ、「めったに薬を服用しないから」が最も高く 55.3%、次いで「持ち歩くのが面倒で忘れやすく、利用しにくいから」36.6%、「いつも同じ薬が処方されるので、必要性を感じなかったから」が 20.9%の順であった。

年代別に見ると、「めったに薬を服用しないから」の割合は年が若くなるにつれて高くなっていた。「いつも同じ薬が処方されるので、必要性を感じなかったから」についてはと「70 歳以上」において他の年代と比べてかなり高い割合になっていた。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	めったに薬を服用しないから	持ち歩くのが面倒で忘れやすく、利用しにくいから	いつも同じ薬が処方されるので、必要性を感じなかったから	薬局で勧められなかったから	お薬手帳のことを知らなかったから	利用方法がわからなかったから	料金がかかると思ったから	その他	無回答
全体（単純集計）		494	273	181	103	20	18	23	13	24	10
			55.3%	36.6%	20.9%	4.0%	3.6%	4.7%	2.6%	4.9%	2.0%
年代別	20歳未満	9	6	2	1	0	0	1	0	0	0
			66.7%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	53	34	26	6	2	2	2	1	2	1
			64.2%	49.1%	11.3%	3.8%	3.8%	3.8%	1.9%	3.8%	1.9%
	30歳代	77	50	37	9	5	0	2	2	3	0
			64.9%	48.1%	11.7%	6.5%	0.0%	2.6%	2.6%	3.9%	0.0%
	40歳代	78	45	39	10	2	1	6	4	3	0
			57.7%	50.0%	12.8%	2.6%	1.3%	7.7%	5.1%	3.8%	0.0%
	50歳代	97	55	31	22	3	5	5	4	7	3
			56.7%	32.0%	22.7%	3.1%	5.2%	5.2%	4.1%	7.2%	3.1%
	60歳代	110	57	29	21	5	5	2	1	8	4
			51.8%	26.4%	19.1%	4.5%	4.5%	1.8%	0.9%	7.3%	3.6%
	70歳以上	69	26	16	34	3	5	5	1	1	2
			37.7%	23.2%	49.3%	4.3%	7.2%	7.2%	1.4%	1.4%	2.9%

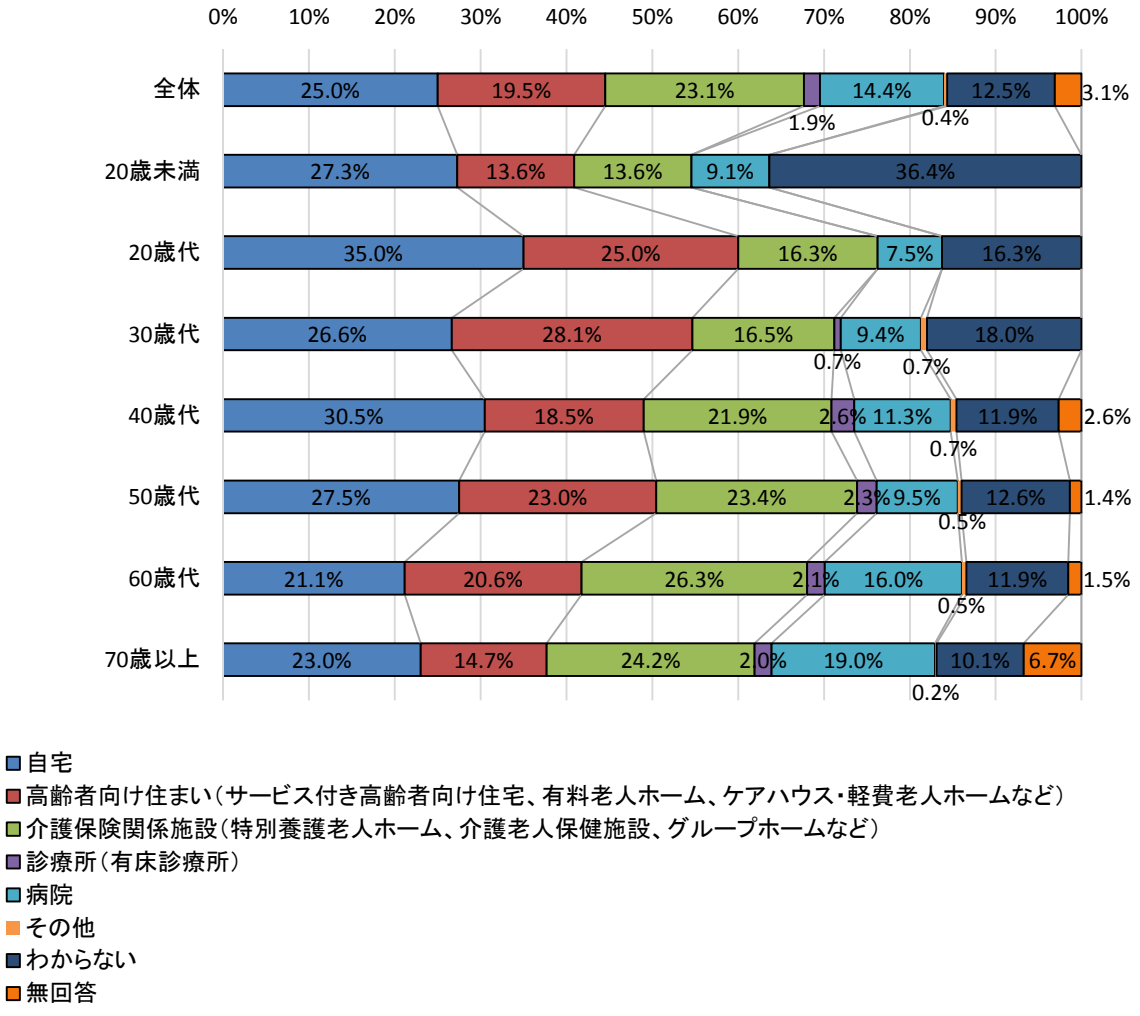
９．「長期の療養場所」についておたずねします。

【問１６－１】 あなたが高齢になり、病気やケガなどで長期の療養（介護を含む）が必要になった場合、どこで療養したい（サービスを受けたい）と思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。

◆調査結果

高齢になった際の長期療養についての全体では「自宅」と答えた割合が最も高く 25.0%、次いで、「介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）」は 23.1%、「高齢者向け住まい（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス・軽費老人ホームなど）」は 19.5%、「病院」が 14.4%の順であった。

年代別に見ると、「介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）」の割合については年齢が高くなっていくにつれて割合も高くなっていく傾向にあった。「自宅」の割合は他の世代に比べて「20 歳代」でやや高かった。

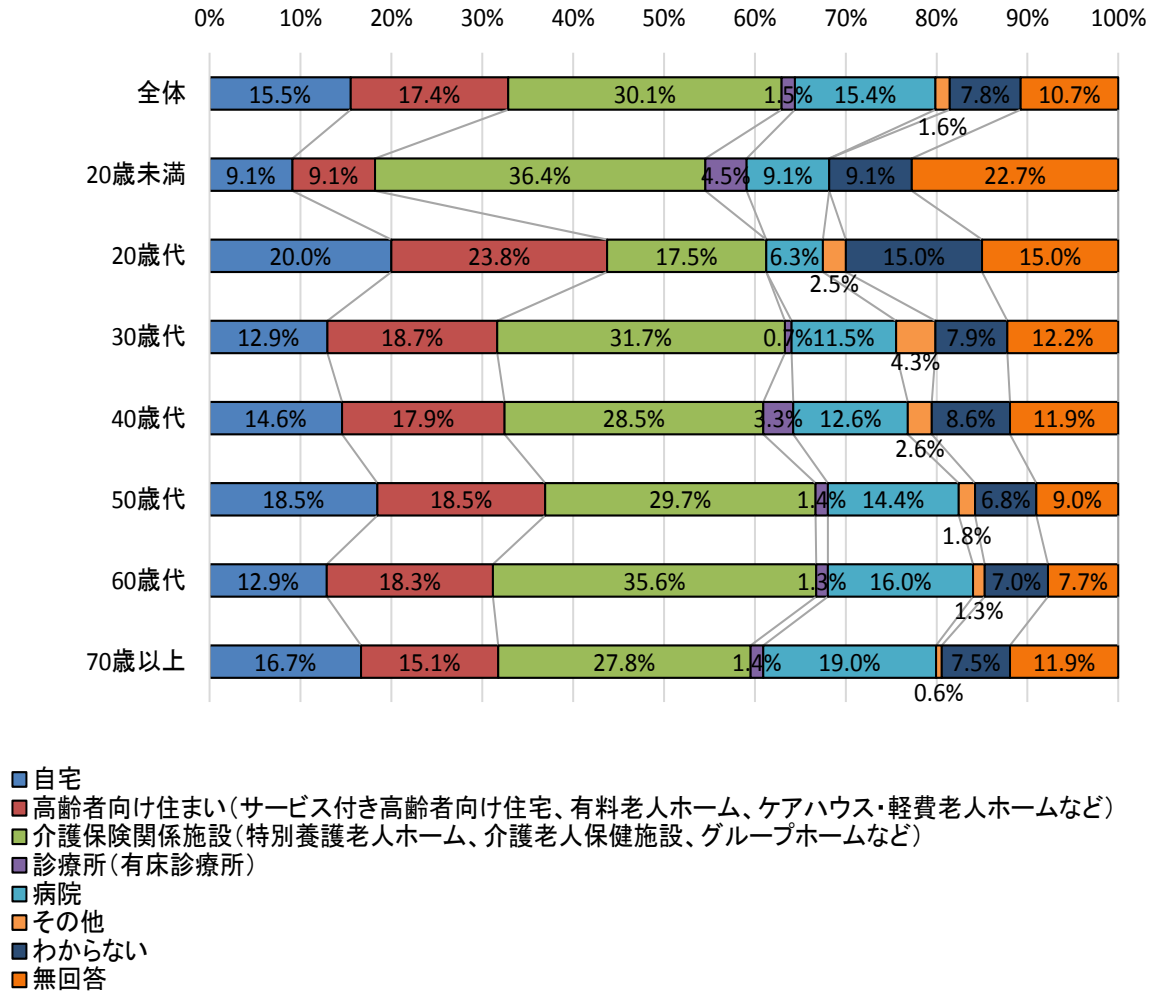


【問16－2】 あなたは、あなたの家族が高齢になり、病気やケガなどで長期の療養（介護を含む）が必要になった場合、どこで療養させたい（サービスを受けさせたい）と思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。

◆調査結果

家族が高齢になった際の長期療養についての全体では「介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）」と答えた割合が最も高く 30.1%、次いで、「高齢者向け住まい（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス・軽費老人ホームなど）」は 17.4%、「自宅」は 15.5%、「病院」が 15.4%の順であった。

年代別に見ると、「病院」の割合については年齢が高くなっていくにつれて割合も高くなっていく傾向にあった。「20 歳代」では他の世代に比べて「高齢者向け住まい（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス・軽費老人ホームなど）」がやや高く、「介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）」がやや低かった。

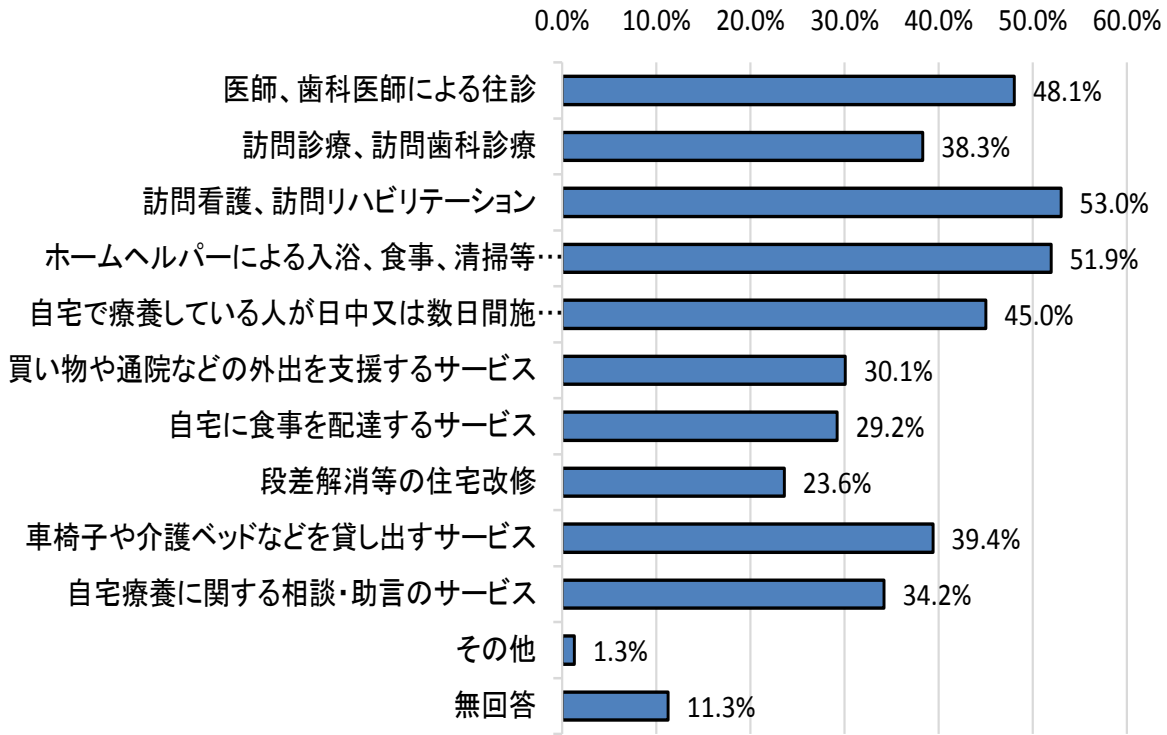


【問16－3】「問16－1」又は「問16－2」で、「1. 自宅」と答えた方におたずねします。自宅で療養する場合に、特に充実を望むサービスをすべて選んでください。

◆調査結果

問 16-1 もしくは問 16-2 で「自宅」と答えた 462 人に対し、望むサービスを尋ねたところ、「訪問看護、訪問リハビリテーション」が最も高く 53.0%、次いで「ホームヘルパーによる入浴、食事、清掃等の訪問介護」51.9%、「医師、歯科医師による往診」が 20.9%、「自宅で療養している人が日中又は数日間施設に入所等ができるサービス」が 45.0%の順であった。

圏域別に見ると、「問診療、訪問歯科診療」の割合については「有明圏域」、「菊池圏域」、「阿蘇圏域」の 3 圏域が他の圏域に比べて高かった。また、「訪問看護、訪問リハビリテーション」では「宇城圏域」、「有明圏域」、「菊池圏域」、「上益城圏域」の割合が 6 割を超えていた。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	医師、歯科医師による往診	訪問診療、訪問歯科診療	訪問看護、訪問リハビリテーション	ホームヘルパーによる入浴、食事、清掃等の訪問介護	自宅で療養している人が日中又は数日間施設に入所等ができるサービス	買い物や通院などの外出を支援するサービス	自宅に食事を配達するサービス	段差解消等の住宅改修	車椅子や介護ベッドなどを貸し出すサービス	自宅療養に関する相談・助言のサービス	その他	無回答
全体（単純集計）		462	222	177	245	240	208	139	135	109	182	158	6	52
			48.1%	38.3%	53.0%	51.9%	45.0%	30.1%	29.2%	23.6%	39.4%	34.2%	1.3%	11.3%
居住地域	熊本圏域	50	23	17	29	26	18	11	15	10	19	14	3	2
			46.0%	34.0%	58.0%	52.0%	36.0%	22.0%	30.0%	20.0%	38.0%	28.0%	6.0%	4.0%
	宇城圏域	40	20	16	29	27	19	13	15	7	17	15	1	3
			50.0%	40.0%	72.5%	67.5%	47.5%	32.5%	37.5%	17.5%	42.5%	37.5%	2.5%	7.5%
	有明圏域	34	16	17	22	18	17	10	12	5	9	13	1	3
			47.1%	50.0%	64.7%	52.9%	50.0%	29.4%	35.3%	14.7%	26.5%	38.2%	2.9%	8.8%
	鹿本圏域	50	23	17	18	21	23	18	14	9	17	14	0	7
			46.0%	34.0%	36.0%	42.0%	46.0%	36.0%	28.0%	18.0%	34.0%	28.0%	0.0%	14.0%
	菊池圏域	39	19	24	25	25	19	13	16	16	21	18	0	1
			48.7%	61.5%	64.1%	64.1%	48.7%	33.3%	41.0%	41.0%	53.8%	46.2%	0.0%	2.6%
	阿蘇圏域	47	22	24	23	23	23	12	10	14	24	17	1	5
			46.8%	51.1%	48.9%	48.9%	48.9%	25.5%	21.3%	29.8%	51.1%	36.2%	2.1%	10.6%
	上益城圏域	41	24	12	28	27	19	14	16	10	19	14	0	5
			58.5%	29.3%	68.3%	65.9%	46.3%	34.1%	39.0%	24.4%	46.3%	34.1%	0.0%	12.2%
	八代圏域	38	18	9	13	17	11	8	4	5	12	11	0	4
			47.4%	23.7%	34.2%	44.7%	28.9%	21.1%	10.5%	13.2%	31.6%	28.9%	0.0%	10.5%
	芦北圏域	43	18	16	19	18	19	14	13	13	18	16	0	6
			41.9%	37.2%	44.2%	41.9%	44.2%	32.6%	30.2%	30.2%	41.9%	37.2%	0.0%	14.0%
	球磨圏域	41	22	14	22	20	23	15	9	10	15	13	0	10
			53.7%	34.1%	53.7%	48.8%	56.1%	36.6%	22.0%	24.4%	36.6%	31.7%	0.0%	24.4%
	天草圏域	37	17	11	17	17	17	10	11	10	11	13	0	5
			45.9%	29.7%	45.9%	45.9%	45.9%	27.0%	29.7%	27.0%	29.7%	35.1%	0.0%	13.5%

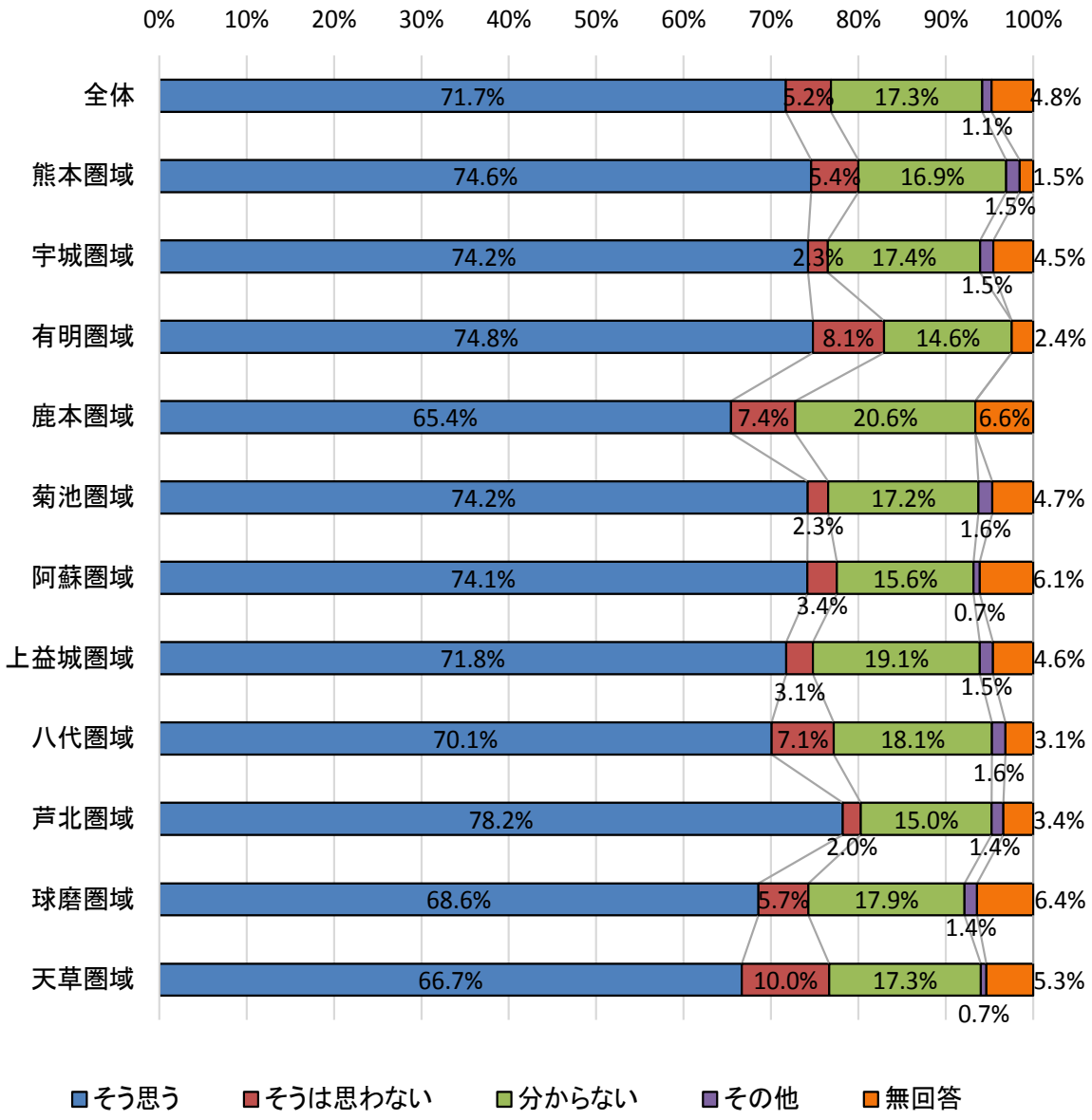
１０．「医療と介護サービスの効率的な利用」についておたずねします。

【問17】 少子高齢社会が進む中で、地域の限られた医療と介護サービスを効率的に利用するためには、医療機関への入院のほかに、在宅医療、在宅介護、生活支援サービスなど、多様なサービスを活用することが必要だと思いますか。

◆調査結果

多様なサービスの活用の必要性の全体では「そう思う」と答えたのは71.7%、「そう思わない」は5.2%、「わからない」は17.3%であった。

圏域別に見ると、全ての圏域で「そう思う」割合は６割を超え、「芦北圏域」が最も高く78.2%であった。

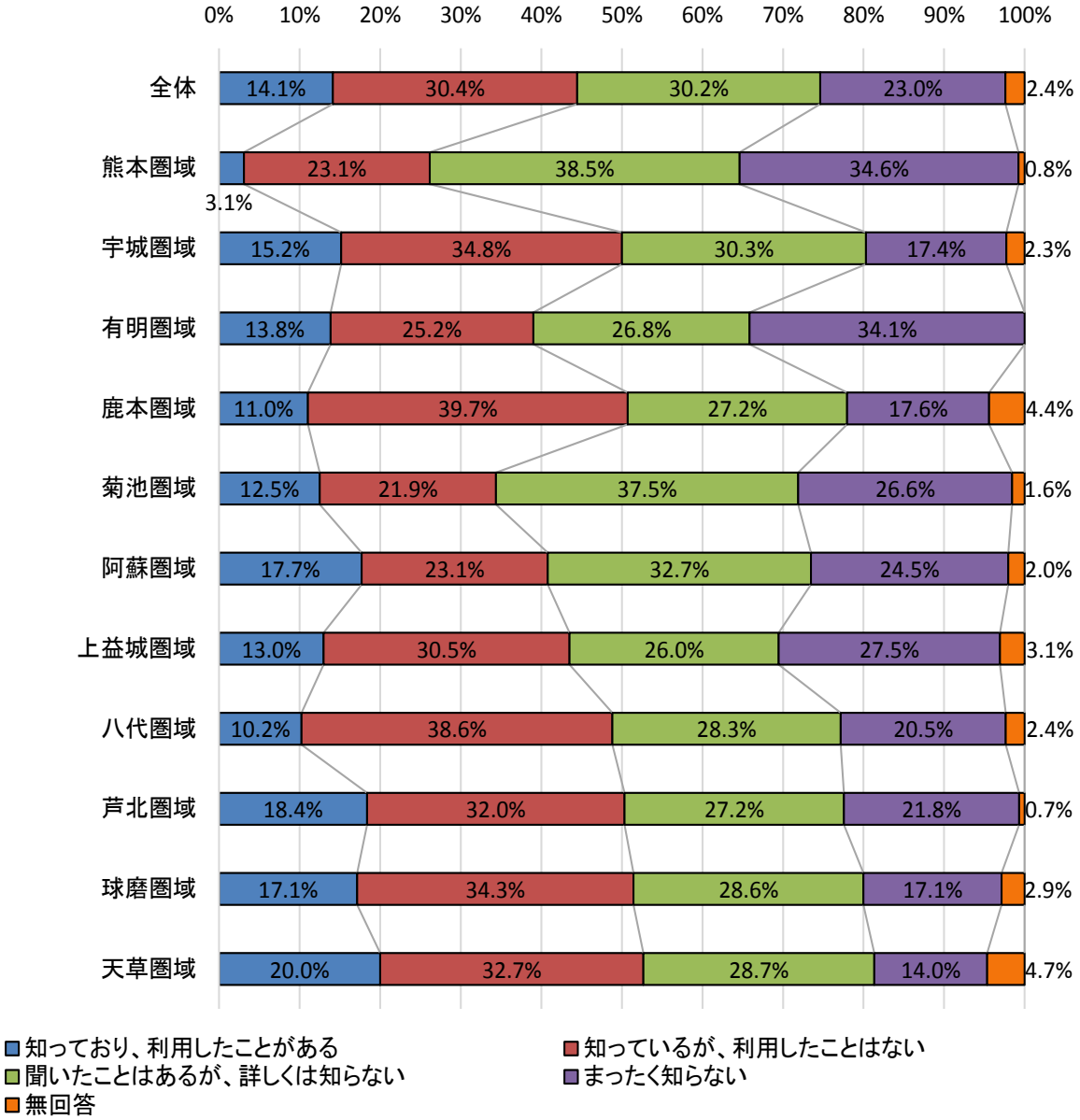


【問18】 あなたは、お住まいの地域に、高齢者や認知症の方などの保健・福祉・医療の向上、介護予防のマネジメントなどを総合的に行う「地域包括支援センター」があることを知っていますか。

◆調査結果

地域包括支援センターの周知の全体では「知っており、利用したことがある」と答えたのは 14.1%、「知っているが、利用したことはない」は 30.4%、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」は 30.2%、「まったく知らない」は 23.0%であった。

圏域別に見ると、「知っており、利用したことがある」と回答した割合で「熊本圏域」が最も低く 3.1%であった。「まったく知らない」割合は「熊本圏域」と「有明圏域」が他の圏域よりも高く 3 割を超えていた。



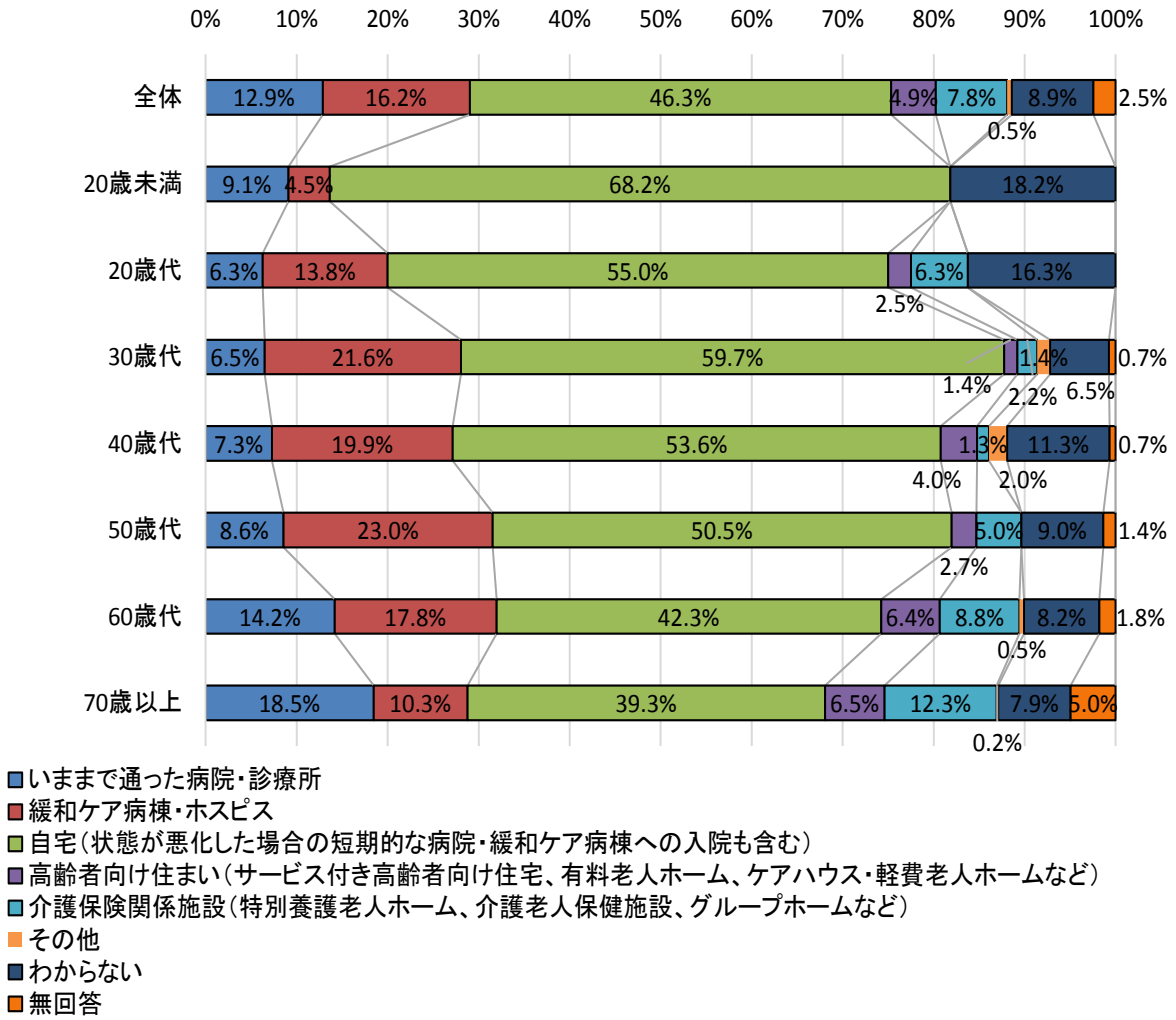
１１.「人生の最終段階の医療」についておたずねします。

【問19－1】 あなたは、回復が望めないことを医師から告げられた場合、人生の最期までどこで療養生活を送りたいと思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。

◆調査結果

人生最後の療養生活場所についての全体では「自宅（状態が悪化した場合の短期的な病院・緩和ケア病棟への入院も含む）」と答えた割合が最も高く 46.3%、次いで、「緩和ケア病棟・ホスピス」は 16.2%、「いままで通った病院・診療所」は 12.9%の順であった。

年代別に見ると、「自宅（状態が悪化した場合の短期的な病院・緩和ケア病棟への入院も含む）」の割合については年齢が高くなっていくにつれて低くなっていく傾向にあった。「いままで通った病院・診療所」の割合については年齢が高くなっていくにつれてやや高くなっていく傾向にあった。

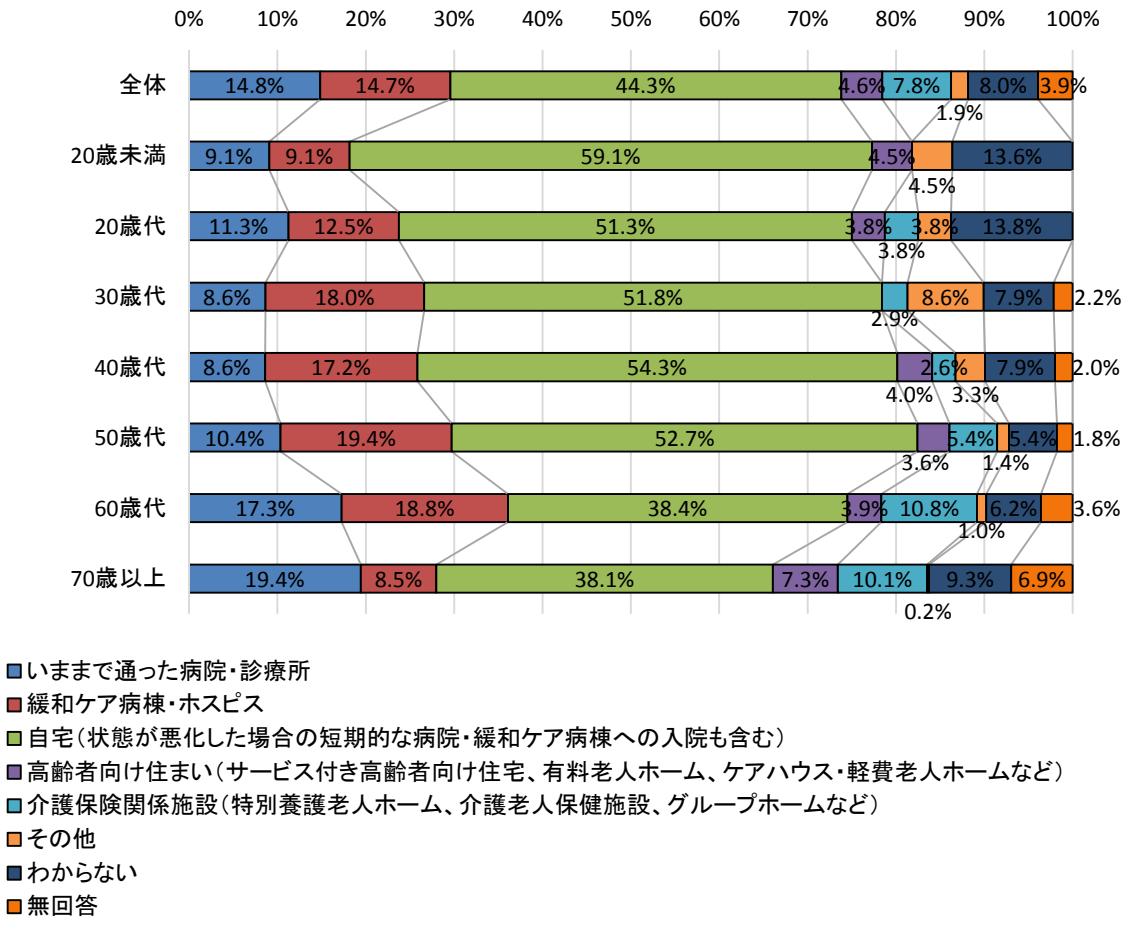


【問19－2】 あなたは、あなたの家族が回復が望めないことを医師から告げられた場合、人生の最期までどこで療養生活を送らせたいと思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。

◆調査結果

家族の人生最後の療養生活場所についての全体では「自宅（状態が悪化した場合の短期的な病院・緩和ケア病棟への入院も含む）」と答えた割合が最も高く 44.3%、次いで、「いままで通った病院・診療所」は 14.8%、「緩和ケア病棟・ホスピス」は 14.7%の順であった。

年代別に見ると、「自宅（状態が悪化した場合の短期的な病院・緩和ケア病棟への入院も含む）」の割合については年齢が高くなっていくにつれて低くなっていく傾向にあった。「いままで通った病院・診療所」の割合については年齢が高くなっていくにつれてやや高くなっていく傾向にあった。

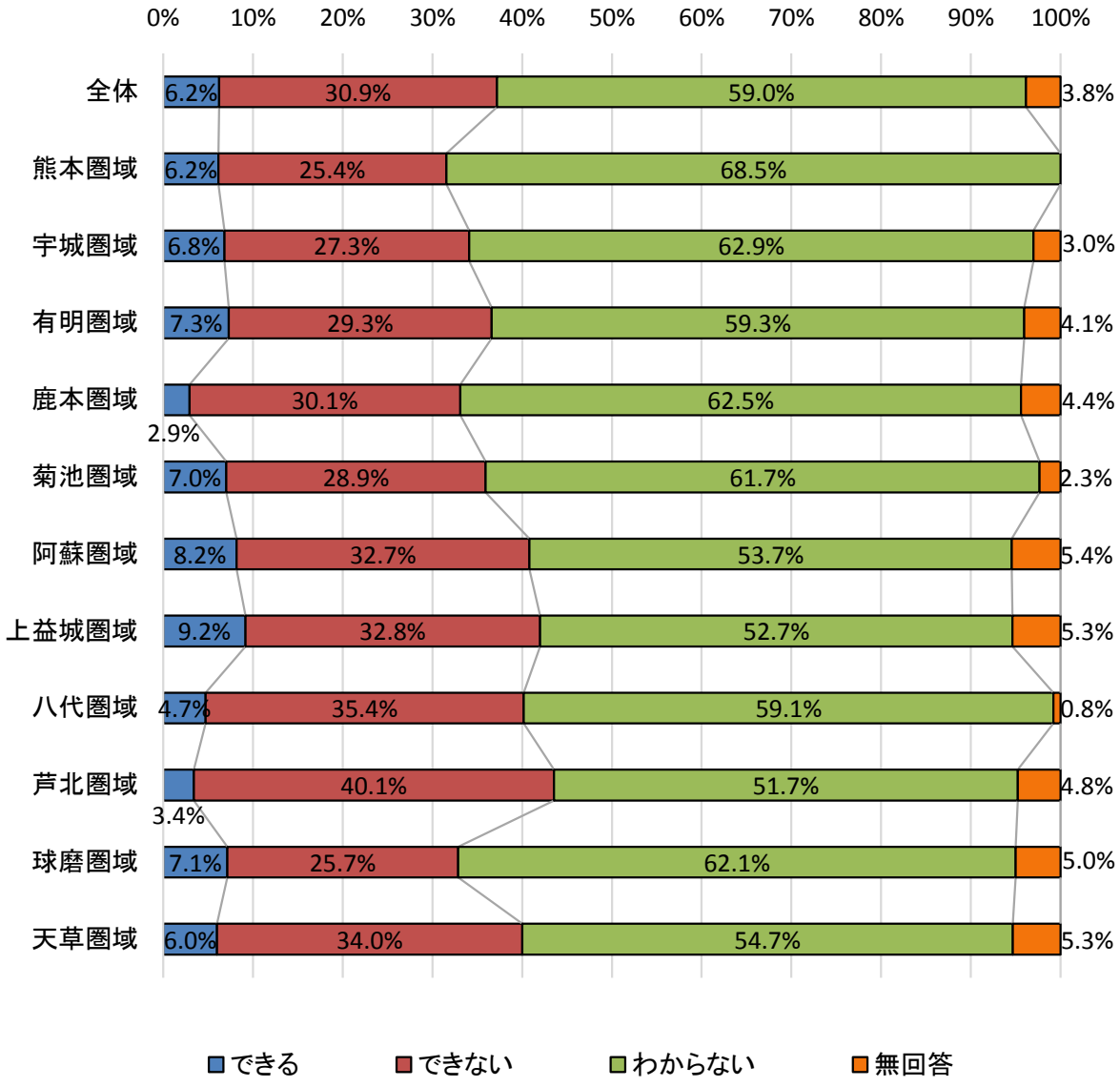


【問20－1】 あなたは、自宅で最期を迎えることができると思いますか。

◆調査結果

自宅で最期を迎えることの全体では「できる」と答えたのは 6.2%、「できない」は 30.9%、「わからない」は 59.0%であった。

圏域別に見ると、「できない」と回答した割合で「鹿本圏域」、「八代圏域」、「芦北圏域」、「天草圏域」が 3 割を超え、「芦北圏域」では 40.1%と 4 割を超えていた。「できる」割合が 1 割を超す圏域はなかった。

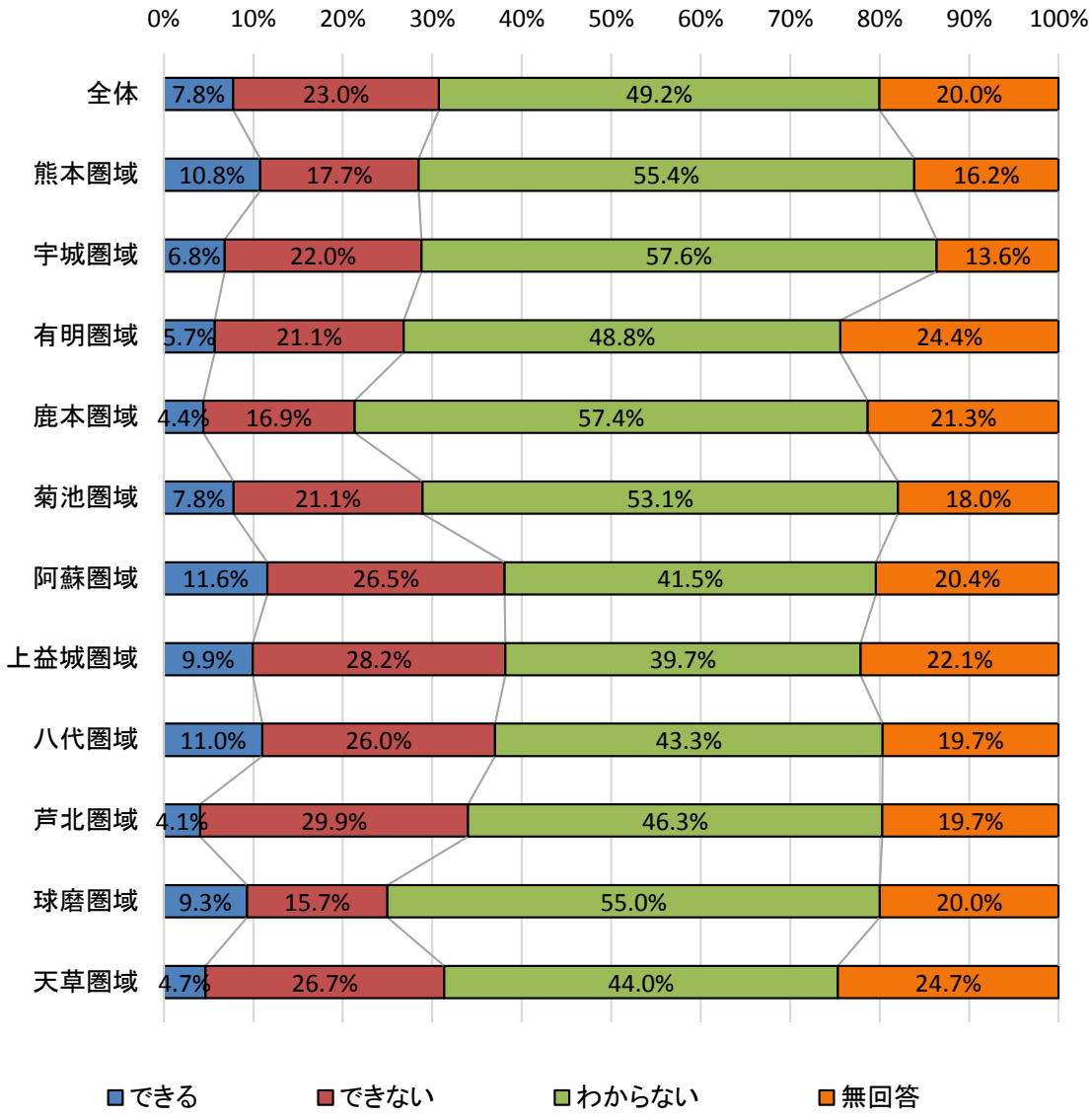


【問20－2】 あなたは、あなたの家族が自宅で最期を迎えることができると思いますか。

◆調査結果

家族が自宅で最期を迎えることの全体では「できる」と答えたのは7.8%、「できない」は23.0%、「わからない」は49.2%であった。

圏域別に見ると、「できる」と回答した割合で「熊本圏域」、「阿蘇圏域」、「八代圏域」は1割を超えたが、他の圏域では1割に満たなかった。

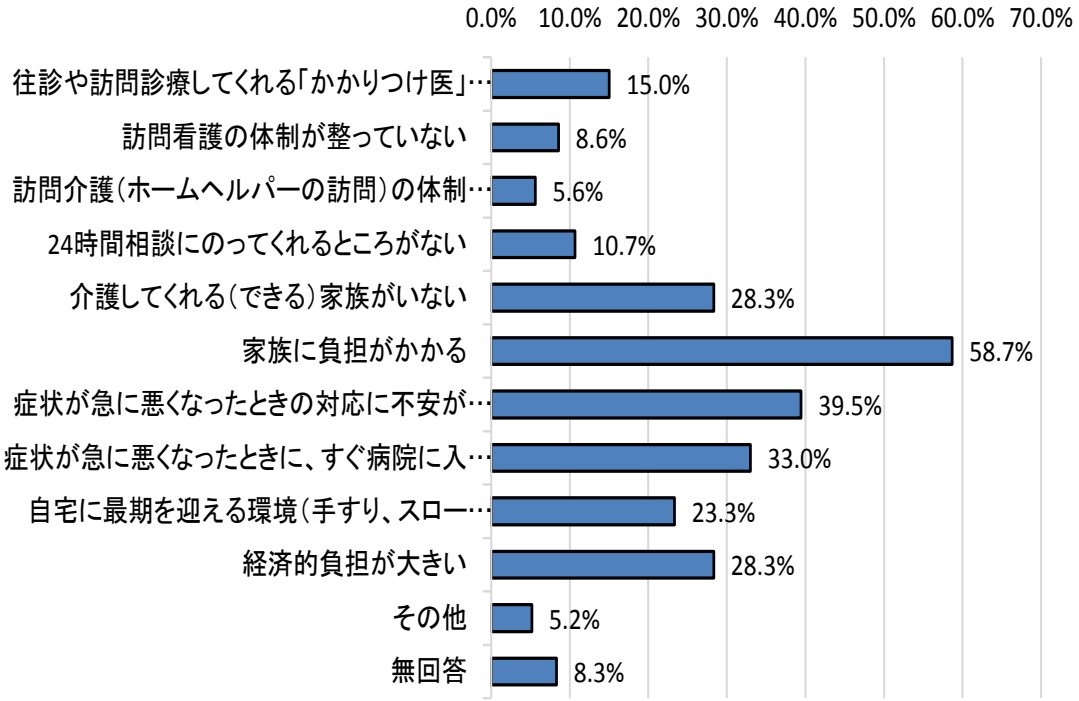


【問20－3】「問20－1」又は「問20－2」で「2．できない」又は「3．わからない」と答えた方におたずねします。そのように考える理由について、当てはまるものすべて選んでください。

◆調査結果

問 20-1 もしくは問 20-2 で「できない」もしくは「わからない」と答えた 1,384 人に対し、理由を尋ねたところ、「家族に負担がかかる」が最も高く 58.7%、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に不安がある」39.5%、「症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安がある」が 33.0%の順であった。

圏域別に見ると、「介護してくれる（できる）家族がいない」と回答した割合は「菊池圏域」、「阿蘇圏域」、「八代圏域」、「芦北圏域」の 4 つで 3 割を超していた。「症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安がある」と回答した割合は「阿蘇圏域」、「上益城圏域」で 4 割を超す結果であった。



（上段：人　下段：%）

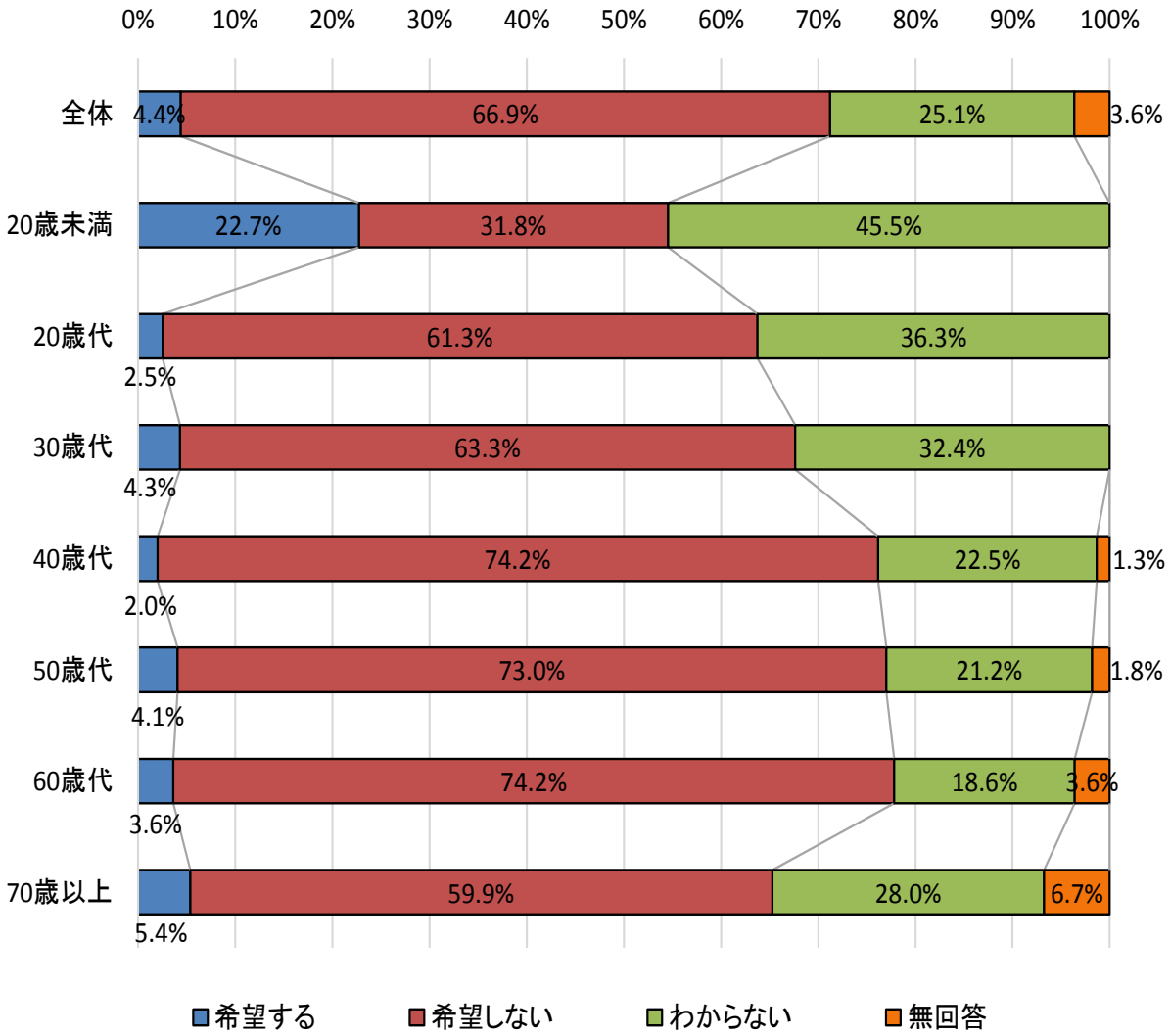
		標本数（人）	往診や訪問診療してくれる「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」がいない	訪問看護の体制が整っていない	訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の体制が整っていない	24時間相談にのってくれるところがない	介護してくれる（できる）家族がいない	家族に負担がかかる	症状が急に悪くなったときの対応に不安がある	症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安がある	自宅に最期を迎える環境（手すり、スロープ、ベッド等）が整っていない	経済的負担が大きい	その他	無回答
全体（単純集計）		1,384	208	119	78	148	392	812	546	457	323	392	72	115
			15.0%	8.6%	5.6%	10.7%	28.3%	58.7%	39.5%	33.0%	23.3%	28.3%	5.2%	8.3%
居住地域	熊本圏域	122	21	12	12	7	27	77	42	42	34	41	7	8
			17.2%	9.8%	9.8%	5.7%	22.1%	63.1%	34.4%	34.4%	27.9%	33.6%	5.7%	6.6%
	宇城圏域	123	22	9	4	12	30	67	58	42	35	43	5	14
			17.9%	7.3%	3.3%	9.8%	24.4%	54.5%	47.2%	34.1%	28.5%	35.0%	4.1%	11.4%
	有明圏域	114	21	11	6	11	30	64	52	39	24	26	8	5
			18.4%	9.6%	5.3%	9.6%	26.3%	56.1%	45.6%	34.2%	21.1%	22.8%	7.0%	4.4%
	鹿本圏域	128	19	11	7	16	37	80	45	35	22	32	1	17
			14.8%	8.6%	5.5%	12.5%	28.9%	62.5%	35.2%	27.3%	17.2%	25.0%	0.8%	13.3%
	菊池圏域	120	23	12	9	16	37	64	38	24	33	30	9	10
			19.2%	10.0%	7.5%	13.3%	30.8%	53.3%	31.7%	20.0%	27.5%	25.0%	7.5%	8.3%
	阿蘇圏域	129	21	12	9	18	39	86	46	52	39	38	9	7
			16.3%	9.3%	7.0%	14.0%	30.2%	66.7%	35.7%	40.3%	30.2%	29.5%	7.0%	5.4%
	上益城圏域	114	20	11	5	10	32	73	50	51	26	33	6	7
			17.5%	9.6%	4.4%	8.8%	28.1%	64.0%	43.9%	44.7%	22.8%	28.9%	5.3%	6.1%
	八代圏域	121	14	7	4	12	37	75	56	41	26	39	7	8
			11.6%	5.8%	3.3%	9.9%	30.6%	62.0%	46.3%	33.9%	21.5%	32.2%	5.8%	6.6%
	芦北圏域	137	14	12	7	11	51	73	48	41	30	38	6	14
			10.2%	8.8%	5.1%	8.0%	37.2%	53.3%	35.0%	29.9%	21.9%	27.7%	4.4%	10.2%
	球磨圏域	125	14	7	6	14	34	66	45	33	24	32	8	13
			11.2%	5.6%	4.8%	11.2%	27.2%	52.8%	36.0%	26.4%	19.2%	25.6%	6.4%	10.4%
	天草圏域	136	16	14	8	21	37	83	62	51	28	37	4	11
			11.8%	10.3%	5.9%	15.4%	27.2%	61.0%	45.6%	37.5%	20.6%	27.2%	2.9%	8.1%

【問21－1】 将来、あなたが治る見込みのない病気になり、判断能力や意識がなくなった場合に、自身の延命治療を希望しますか。

◆調査結果

自分の延命治療の希望について全体では、「希望する」と答えたのは4.4%、「希望しない」は66.9%、「わからない」は25.1%であった。

年代別にみると、20歳未満の「希望する」という回答が22.7%と他の年代よりも高くなっている。また、「20歳未満」「20歳代」「30歳代」では他の年代よりも「わからない」の割合がやや高い傾向にあった。

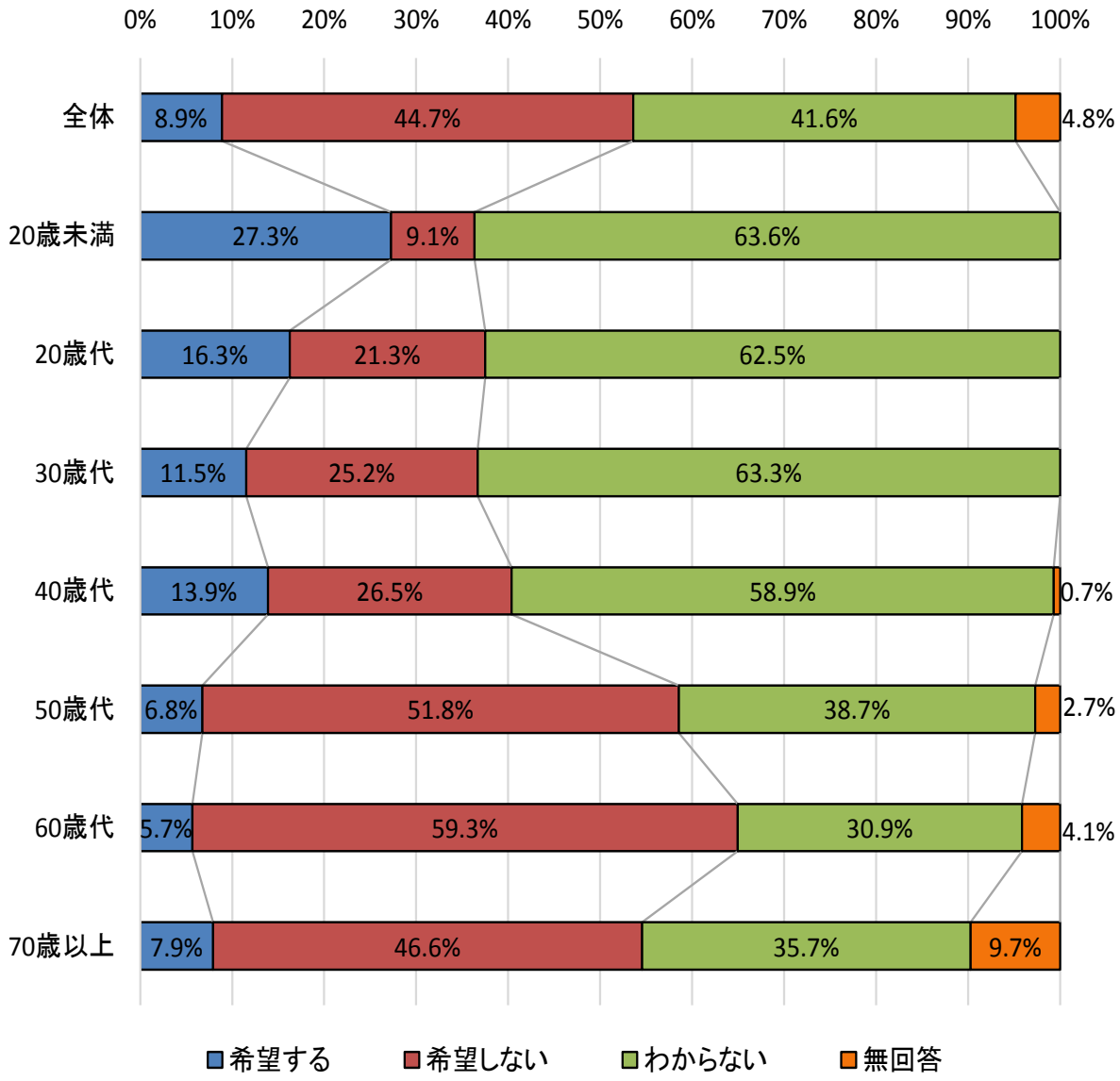


【問21－2】 将来、あなたの家族が治る見込みのない病気になり、判断能力や意識がなくなった場合に、その家族に対し延命治療を希望しますか。

◆調査結果

家族の延命治療の希望について全体では、「希望する」と答えたのは8.9%、「希望しない」は44.7%、「わからない」は41.6%であった。

年代別にみると、「20歳未満」「20歳代」「30歳代」「40歳代」において「希望しない」という回答が50歳代以上よりも低い傾向にあった。

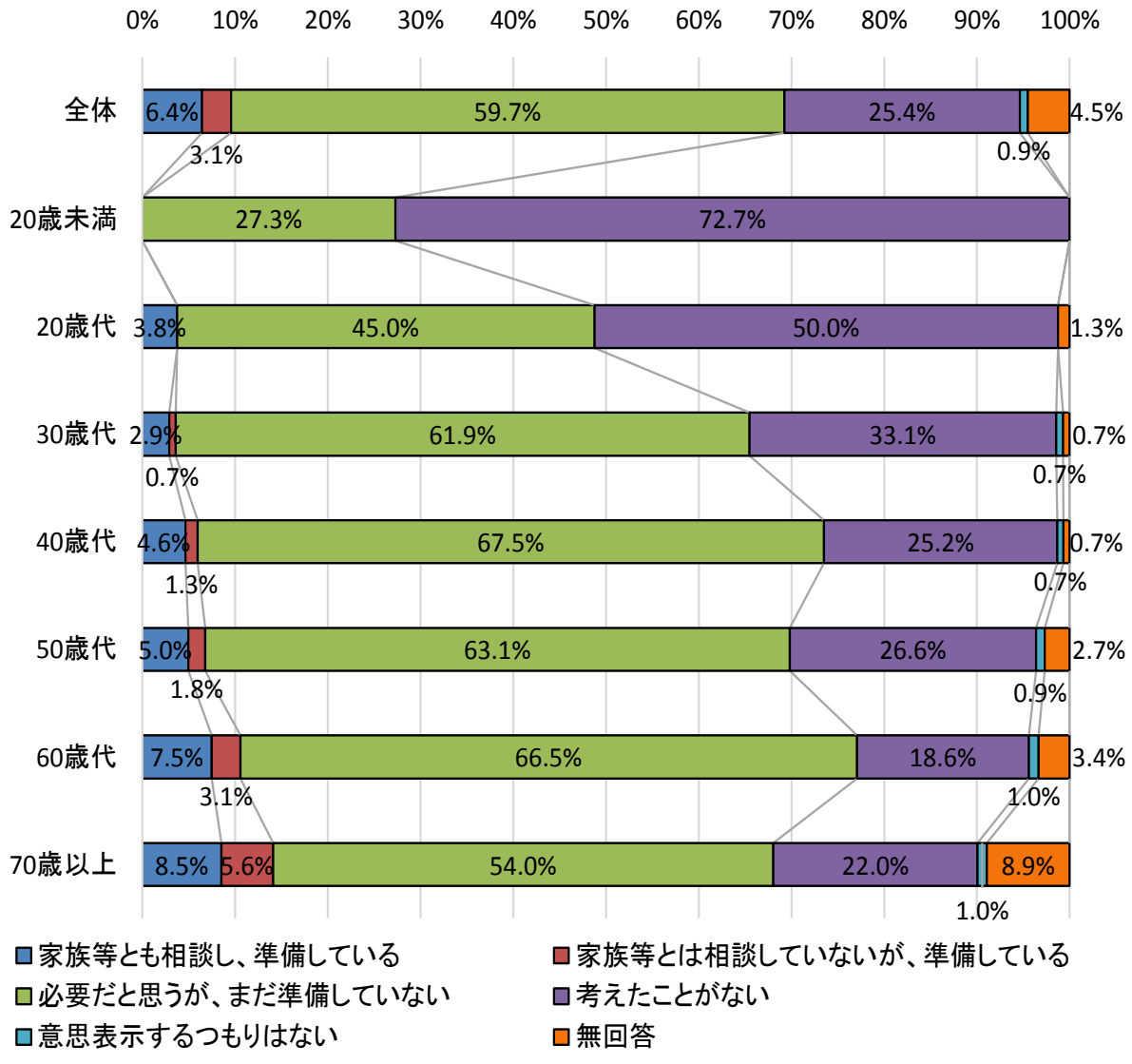


【問22－1】 あなたは、判断能力や意識がなくなった場合に備えて、人生の最終段階の医療（延命治療を含む）に関する意思表示の手段（記録や書類）を準備していますか。

◆調査結果

人生の最終段階の医療に関する意思表示の手段の準備について全体では、「必要だと思うが、まだ準備していない」（59.7%）が最も多く、次に「考えたことがない」（25.4%）、「家族等とも相談し、準備している」（6.4%）、「家族等とは相談していないが、準備している」（3.1%）の順となっている。

年代別でみると、「家族等とも相談し、準備している」「家族等とは相談していないが、準備している」の回答は、年齢が高くなっていくにつれて割合も高くなっていく傾向にあった。また、「20 歳未満」「20 歳代」で「考えたことがない」と回答している割合が他の年代より高くなっている。

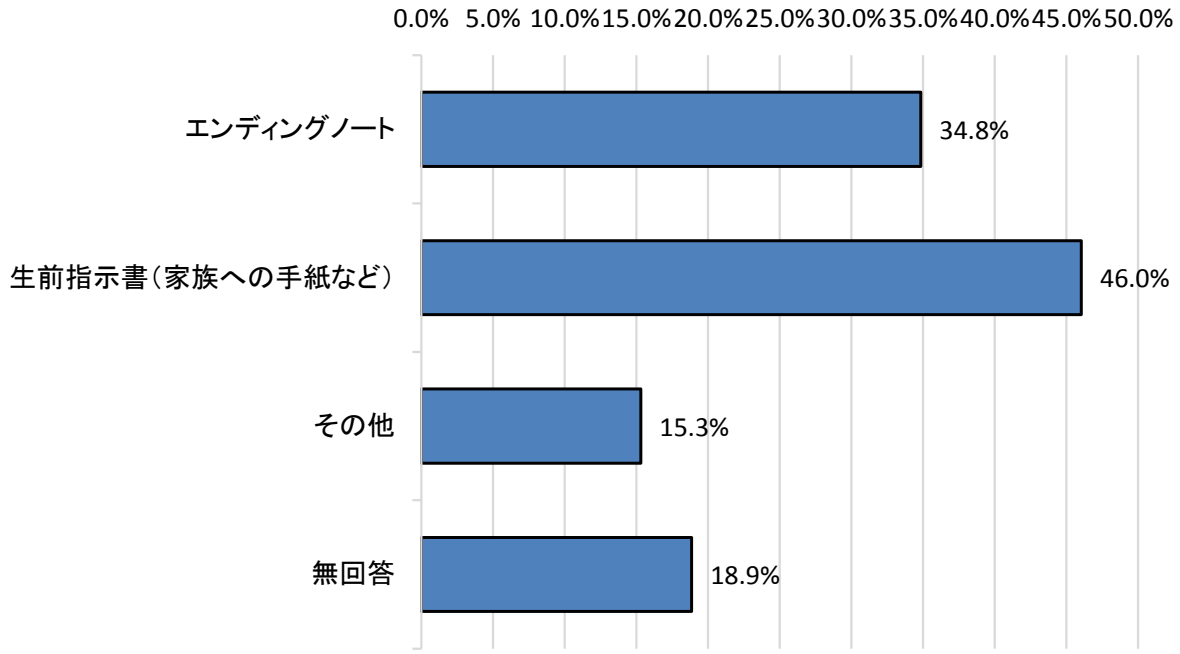


【問22－2】「問22－1」で「1．家族等とも相談し、準備している」、「2．家族等とは相談していないが、準備している」又は「3．必要だと思うが、まだ準備していない」を選んだ方におたずねします。その手段について、当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

問 22-1 で「家族等とも相談し、準備している」、「家族等とは相談していないが、準備している」、「必要だと思うが、まだ準備していない」と回答した 1045 人に対し、手段を尋ねたところ、「生前指示書（家族への手紙など）」（46.0%）が最も多く、次に「エンディングノート」（34.8%）、「その他」（15.3%）という結果となった。

年代別でみると、「60 歳代」「70 歳以上」では「エンディングノート」と回答した割合が他の年代よりも低くなっていた。また、「生前指示書（家族への手紙など）」については年齢が高くなっていくにつれて割合は低くなっていく傾向にあった。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	エンディングノート	生前指示書（家族への手紙など）	その他	無回答
全体（単純集計）		1,045	364	481	160	197
			34.8%	46.0%	15.3%	18.9%
年代別	20歳未満	6	2	4	0	1
			33.3%	66.7%	0.0%	16.7%
	20歳代	39	20	24	2	3
			51.3%	61.5%	5.1%	7.7%
	30歳代	91	42	50	11	7
			46.2%	54.9%	12.1%	7.7%
	40歳代	111	54	65	12	6
			48.6%	58.6%	10.8%	5.4%
	50歳代	155	66	76	34	14
			42.6%	49.0%	21.9%	9.0%
	60歳代	299	98	128	50	58
			32.8%	42.8%	16.7%	19.4%
	70歳以上	343	82	134	51	107
			23.9%	39.1%	14.9%	31.2%

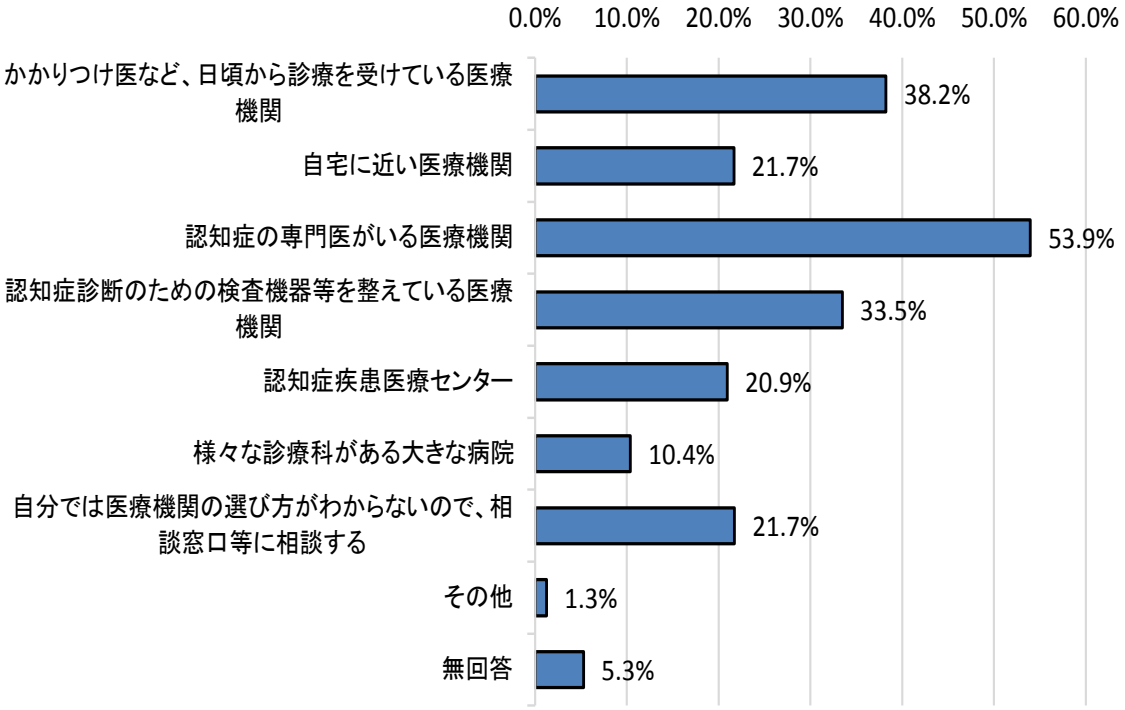
１２．「認知症に関する医療」についておたずねします。

【問23】 将来、あなたに認知症の疑いがあって、はじめて認知症の診断を受ける場合、何を重視して医療機関を選びますか。当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

はじめて認知症の診断を受ける場合の医療機関選びに重視するものについて全体では、「認知症の専門医がいる医療機関」（53.9%）が最も多く、次に「かかりつけ医など、日頃から診療を受けている医療機関」（38.2%）、「認知症診断のための検査機器等を整えている医療機関」（33.5%）という結果となった。

年代別でみると、「70 歳以上」において「かかりつけ医など、日頃から診療を受けている医療機関」が他の年代よりも高くなっており、「認知症の専門医がいる医療機関」は他の年代よりも低くなっていた。



（上段：人　下段：%）

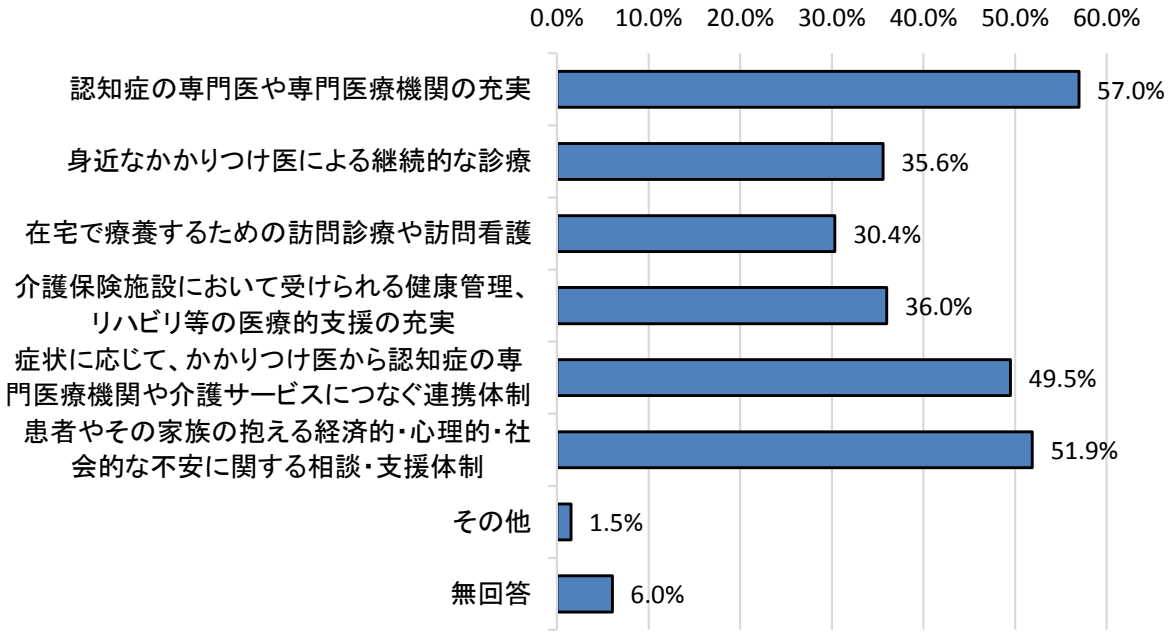
		標本数（人）	かかりつけ医など、日頃から診療を受けている医療機関	自宅に近い医療機関	認知症の専門医がいる医療機関	認知症診断のための検査機器等を整えている医療機関	認知症疾患医療センター	様々な診療科がある大きな病院	自分では医療機関の選び方がわからないので、相談窓口等に相談する	その他	無回答
全体（単純集計）		1,509	577	327	814	505	316	157	328	19	80
			38.2%	21.7%	53.9%	33.5%	20.9%	10.4%	21.7%	1.3%	5.3%
年代別	20歳未満	22	4	4	13	7	2	2	4	0	0
			18.2%	18.2%	59.1%	31.8%	9.1%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%
	20歳代	80	27	22	52	29	24	13	13	1	0
			33.8%	27.5%	65.0%	36.3%	30.0%	16.3%	16.3%	1.3%	0.0%
	30歳代	139	30	34	92	50	42	11	23	3	2
			21.6%	24.5%	66.2%	36.0%	30.2%	7.9%	16.5%	2.2%	1.4%
	40歳代	151	34	39	104	54	42	16	34	1	3
			22.5%	25.8%	68.9%	35.8%	27.8%	10.6%	22.5%	0.7%	2.0%
	50歳代	222	71	60	152	89	52	25	52	3	4
			32.0%	27.0%	68.5%	40.1%	23.4%	11.3%	23.4%	1.4%	1.8%
	60歳代	388	149	81	223	137	81	44	97	3	17
			38.4%	20.9%	57.5%	35.3%	20.9%	11.3%	25.0%	0.8%	4.4%
	70歳以上	504	261	86	177	139	73	46	104	8	53
			51.8%	17.1%	35.1%	27.6%	14.5%	9.1%	20.6%	1.6%	10.5%

【問24】 あなたが認知症の治療を継続的に受ける必要がある場合、認知症医療について、どのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

認知症医療で力を入れてほしい取り組みについて全体では、「認知症の専門医や専門医療機関の充実」（57.0%）が最も多く、次に「患者やその家族の抱える経済的・心理的・社会的な不安に関する相談・支援体制」（51.9%）、「症状に応じて、かかりつけ医から認知症の専門医療機関や介護サービスにつなぐ連携体制」（49.5%）、「介護保険施設において受けられる健康管理、リハビリ等の医療的支援の充実」（36.0%）という結果となった。

年代別でみると、「認知症の専門医や専門医療機関の充実」については「20 歳代」「30 歳代」で 7 割前後あるのに対し、「70 歳以上」では 4 割程度であった。また、「70 歳以上」の「患者やその家族の抱える経済的・心理的・社会的な不安に関する相談・支援体制」においては他の年代よりも低くなっていた。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	認知症の専門医や専門医療機関の充実	身近なかかりつけ医による継続的な診療	在宅で療養するための訪問診療や訪問看護	介護保険施設において受けられる健康管理、リハビリ等の医療的支援の充実	症状に応じて、かかりつけ医から認知症の専門医療機関や介護サービスにつなぐ連携体制	患者やその家族の抱える経済的・心理的・社会的な不安に関する相談・支援体制	その他	無回答
全体（単純集計）		1,509	860	537	458	543	747	783	23	91
			57.0%	35.6%	30.4%	36.0%	49.5%	51.9%	1.5%	6.0%
年代別	20歳未満	22	13	6	5	7	13	11	0	0
			59.1%	27.3%	22.7%	31.8%	59.1%	50.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	80	56	29	26	27	43	48	3	0
			70.0%	36.3%	32.5%	33.8%	53.8%	60.0%	3.8%	0.0%
	30歳代	139	94	44	46	51	67	90	4	3
			67.6%	31.7%	33.1%	36.7%	48.2%	64.7%	2.9%	2.2%
	40歳代	151	97	57	43	54	85	98	3	1
			64.2%	37.7%	28.5%	35.8%	56.3%	64.9%	2.0%	0.7%
	50歳代	222	134	80	90	98	123	135	5	5
			60.4%	36.0%	40.5%	44.1%	55.4%	60.8%	2.3%	2.3%
	60歳代	388	225	120	111	145	211	210	2	16
			58.0%	30.9%	28.6%	37.4%	54.4%	54.1%	0.5%	4.1%
	70歳以上	504	240	201	136	161	204	190	6	65
			47.6%	39.9%	27.0%	31.9%	40.5%	37.7%	1.2%	12.9%

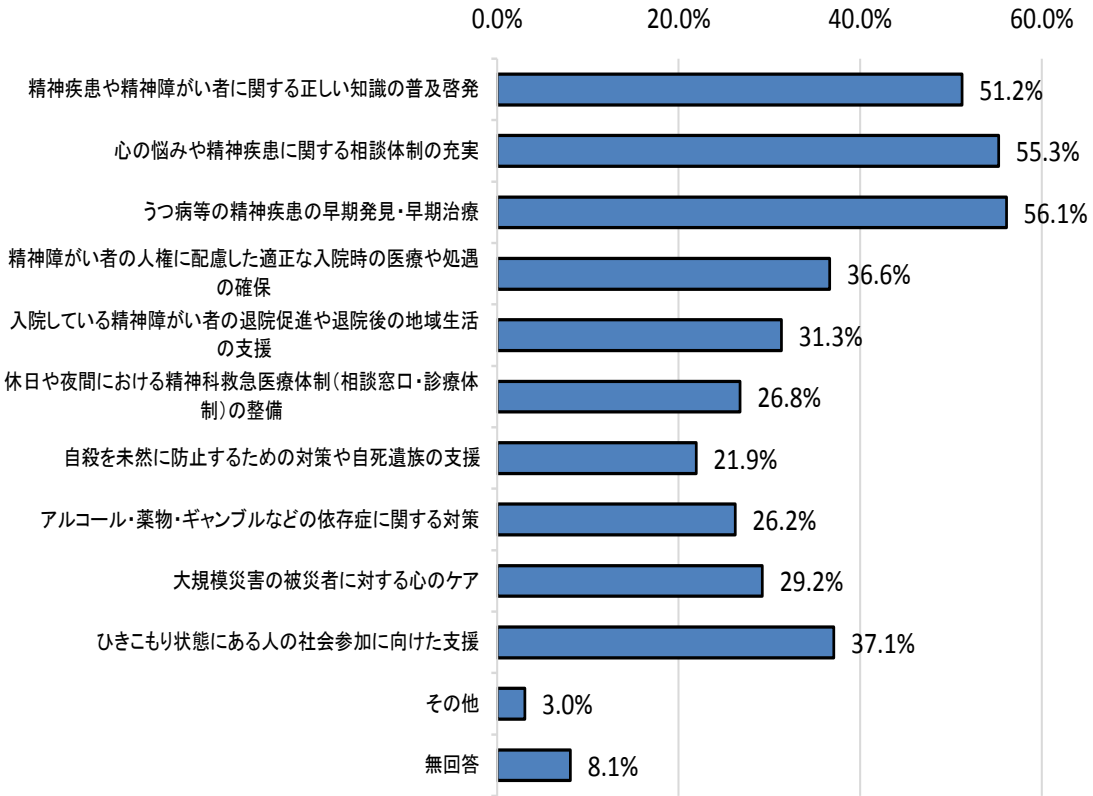
１３.「精神保健福祉及び精神医療」に関することについておたずねします。

【問25】 あなたは、精神保健福祉及び精神医療に関する施策について、どのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

◆調査結果

精神保健福祉及び精神医療に関する施策で力を入れてほしい取り組みについての全体では、「うつ病等の精神疾患の早期発見・早期治療」（56.1%）が最も多く、次に「心の悩みや精神疾患に関する相談体制の充実」（55.3%）、「精神疾患や精神障がい者に関する正しい知識の普及啓発」（51.2%）、「ひきこもり状態にある人の社会参加に向けた支援」（37.1%）という結果となった。

年代別でみると、「うつ病等の精神疾患の早期発見・早期治療」の「60歳代」と「70 歳以上」の回答している割合が他の年代より低くなっていた。また、「アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症に関する対策」の「20 歳代」「30 歳代」「40 歳代」の回答の割合は他の年代より高くなっていた。



（上段：人　下段：%）

		標本数（人）	精神疾患や精神障がい者に関する正しい知識の普及啓発	心の悩みや精神疾患に関する相談体制の充実	うつ病等の精神疾患の早期発見・早期治療	精神障がい者の人権に配慮した適正な入院時の医療や処遇の確保	入院している精神障がい者の退院促進や退院後の地域生活の支援	休日や夜間における精神科救急医療体制（相談窓口・診療体制）の整備	自殺を未然に防止するための対策や自死遺族の支援	アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症に関する対策	大規模災害の被災者に対するこころのケア	ひきこもり状態にある人の社会参加に向けた支援	その他	無回答
全体（単純集計）		1,509	773	834	847	553	473	404	331	396	441	560	46	122
			51.2%	55.3%	56.1%	36.6%	31.3%	26.8%	21.9%	26.2%	29.2%	37.1%	3.0%	8.1%
年代別	20歳未満	22	10	12	15	6	6	7	6	6	3	5	2	1
			45.5%	54.5%	68.2%	27.3%	27.3%	31.8%	27.3%	27.3%	13.6%	22.7%	9.1%	4.5%
	20歳代	80	50	53	56	27	22	27	19	32	38	24	2	2
			62.5%	66.3%	70.0%	33.8%	27.5%	33.8%	23.8%	40.0%	47.5%	30.0%	2.5%	2.5%
	30歳代	139	82	87	86	48	50	46	46	51	57	59	7	5
			59.0%	62.6%	61.9%	34.5%	36.0%	33.1%	33.1%	36.7%	41.0%	42.4%	5.0%	3.6%
	40歳代	151	83	97	96	53	49	43	44	48	50	58	6	3
			55.0%	64.2%	63.6%	35.1%	32.5%	28.5%	29.1%	31.8%	33.1%	38.4%	4.0%	2.0%
	50歳代	222	124	140	136	94	78	59	54	61	74	95	10	4
			55.9%	63.1%	61.3%	42.3%	35.1%	26.6%	24.3%	27.5%	33.3%	42.8%	4.5%	1.8%
	60歳代	388	197	219	216	162	122	118	85	103	110	159	10	20
			50.8%	56.4%	55.7%	41.8%	31.4%	30.4%	21.9%	26.5%	28.4%	41.0%	2.6%	5.2%
	70歳以上	504	225	225	241	161	145	104	77	94	109	160	9	86
			44.6%	44.6%	47.8%	31.9%	28.8%	20.6%	15.3%	18.7%	21.6%	31.7%	1.8%	17.1%

」

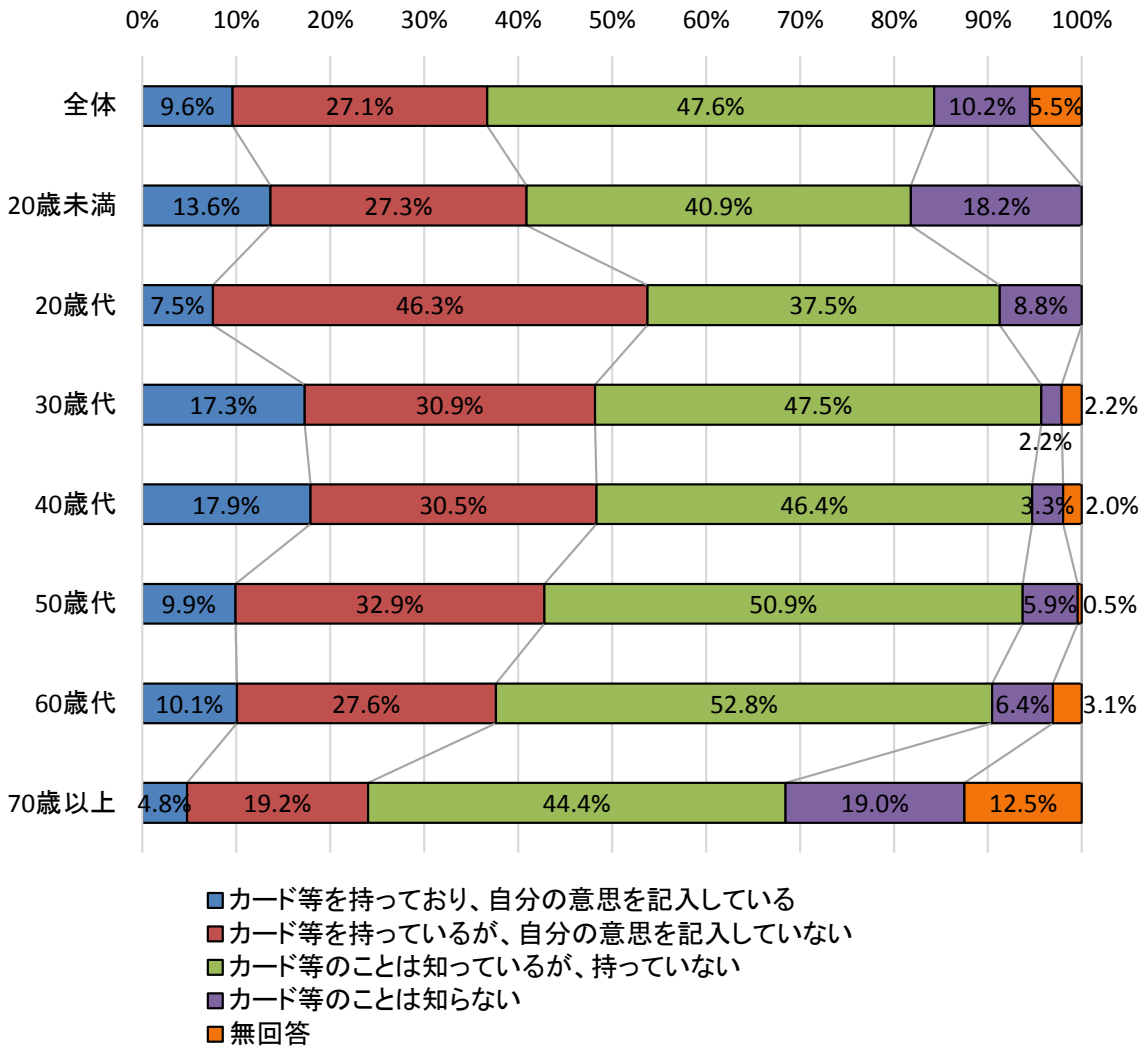
１４．「臓器提供」についておたずねします。

【問26】 臓器提供意思表示カード等（被保険者証や運転免許証、マイナンバーカード等に意思表示欄があるものを含む。）について、当てはまるものを1つ選んでください。

◆調査結果

臓器提供意思表示カード等について全体では、「カード等のことは知っているが、持っていない」（47.6%）が最も多く、次に「カード等を持っているが、自分の意思を記入していない」（27.1%）、「カード等のことは知らない」（10.2%）、「カード等を持っており、自分の意思を記入している」（9.6%）という結果となった。

年代別にみると、「カード等を持っており、自分の意思を記入している」と回答した割合は、「40歳代」（17.9）が最も多く、次いで「30歳代」（17.3%）、「20歳未満」（13.6%）となっている。また、「20歳未満」、「70歳以上」で「カード等のことは知らない」と回答した人は約2割となっている。



調　査　票

保健医療に関する県民意識調査

＊住民基本台帳から無作為に選ばせていただいた方に、送付させていただいております。

この調査（アンケート）は、県民の皆さまの保健医療に関するお考えをお尋ねし、調査結果を第７次熊本県保健医療計画（計画期間：平成３０～３５年度）の策定に活用するほか、今後の県の保健医療行政の推進に活用させていただくこととしております。

御多忙とは存じますが、御協力いただきますようお願いします。

なお、本調査は無記名方式で行い、調査結果は統計処理して上記の目的以外には使用しませんので、率直なご意見をお聞かせくださるよう、併せてお願いいたします。

平成 29 年2月

熊本県知事　蒲島　郁夫

【問合せ先】
熊本県健康福祉部　健康福祉政策課　　担当：伊藤、古庄、黒瀬
住所：熊本市中央区水前寺６－１８－１　電話：０９６－３３３－２１９３

以下の質問について、回答を記入していただきますようお願いします。

選択肢のある回答は、該当するものに「○」を付けてください。

あなたのことについておたずねします。

【問１】　あなたのお住まいの市町村名をご記入ください。

（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿市・町・村）

【問２】　あなたの性別を教えてください。

１．男　　２．女

【問３】　あなたの年齢（年代）を教えてください。

１．２０歳未満　　２．２０歳代　　３．３０歳代　　４．４０歳代
５．５０歳代　　６．６０歳代　　７．７０歳以上

【問４】　あなたは、携帯電話やパソコン等※1でインターネットを利用していますか。

※１　この質問における「パソコン等」とは、タブレットなど携帯電話以外でインターネットを利用できるすべての端末のことをいいます。

１．携帯電話とパソコン等※1のいずれも利用している
２．携帯電話でのみ利用している
３．パソコン等でのみ利用している

４．まったく利用していない

１．「お住まいの地域における医療提供」についておたずねします。

【問５－１】　お住まいの地域の医療機関で、必要な診療を十分に受けることできますか。

１．十分できる

２．ある程度できる

３．十分でない　→【問５－２】【問５－３】へ

【問５－２】　「問５－１」で「３．十分でない」と答えた方におたずねします。
どの診療科が十分でないと考えますか。当てはまるものを**すべて**選んでください。

１．内科系　　２．外科系（整形外科を含む）　　３．眼科系　　４．耳鼻咽喉科系

５．皮ふ泌尿器科系　　６．小児科系　　７．精神科系　　８．産婦人科系

９．歯科系　　１０．その他（　　）

【問５－３】　「問５－１」で「３．十分でない」と答えた方におたずねします。どのような時に、十分な診療を受けることができないと感じますか。

１．常時　　２．休日・夜間　　３．その他（　　）

【問６－１】　退院した後に、お住まいの地域でリハビリや在宅療養をするための医療機関を探すことができると思いますか。

１．それらの医療機関が十分にあるため、探すことができると思う。

２．それらの医療機関が十分にないため、探すことはできないと思う。

３．それらの医療機関は十分にあるが、相談先や情報を得る方法が分からない。

４．その他（　　）　　５．わからない

【問６－２】　お住まいの地域で、在宅医療※２や在宅介護※３のサービスを受けることができると思いますか。

※２　「在宅医療」とは、自宅のほか、高齢者住宅や特別養護老人ホームなど普段生活している場所で、かかりつけ医※11やかかりつけ歯科医による往診※14や訪問診療※15のほか、かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師※16や訪問看護ステーションなどによるサービスのことです。

※３　「在宅介護」とは、居宅サービス事業者や介護予防サービス事業者が提供する、訪問介護、通所介護や短期入所サービスなどのサービスのことです。

１．十分な体制が整っているため、サービスを受けることができると思う。

２．十分な在宅医療サービスが受けられないと思う。

３．十分な在宅介護サービスが受けられないと思う。

４．地域の在宅医療や在宅介護の情報がよくわからない。

５．その他（　　）　　６．わからない

2．「がん」に関することについておたずねします。

【問７】　あなたは、がん対策についてどのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものを**すべて**選んでください。

１．がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）

２．がんに関する専門的医療従事者の育成

３．がんの予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む）

４．子どもに対する、がんに関する教育

５．がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備

６．緩和ケア　　７．がんに関する情報の提供

８．がんに関する相談やその支援　　９．がん登録※4

１０．がんの早期発見（がん検診）　　１１．希少がん対策（小児がんを含む。）

１２．その他（　　）

※４　「がん登録」とは、がんの診断、治療、経過などに関する情報を集め、保管、整理、解析する仕組みのことです。

3．「脳卒中」に関することについておたずねします。

【問８】　あなたは、脳卒中対策についてどのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものを**すべて**選んでください。

１．予防・早期発見対策の推進

２．脳卒中に関する啓発の推進

３．急性期※5から回復期※6、維持期※7、在宅までの医療機関等の連携※8の推進

４．医療と介護の連携や人材育成等による在宅療養の推進

５．脳卒中に関する相談やその支援

６．脳卒中に関する情報提供

７．その他（　　）

※５　「急性期」とは、発症のため入院し、集中的な治療を行う必要がある時期のことです。

※６　「回復期」とは、食事・排泄・歩行などの基本的な身体機能を取り戻すために行うリハビリテーションが必要な時期のことです。

※７　「維持期」とは、在宅での生活復帰に向け、生活機能の質の維持・向上のためのリハビリテーションが必要な時期のことです。

※８　「医療機関等の連携」とは、患者の病状に応じた切れ目のない医療を提供するため、急性期・回復期など各時期に対応する医療機関が、診療情報や治療計画を共有することです。

４．「心筋梗塞等の心血管疾患」に関することについておたずねします。

【問９】　あなたは、心筋梗塞等の心血管疾患対策についてどのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

１．予防・早期発見対策の推進

２．心筋梗塞等の心血管疾患対策に関する啓発の推進

３．急性期※5から回復期※6、慢性期※9までの医療機関等の連携※8の推進

４．心筋梗塞等の心血管疾患に関する相談やその支援

５．心筋梗塞等の心血管疾患に関する情報提供

６．その他（　　）

※９　「慢性期」とは退院後、在宅でのリハビリテーションや定期的な外来受診が必要な時期です。

５．「救急医療」に関することについておたずねします。

【問１０－１】　あなたがお住まいの地域では、急病のときに適切な医療を受けられる救急医療の体制が整っていると思いますか。当てはまるものを１つ選んでください。

１．十分整っている　　２．ある程度整っている　　３．十分でない →【問１０－２】へ

【問１０－２】　「問１０－１」で「３．十分でない」と答えた方におたずねします。そのように考える理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

１．休日に対応している医療機関が少ない

２．夜間に対応している医療機関が少ない

３．救急車で運ばれる時、病院まで遠く時間がかかる

４．重篤な救急患者を受け入れる病院が少ない

５．その他（　　）

６．「小児医療・小児救急医療」に関することについておたずねします。

【問１１】　あなたが、小児医療について不安を感じる（感じた）ことについて、当てはまるものをすべて選んでください。

１．小児医療機関を決める際に誰に相談したら良いのかわからない

２．小児医療機関の選択肢が少ない　　３．小児医療機関への距離が遠い

４．小児医療機関が診療している時間内に受診できない

５．夜間や休日に子どもが病気になったとき、どこに受診したらよいかわからない

６．小児医療機関の医師や看護師に質問しづらいため不安が解消できない

７．子どもの病気や救急対応について学ぶ機会がない

８．子どもの病気について相談相手がいない　　９．その他（　　）

【問１２－１】　小児救急電話相談窓口※10（＃８０００）を知っていますか。

※10　小児救急電話相談窓口とは、休日・夜間における子どもの急な病気への対応や応急措置等を相談できる窓口です。

■受付時間　○平　日：午後７時から翌朝８時まで
○土曜日：午後３時から翌朝８時まで
○日曜日・祝日：午前８時から翌朝８時まで

■電話番号　＃8000　携帯電話・スマートフォンからもつながります。
（ダイヤル回線、IP 電話、光電話の場合は、☎096-364-9999）

１．知っているので、実際に利用したことがある

２．知っているが、利用したことはない

３．知らなかった

【問１２－２】　休日、夜間に子どもが急な病気になった場合、小児救急電話相談窓口（＃８０００）を利用しますか（したいと思いますか）。

１．利用する（したい）

２．利用しない（したいと思わない）　→【問１２－３】へ

【問１２－３】　「問１２－２」で「２．利用しない（したいと思わない）」と答えた方におたずねします。そう考える理由について、当てはまるものを**すべて**選んでください。

１．いつでも相談できる人がいるから

２．相談しても、電話では子どもの具合をうまく説明できない（と思う）から

３．相談しても、電話では回答が理解できない（と思う）から

４．相談だけでは、不安は解消されない（と思う）から

５．相談対象となる中学生までの子どもがいないから

６．その他（　　）

７．「かかりつけ医」のことについておたずねします。

【問１３－１】　あなたは病気になったとき、決まって診察してもらう医師（かかりつけ医※11）がいますか。

※11　「かかりつけ医」とは、日常的な診療や健康管理を行う、身近な医師のことです。専門的な治療や難しい手術などが必要な場合は、専門医の紹介などを行います。

１．いる　→【問１３－２】【問１３－３】へ　　２．いない　→【問１３－４】へ

【問１３－２】　「問１３－１」で「１．いる」と答えた方におたずねします。その医療機関は、病院※12ですか、診療所※13（医院・クリニック）ですか。

※12　「病院」とは、入院のための病床（ベッド）数が 20 床以上ある医療機関のことです。

※13　「診療所」とは、入院のための病床がない、又は病床数が 19 床以下の医療機関のことです。

１．病院　　２．診療所（医院、クリニック）

【問１３－３】　「問１３－１」で「１．いる」と答えた方におたずねします。かかりつけ医※11を決めている理由について、当てはまるものを**すべて**選んでください。

１．以前から家族が診察してもらっているから

２．往診※14や訪問診療※15してくれるから　　３．家から近いから

４．必要なときは専門医や専門病院を紹介してくれるから

５．どんな病気でも診察してくれるから

６．夜間や休日も診察してくれるから

７．幅広い知識や技術を持ち、治療に必要な医療機器を備えているから

８．病気の状態や治療法をわかりやすく説明してくれるから

９．患者の話をしっかりと聞いてくれるから

１０．健康相談や健康診断に応じてくれるから　　１１．その他（　　）

※14　「往診」とは、通院できない方の要請を受けて、医師がその都度、自宅等に出向いて診療を行うことです（不定期）。

※15　「訪問診療」とは、通院できない方に対して、自宅等に出向いて計画的に医師が診療を行うことです（定期的）。

【問１３－４】　「問１３－１」で「２．いない」と答えた方におたずねします。かかりつけ医※11を決めていない理由について、当てはまるものを**すべて**選んでください。

１．あまり病気をしないので、特にその必要性を感じないから

２．近くに医療機関はあるが、どの医療機関がよいか、わからないから

３．病気によって専門の病院で診察してもらいたいから

４．大きな病院で診察してもらいたいから

５．その他（　　）

８．「かかりつけ薬局（かかりつけ薬剤師）」についておたずねします。

【問１４】　病院や診療所（医院・クリニック）でもらった処方せんを持って行く、かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師※16を決めていますか。

※16　「かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師」とは、処方せんをもとに調剤してもらえ、日々の健康に関する相談もできる薬局、薬剤師のことです。特定の薬局・薬剤師を決めることで、どの医療機関・診療科を受診した場合でも、薬の重複や飲み合わせをチェックしてもらえます。

１．決めている　　２．決めていない

【問１５－１】　あなたは「お薬手帳」※17を持っていますか。

※17　「お薬手帳」とは、薬の服用情報などを記載しておき、医師や薬剤師に薬の重複や飲み合わせをチェックしてもらうための手帳です。院外処方の際に、薬局で希望すると無料でもらえます。

１．持っていて、普段から利用している

２．持っているが、ほとんど又は全く利用したことはない　　→【問１５-２】へ

３．持っていない　→【問１５-２】へ

【問１５－２】　「問１５－１」で「２．持っているが、ほとんど又は全く利用したことはない」又は「３．持っていない」と答えた方におたずねします。お薬手帳を利用しない又は持っていない理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

１．めったに薬を服用しないから

２．持ち歩くのが面倒で忘れやすく、利用しにくいから

３．いつも同じ薬が処方されるので、必要性を感じなかったから

４．薬局で勧められなかったから

５．お薬手帳のことを知らなかったから

６．利用方法がわからなかったから

７．料金がかかると思ったから

８．その他（　　）

９．「長期の療養場所」についておたずねします。

【問１６－１】　あなたが高齢になり、病気やケガなどで長期の療養（介護を含む）が必要になった場合、どこで療養したい（サービスを受けたい）と思いますか。当てはまるものを１つ選んでください。

１．自宅　→【問１６-３】へ

２．高齢者向け住まい（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス・軽費老人ホームなど）※18

３．介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）※19

４．診療所（有床診療所）

５．病院

６．その他（　　）

７．わからない

※18　「高齢者向け住まい」とは、高齢者の生活に配慮したつくりの建物で、日常生活に必要なサービスを受けることができます。介護保険サービスを利用するためには、事業者と個別に契約することが必要です。主なものは次のとおり。

①　「サービス付き高齢者向け住宅」とは、バリアフリー構造で、安否確認・生活相談などの見守りサービスを受けることができる住まいです。食事の提供などが受けられるものもあります。

②　「有料老人ホーム」とは、食事の提供、入浴・排せつなどの介助その他日常生活上の世話を受けることができる住まいです。

③　「ケアハウス・軽費老人ホーム」とは、無料又は低額な料金で、食事の提供、入浴・排せつなどの介助その他日常生活上の世話を受けることができる住まいです。

※19　「介護保険関係施設」とは、高齢者が入所して、介護保険サービスを受けることができる施設です。介護認定を受けた方が利用できます。主なものは次のとおり。

①　「特別養護老人ホーム」とは、日常生活に常時介護が必要で、自宅で介護を受けることが難しい方が利用できる施設です。

②　「介護老人保健施設」とは、病状が安定し、入院治療を必要としない方が、看護、介護、機能訓練や日常生活上の世話を受けながら、自宅への復帰を目指すための施設です。

③　「グループホーム（認知症対応型共同生活介護事業所）」とは、認知症の状態の方が５～９人で共同生活し、日常生活上の世話や機能訓練などを受けることができる住まいです。

【問１６－２】　あなたは、あなたの家族が高齢になり、病気やケガなどで長期の療養（介護を含む）が必要になった場合、どこで療養させたい（サービスを受けさせたい）と思いますか。当てはまるものを１つ選んでください。

１．自宅　→【問１６-３】へ

２．高齢者向け住まい（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス・軽費老人ホームなど）※18

３．介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）※19

４．診療所（有床診療所）

５．病院

６．その他（　　）

７．わからない

【問１６－３】　「問１６－１」又は「問１６－２」で、「１．自宅」と答えた方におたずねします。自宅で療養する場合に、特に充実を望むサービスをすべて選んでください。

１．医師、歯科医師による往診※14　　２．訪問診療※15、訪問歯科診療

３．訪問看護※21、訪問リハビリテーション

４．ホームヘルパーによる入浴、食事、清掃等の訪問介護

５．自宅で療養している人が日中又は数日間施設に入所等ができるサービス

６．買い物や通院などの外出を支援するサービス

７．自宅に食事を配達するサービス　　８．段差解消等の住宅改修

９．車椅子や介護ベッドなどを貸し出すサービス

１０．自宅療養に関する相談・助言のサービス　　１１．その他（　　）

１０．「医療と介護サービスの効率的な利用」についておたずねします。

【問１７】　少子高齢社会が進む中で、地域の限られた医療と介護サービスを効率的に利用するためには、医療機関への入院のほかに、在宅医療※2、在宅介護※3、生活支援サービス※20 など、多様なサービスを活用することが必要だと思いますか。

※20　「生活支援サービス」とは、民間企業、ＮＰＯ、協同組合、社会福祉法人、ボランティア等が提供する家事援助、外出支援、配食、高齢者の見守り等のサービスのことをいいます。

１．そう思う。
（すべての県民が今後も安心して医療や介護を受けるためには、多様なサービスを活用し、限りある医療・介護サービスを効率的に利用していくべきだと思う）

２．そうは思わない
（今後、医療に係る自己負担が増加するとしても、（これまでどおり）医療機関における入院等のサービスを受けることを中心に考えている）

３．分からない
（医療と介護を効率的に利用していく必要性は理解できるが、そのような環境が十分に整っていないと思う、又はどこに相談してよいか知らない）

４．その他（　　）

【問１８】　あなたは、お住まいの地域に、高齢者や認知症の方などの保健・福祉・医療の向上、介護予防のマネジメントなどを総合的に行う「地域包括支援センター」があることを知っていますか。

1．知っており、利用したことがある
2．知っているが、利用したことはない
3．聞いたことはあるが、詳しくは知らない
4．まったく知らない

１１．「人生の最終段階の医療」についておたずねします。

【問１９－１】　あなたは、回復が望めないことを医師から告げられた場合、人生の最期までどこで療養生活を送りたいと思いますか。当てはまるものを１つ選んでください。

1．いままで通った病院・診療所　　2．緩和ケア病棟・ホスピス※20
3．自宅（状態が悪化した場合の短期的な病院・緩和ケア病棟への入院も含む）
4．高齢者向け住まい（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス・軽費老人ホームなど）※18
5．介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）※19
6．その他（　　）　　7．わからない

※21　「緩和ケア病棟・ホスピス」とは、末期がんなどの重い病を抱える患者とその家族の身体や心の苦痛を和らげるための治療とケアを行う施設です。

【問１９－２】　あなたは、あなたの家族が回復が望めないことを医師から告げられた場合、人生の最期までどこで療養生活を送らせたいと思いますか。当てはまるものを１つ選んでください。

1．いままで通った病院・診療所　　2．緩和ケア病棟・ホスピス※20
3．自宅（状態が悪化した場合の短期的な病院・緩和ケア病棟への入院も含む）
4．高齢者向け住まい（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス・軽費老人ホームなど）※18
5．介護保険関係施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなど）※19
6．その他（　　）　　7．わからない

【問２０－１】　あなたは、自宅で最期を迎えることができると思いますか。

1．できる（理由：　　）
2．できない　→【問２０-３】へ　　3．わからない　→【問２０－３】へ

【問２０－２】　あなたは、あなたの家族が自宅で最期を迎えることができると思いますか。

1．できる（理由：　　）
2．できない　→【問２０-３】へ　　3．わからない　→【問２０－３】へ

【問２０－３】　「問２０－１」又は「問２０－２」で「２．できない」又は「３．わからない」と答えた方におたずねします。そのように考える理由について、当てはまるものすべて選んでください。

１．往診※14や訪問診療※15してくれる「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」がいない

２．訪問看護※22の体制が整っていない

３．訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の体制が整っていない

４．24 時間相談にのってくれるところがない

５．介護してくれる（できる）家族がいない　　６．家族に負担がかかる

７．症状が急に悪くなったときの対応に不安がある

８．症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安がある

９．自宅に最期を迎える環境（手すり、スロープ、ベッド等）が整っていない

１０．経済的負担が大きい　　１１．その他（　　）

※22　「訪問看護」とは、看護師等が自宅などの生活の場へ訪問し、看護ケアの提供や自立への援助など、療養生活を支援するサービスです。

【問２１－１】　将来、あなたが治る見込みのない病気になり、判断能力や意識がなくなった場合に、自身の延命治療※23を希望しますか。

※23　「延命治療」とは、病状や衰弱が進み回復の見込みがなく、やがて死を迎える段階で、いろいろな技術により生命の維持を図ることです。
例：口から食べることができなくなったら、栄養チューブ（胃管）を鼻に挿入する。
呼吸がとまったら、人工呼吸器の装置等を装着する。
心臓がとまったら、電気ショックや心臓マッサージをする。

１．希望する　　２．希望しない（理由：　　）

３．わからない

【問２１－２】　将来、あなたの家族が治る見込みのない病気になり、判断能力や意識がなくなった場合に、その家族に対し延命治療※23を希望しますか。

１．希望する　　２．希望しない（理由：　　）

３．わからない

【問２２－１】　あなたは、判断能力や意識がなくなった場合に備えて、人生の最終段階の医療（延命治療※23を含む）に関する意思表示の手段（記録や書類）を準備していますか。

１．家族等とも相談し、準備している　→【問２２－２】へ

２．家族等とは相談していないが、準備している　→【問２２－２】へ

３．必要だと思うが、まだ準備していない　→【問２２－２】へ

４．考えたことがない

５．意思表示するつもりはない（理由：　　）

【問２２－２】　「問２２－１」で「１．家族等とも相談し、準備している」、「２．家族等とは相談していないが、準備している」又は「３．必要だと思うが、まだ準備していない」を選んだ方におたずねします。
その手段について、当てはまるものをすべて選んでください。

１．エンディングノート※24　　２．生前指示書（家族への手紙など）※25

３．その他（　　）

※24　「エンディングノート」とは、自分に関する情報、お葬式やお墓、財産など死後に必要な情報や終末期や死亡後の希望等を書き、遺された家族への引継を行えるようにする書面のことです。

※25　「生前指示書」とは、自分が意思決定できなくなった時等に備えて、終末期をどう過ごしたいのか、どういう医療を受けたいのか、受けたくない医療は何か、最期は延命治療を希望するのか等明確に記載する書面のことです。

１２．「認知症に関する医療」についておたずねします。

【問２３】　将来、あなたに認知症の疑いがあって、はじめて認知症の診断を受ける場合、何を重視して医療機関を選びますか。当てはまるものをすべて選んでください。

１．かかりつけ医など、日頃から診療を受けている医療機関

２．自宅に近い医療機関　　３．認知症の専門医がいる医療機関

４．認知症診断のための検査機器等を整えている医療機関

５．認知症疾患医療センター※26　　６．様々な診療科がある大きな病院

７．自分では医療機関の選び方がわからないので、相談窓口等に相談する

８．その他（　　）

※26　「認知症疾患医療センター」とは、認知症の早期発見、診療体制の充実、医療と介護の連携強化、専門医療相談の充実を図るため、県又は熊本市が指定するものです。

【問２４】　あなたが認知症の治療を継続的に受ける必要がある場合、認知症医療について、どのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

１．認知症の専門医や専門医療機関の充実

２．身近なかかりつけ医※11による継続的な診療

３．在宅で療養するための訪問診療※15や訪問看護※22

４．介護保険施設※19において受けられる健康管理、リハビリ等の医療的支援の充実

５．症状に応じて、かかりつけ医から認知症の専門医療機関や介護サービスにつなぐ連携体制

６．患者やその家族の抱える経済的・心理的・社会的な不安に関する相談・支援体制

７．その他（　　）

１３.「精神保健福祉及び精神医療」に関することついておたずねします。

【問２５】　あなたは、精神保健福祉及び精神医療[※27]に関する施策について、どのような取組みに力を入れてほしいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

※27　「精神保健福祉及び精神医療」とは、精神疾患の予防や精神的な健康を保持することや、精神障害者の医療や社会復帰など自立のために必要な支援を行うことをいいます。

１．精神疾患や精神障がい者に関する正しい知識の普及啓発

２．心の悩みや精神疾患に関する相談体制の充実

３．うつ病等の精神疾患の早期発見・早期治療

４．精神障がい者の人権に配慮した適正な入院時の医療や処遇の確保

５．入院している精神障がい者の退院促進や退院後の地域生活の支援

６．休日や夜間における精神科救急医療体制（相談窓口・診療体制）の整備

７．自殺を未然に防止するための対策や自死遺族の支援

８．アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症に関する対策

９．大規模災害の被災者に対する心のケア

１０．ひきこもり状態にある人の社会参加に向けた支援

１１．その他（　　）

１４.「臓器提供」についておたずねします。

【問２６】　臓器提供意思表示カード等（被保険者証や運転免許証、マイナンバーカード等に意思表示欄があるものを含む。）について、当てはまるものを１つ選んでください。

１．カード等を持っており、自分の意思を記入している

２．カード等を持っているが、自分の意思を記入していない

３．カード等のことは知っているが、持っていない

４．カード等のことは知らない

※　ご協力ありがとうございました。これで質問は終わりです。同封の返信用封筒に入れて、**３月１０日（金）までにポストに投かん**していただきますようお願いします（切手不要）。

（最後に）本県の保健医療に関する施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。